



TITLE:

大衆性の低減を導く実践行為についての探索的研究(Dissertation_全文)

AUTHOR(S):

伊地知, 恭右

CITATION:

伊地知, 恭右. 大衆性の低減を導く実践行為についての探索的研究. 京都大学, 2013, 博士(工学)

ISSUE DATE:

2013-09-24

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k17879>

RIGHT:

大衆性の低減を導く実践行為についての探索的研究

伊地知 恭右

— 目 次 —

第1章 序章	1
1.1. 本研究の問題意識	1
1.2. 本研究の目的	2
1.3. 本論文の構成	3
第2章 既往研究と本研究の方針.....	7
2.1. 大衆性とその社会的影響	7
2.2. 利他的行動	8
2.3. 観光行動	11
2.4. 本研究の方針	13
第3章 大衆性抑制と実践行為との関係に関する推論.....	16
3.1. 大衆性と「書籍通読」との関係に関する推論.....	16
3.2. 大衆性と「利他的行動」との関係に関する推論.....	19
3.3. 大衆性と「観光行動」の関係に関する推論.....	20
第4章 大衆性抑制と書籍通読に関する検証.....	26
4.1. 実験対象者・手順	26
4.2. 調査項目	28
4.2.1. 各心理尺度・指標の構成	28
4.2.2. 各心理尺度・指標の基本統計量	34
4.3. 書籍通読が大衆性に及ぼす影響.....	40
4.3.1. 大衆性低減仮説の検証	40
4.3.2. 書籍通読効果の規定要因	44
4.4. 考察	47
4.4.1. 「代表的日本人」通読による持続的効果の検証	47
4.4.2. 幼少期の生活環境が「代表的日本人」通読効果に及ぼす影響	47
4.4.3. 良書波及による大衆性抑制の可能性	48
第5章 大衆性抑制と利他的行動に関する検証.....	51
5.1. 実験対象者・手順	51

5.2. 調査項目	51
5.2.1. 各心理尺度・指標の構成	51
5.2.2. 各心理尺度・指標の基本統計量	57
5.3. 利他的行動の経験が大衆性に及ぼす影響	60
5.3.1. 大衆性低減仮説の検証	60
5.3.2. 大衆性低減効果の検証	61
5.4. 考察	67
 第6章 大衆性抑制と観光行動に関する検証	69
6.1. 実験対象者・手順	69
6.2. 調査項目	70
6.2.1. 各心理尺度・指標の構成	70
6.2.2. 各心理尺度・指標の基本統計量	72
6.3. 観光時の意識と大衆性の関係	73
6.4. 考察	76
 第7章 実践行為における大衆性抑制施策の展望	79
7.1. 大衆性の形成過程と抑制過程からの示唆	79
7.2. 実践行為を通じた段階的大衆性低減施策	80
7.3. 実践行為を通じた強制的な大衆性低減施策	83
 第8章 結論	88
 付 録	
1. 書籍通読に関する検証に用いた調査票	
2. 利他的行動に関する検証に用いた調査票	
3. 観光行動に関する検証に用いた調査票	

第1章 序章

本章では、本研究の背景として問題意識を整理し、本研究の目指すものとして目的を明示するとともに、本論文全体の構成を説明する。

1.1. 本研究の問題意識

明治維新に端を発する日本の近代化は、特に戦後を境に我々の生活に大きな変化をもたらした。ここに言う近代化とは、大きく産業化と民主化からなるものと言われている¹⁾。前者は、一般に技術的発達と営利の追及を表しており、我が国において、そうした産業化を経て、著しい経済的発展や物質的豊かさが実現されてきたことは周知の事実である。一方、後者は、一般に国民への権力の帰属化を表しており、そうした民主化を経て、政治的な平等や社会福祉の充実が図られてきたこともまた大方の認めるところである。土木の分野においても、時代の変遷を先導、支持すべく、近代化というストーリーの中で社会基盤整備の着実な進展を遂げてきた。明治前半期における治山治水事業は人々の暮らしに安全と安定をもたらした、戦後の鉄道・道路をはじめとする社会基盤整備は我が国の著しい経済成長をもたらした。

しかし、社会の変化が一それが急速な変化であれば尚更—もたらすものが恩恵だけであることは稀であり、それ相応の弊害を内包しているであろうことは想像に難くない。事実、このような経済的発展や社会的平等の過剰なばかりの追及がもたらした“ほころび”は、今や我が国の隅所に確認することができる。そして、土木計画の対象とする問題、例えば違法駐輪問題や交通渋滞等の種々の交通問題^{2),3),4)}をはじめ、総論賛成・各論反対等の合意形成問題^{5),6)}なども、この近代化に付随する問題の表出であろうと思われるのである。例えば、近代化の流れの中で、経済性や効率性、機能性のみを重視した結果、我が国の国土や都市・地域の至る所で、無個性・画一的な景観が創出され、伝統ある良質な景観や街並みの喪失が深刻の度を増しているように見受けられる^{7),8)}。ただし、ここに言う景観破壊とは、無論外見上の問題だけに留まらない。寧ろ、景観なるものが地域に住まう人々の生活景であり、地域や自然との関わり合いにおける様々な人間的営為と密接に関係するものである以上、今日の景観破壊なるものが暗示するところは、人々の地域コミュニティに対する侮蔑であり、風土に対する暴挙であり、更には国土に対する反逆であると言っても過言ではないであろう。ゴミのポイ捨てや放置駐輪などによる景観破壊はその卑近な例であると言える。

ここで、これら社会問題はそもそも個人ひとり一人の態度や行動と深く関わり合うという点においては共通すると言って差し支えないものと思われる。この点を鑑みれば、現在深刻化しつつある種々の社会問題の背景には、個人ひとり一人において、ものごとの善悪を判断する意識、いわゆる道徳心が低下している可能性⁹⁾が少なからず懸念されるところである。

このような近代化のもたらす弊害については、これまで哲学的論考の中心課題であり続けてきたが^{9),10),11),12),13)}、その中でも、近代に見られる道徳的頹廢の根源に、「大衆人」なる存在のあることが古くより論じられてきた。特に、スペインの哲学者オルテガ（1883-1955）はその著書「大衆の反逆」¹⁴⁾において、近代大衆社会にみられる価値喪失の中に、人間的生の否定や非道徳が胚胎していることを鋭い洞察を持って指摘している。すなわち、オルテガは、産業化と民主化によって牽引される近代社会において、圧倒的に増大した人間的生の可能性を前にしながら、一切の価値を喪失した大衆人が自らの生の決断をなすことができないでいることを鋭い洞察を持って看破し、そこに、人間的生の危機として、大衆人の自己の生に対する否定的な屈折した態度を描写するのである。

オルテガの大衆論の特徴は、大衆を数量的な概念あるいは政治的・社会的階級として捉えるのではなく、万人に共通する「心理的事実」として捉えようとしたところにある。この点において、オルテガの論ずる大衆像は時代を超えた1つの普遍的な精神構造を提示したものであり、現代社会において、前述したような土木に関わる様々な問題を検討する上でも含意するところが少なくないものと思われる。この認識の下、羽鳥ら¹⁵⁾の先行研究では、オルテガ「大衆の反逆」に基づいて、個人の大衆性を測定する心理尺度を作成するとともに、個人の大衆性がどのような社会的影響を及ぼすかについて検討がなされている^{16),17)}。その結果、景観問題と公共事業を巡る合意形成問題について、大衆性が否定的な影響を及ぼす傾向が示され、これらの問題の本質的課題の一つが、個人の大衆性という心理的傾向性にあることが示唆されている。

以上の先行研究については第2章において詳述するが、大衆人なるものが、近代における弊害の一端を担うどころか、その根源に関わっているとすれば、文明の基礎を創り、近代の創出に相当程度寄与してきた土木工学において、大衆性なる個人の非道徳的な心的傾向性を認識し、さらにそうした心的傾向性を抑制する手段を模索するのは、当然の責務であると言えよう。即ち、「大衆性の低減・抑制」のための取り組みが求められているのである。

1.2. 本研究の目的

以上の認識の下、本研究では今後、社会における大衆性抑制施策の展開を期するための基礎的な研究として、大衆性の低減を導く方途について探索的に研究することとする。

これにあたり、前述のとおり、近代化とそれにとまなう人々の道徳的頹廢、さらには個人の大衆化を、諸問題の根源的な一因として捉える以上、“社会的行為”¹⁸⁾の中に、その処方箋を見出すことが重要であるのではないかと考えられる。さらに、近代化という時間と人間の営みの帰結であるところの現代における“社会的な実践行為”¹⁹⁾の中にこそ、この大衆性抑制施策の在り処を見出し、その意義付けと方向性を与えることが必要であろうと思われるところである。よって、本研究では、大衆性の低減を導く方途について「実践行為」について着目し、種々の実験や調査によってこれを探索的に研究するこ

とする。

それでは、ここで扱う実践行為としては、どのようなものが適切と考え得るであろうか。本研究においては、3つの実践行為「良書の通読」と「利他的行動」および「観光」に着目することとした。

それぞれの実践行為に着目した「理由」については、第3章の推論に詳述するが、各行為を抽出するに当たり共通している視点とは、実践行為における「大衆性と対置する存在」である。つまり、「良書の通読」においては、その良書に含まれる「貴族性」、及び歴史的批判に耐えながらあるべき価値基準の指針を示す「古典」という要素を、これに値する要素として見出している。また、「利他的行動」においては、その行動を規定する心的傾向であるところの「利他性」である。そして、「観光」においては、特に大衆性抑制の「過程」に着目することとし、特に自己閉塞性の性質によって妨げられる可能性の高い「葛藤」に着目している。

本研究では、以上の複数の実践行為と大衆性およびその低減とのその関わりを分析・整理・解釈することを通して、大衆性抑制施策に関する基礎的な知見と取りまとめ、その展開に向けた新たな知見を得ることとしたい。

1.3. 本論文の構成

本論文の構成を図1-1に示す。本章（序章）において論文全体にかかる問題意識と、本論文執筆の目的および構成を示す。第2章では、第3章以降の調査・研究に関する既往研究を整理するとともに、これらを参照した上で本論文の目的と整合した上で研究方針を明示する。続いて、第3章においては、第2章での知見・立場を踏まえた上での本研究を進める上で核となる3つの推論を展開する。この推論を受け、第4章、第5章、第6章において、それぞれ仮説を措定した上で検証を行う。最後に、第7章でこれらの推論及び検証結果を総括した上で、今後の大衆性抑制施策の展望を示し、第8章で全体をとりまとめる。

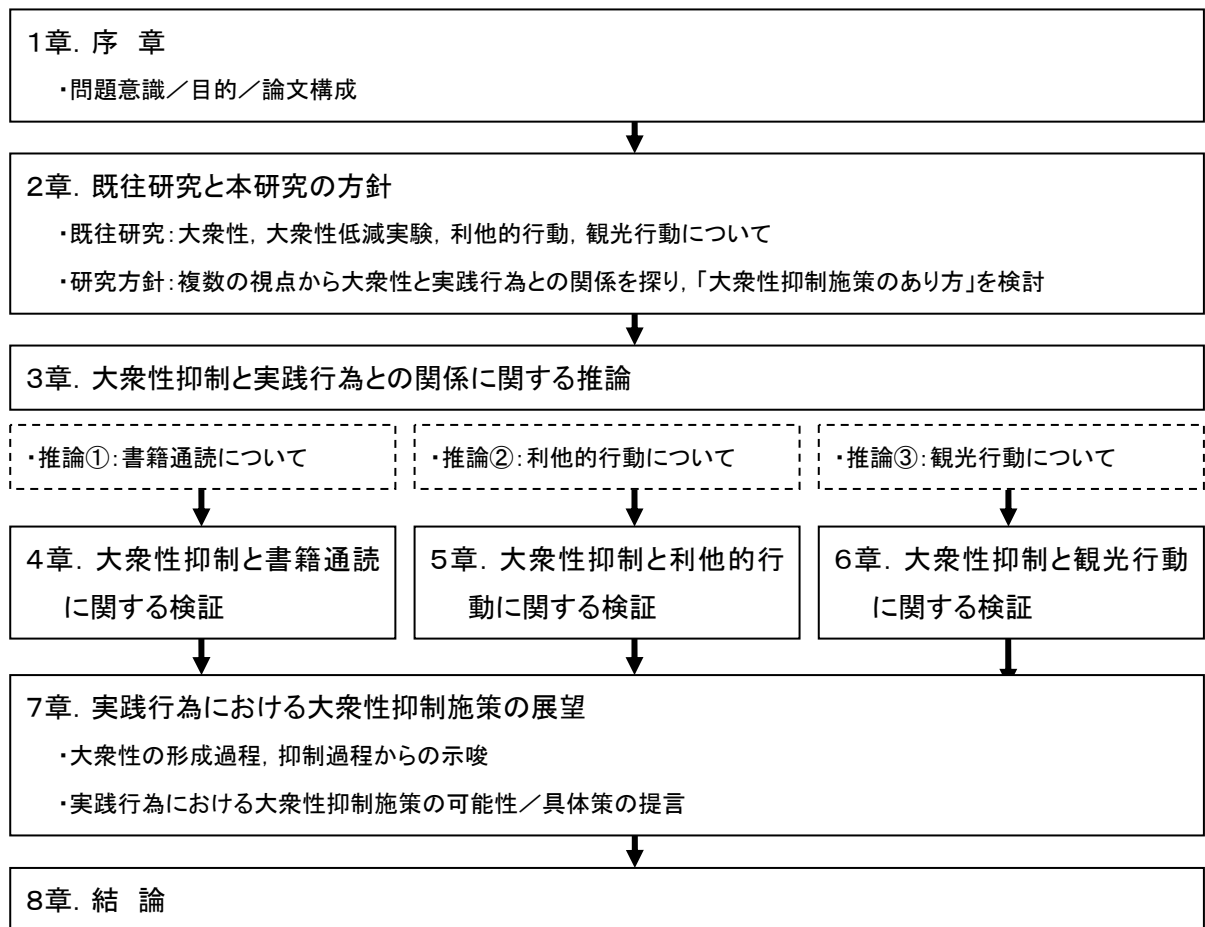


図 1-1 本論の構成

第 1 章脚注

- [1] 土木計画にまつわる数多くの論文・書籍の中において、直接に「道德心の低下」を論じているものは筆者らの知る限りでは見当たらない。しかし、例えば藤井²⁾が交通問題の漸次的且つ本質的解決にあたり、人々の「公共心」を強く重視していることは、現在の一般の公共心は「向上すべきである」という認識の一つの表出であり、個人の社会的価値判断（良い悪い）の基準である「道德心」の「公」の場における在り方こそが、「公共心」であるとするならば、その背景には「道德心の低下」への危惧があると解釈できる。筆者においては、これを「道德心の低下への懸念」と表現したものである。
- [2] M・ウェーバーは、「行為」を行動とは区別し、「当事者個人が主観的な意味を付与している動作や態度」と定義し、「社会的行為」については、「行為者または諸行為者によって思念された意味にしたがって他者の行動に関係させられ、かつその経過においてこれに方向づけられている行為」と定義している¹⁸⁾。
- [3] パースのプラグマティズムの格率¹⁹⁾を援用するならば、本研究は現代を生きる人々が他者との関係や個人および社会の歴史的背景を基に選択している日々の「行為」の中でも、

「行為自体」および「行為の効果」が、行為を行う個人や関係するものごとに影響を及ぼすであろうと考えられる「行為」にこそ焦点をあてようと試みるものである。そのため、「社会的行為」からさらに踏み込んだ「社会的な実践行為」という用語を用いることとした。

第1章参考文献

- 1) 西部 邁：大衆の病理—袋小路にたちすくむ戦後日本—，NHK ブックス，1987.
- 2) 藤井聡：TDM と社会的ジレンマ—交通問題解消における公共心の役割—，土木学会論文集，No.667/IV-50，pp.41-58，2001.
- 3) 森川高行，田中小百合，萩野成康：社会的相互作用を取り入れた個人選択モデル—自動車利用自粛行動への適用—，土木学会論文集，No.569/IV-36，pp.53-66，1997.
- 4) 三木谷智，羽鳥剛史，藤井聡：心理的方略による放置自転車削減施策に関する実証的研究—東急電鉄東横線都立大学駅における取り組み—，第37回土木計画学発表論文集，2008.
- 5) 藤井聡：総論賛成・各論反対のジレンマ，In：土木学会誌編集委員会（編）：合意形成論—総論賛成・各論反対のジレンマ—，土木学会，pp.31-45，2004.
- 6) 藤井聡：「決め方」と合意形成：社会的ジレンマにおける利己的動機の抑制に向けて，土木学会論文集，No.709/IV-56，pp.13-26，2002.
- 7) 田中尚人，柴田久（編）：土木と景観—風景のためのデザインとマネジメント—，学芸出版，2007.
- 8) 柴田久，土肥真人：目的別研究系譜からみた景観論の変遷に関する一考察，土木学会論文集，No.674/IV-51，pp.99-111，2001.
- 9) セーレン・キルケゴール：現代の批評（1846年刊），キルケゴール 死に至る病・現代の批評（梶田啓三郎 訳），中央公論新社，2003.
- 10) ニーチェ：権力への意思（上・下），ニーチェ全集 12（原佑 訳），ちくま学芸文庫，1993.
- 11) ハイデッガー：技術論（1962）ハイデッガー選集 18，（小島威彦・アルムブルスター共訳），理想社，1965.
- 12) 山田竜作：大衆社会とデモクラシー—大衆・階級・市民—，風行社，2004.
- 13) Tuttle, H. N. : The crowd is untruth: The existential critique of mass society in the thought of Kierkegaard, Nietzsche, Heidegger, and Ortega y Gasset, New York: Peter Lang, 1996.
- 14) ホセ・オルテガ・イ・ガセット：大衆の反逆（1930），（神吉敬三 訳），ちくま学芸文庫，1995.
- 15) 羽鳥剛史，小松佳弘，藤井聡：大衆性尺度の構成—“大衆の反逆”に基づく大衆の心的構造分析—，心理学研究，Vol.79，No.5，pp.423-431，2008.
- 16) 羽鳥剛史，小松佳弘，藤井聡：政府に対する大衆の反逆—公共事業合意形成に及ぼす大

衆性の否定的影響についての実証的研究―，土木計画学研究・論文集，Vol.25,pp.37-48，2008.

- 17) 小松佳弘，羽鳥剛史，藤井聡：大衆による風景破壊―オルテガ「大衆の反逆」の景観問題への示唆―，景観デザイン論文集，No.6，pp.23-30，2009.
- 18) マックス・ウェーバー：社会学の基礎概念（阿閉吉男・内藤莞爾訳），角川文庫，1987.
- 19) 桑原武夫：世界思想教養全集〈第14〉プラグマティズム，河出書房新社，1963.

第2章 既往研究と本研究の方針

本章では、本研究の背景となる、または本研究に関係する既往研究を整理・解釈し、必要に応じて新たな視座を加えつつ、研究の方針を得ることとしたい。

2.1. 大衆性とその社会的影響

本節では、オルテガの大衆論について述べた上で、オルテガの論ずる大衆性とその社会的影響に関する先行研究について説明することとしよう。第1章で述べたように、オルテガの大衆論の特徴は、大衆を数量的な概念あるいは政治的・社会的階級として捉えるのではなく、万人に共通する「心理的事実」として捉えようとしたところにある¹⁾。オルテガ「大衆の反逆」によれば、

「大衆とは、善い意味でも悪い意味でも、自分自身に特殊な価値を認めようとはせず、自分は『すべての人』と同じであると感じ、そのことに苦痛を覚えるどころか、他の人々と同一であると感じることに喜びを見出しているすべての人のことである。
(p.17)」

さらに、このような大衆に対置するものとして、オルテガの論ずる「貴族」あるいは「選ばれた人間」とは、

「われこそは他に優る者なりと信じ込んでいる僭越な人間ではなく、たとえ自力で達成しえなくても、他の人々以上に自分自身に対して、多くしかも高度な要求を課す人のこと(p.17)」

と論じている。すなわち、オルテガにとっての大衆は現状に満足しきった「平均人(p.15) (*average man*)」、「凡俗な人間(p.25) (*vulgar*)」であり、この意味において「選ばれた人間(p.17)」あるいは「高貴な人つまり努力の人(p.92)」とは区別されている。このように「大衆」と「選ばれた人間」との区別を人間の心理的類型による区分とする点で、オルテガの大衆観は、大衆を社会的・政治的階級として捉えようとする貴族主義的な見方とは異なるものと言える。むしろ、オルテガは、知識人やエリートの中に精神の凡俗化する傾向を見出し、このような大衆人によって支配される時代を「慢心しきったお坊ちゃんの時代(p.143)」と呼んだのである。

このように、オルテガの大衆批判はあくまでも人間に存する心理的類型を問題提起したものである。この点において、オルテガの主張する大衆像は時代を超えた1つの普遍的な精神の構造を提示したものであり、現代社会においても含意するところが少なくないものと思われる。この認識の下、先行研究では、以上のオルテガの定義する心理的事実としての大衆概念に着目し、オルテガの「大衆の反逆」における大衆の心理的描写に基づいて、個人の大衆性を表す質問項目を作成し、大衆性についての心理尺度を構成している²⁾。そして、この先行研究によって、大衆性が、「傲慢性」と「自己閉塞性」という2つの因子から構成されることが示されている。ここに、傲慢性とは「ものの道理や

背後関係はさておき、とにかく自分自身には様々な能力が携わっており、自分の望み通りに物事が進むであろうと盲信する傾向」を表している。一方、自己閉塞性とは「自分自身の外部環境からの閉塞性」を表している。すなわち、オルテガの論ずる大衆人は、傲慢性なる外向的性質と自己閉塞性なる内向的性質という一見相矛盾するとも言える心的特性を、一個人の内に存立させているという極めて屈折した存在であることが示唆されたものと言える。さらに、幼少期の生活環境が大衆性の形成に及ぼす影響についても検討されており、特に幼少期における家庭内のしつけやコミュニケーションが不十分であった場合や、地域との連帯が希薄であった場合、個人の自己閉塞性が増進する傾向にあることが示されている。

以上の心理尺度を用いて、個人の「大衆性」がどのような社会的影響を及ぼすかについて、特に土木計画に関わる景観問題及び公共事業を巡る合意形成問題を対象として検討が加えられている。まず、景観問題に関して、傲慢性の高い個人は、伝統ある景観や地域の風土を軽視し、自己利益確保のためには、そうした景観や風土を犠牲にすることを厭わない傾向にあることが、また、自己閉塞性の高い個人は、景観や風景に興味を置かない傾向にあることが、それぞれ調査データから示されている³⁾。この結果より、総じて大衆性の高い個人は、良質な風景を軽視し、破壊する傾向にあることが示されている。また、合意形成問題に関して、大衆性の高い個人は、行政活動への直接的な関与を強く要求する一方で、政府・行政の公共事業の必要性を認知せず、さらに、行政を信頼しない傾向にあることが示されている。この結果は、人々が「大衆化」することにより公共事業に対する合意形成が困難となり得ることを暗示するものである⁴⁾。

以上のように、先行研究において、個人の「大衆性」が景観問題と合意形成問題について否定的な影響を及ぼし得る可能性が示されている。ただし、人々の「大衆化」がもたらす社会的影響は、これら特定の問題に留まらず、むしろ、社会の至る所で様々な問題を引き起こしていると考えて差し支えないものと思われる。なぜなら、前述したように、個人の「大衆性」が万人に共通する普遍的な心的傾向である以上、人々の「大衆化」は、家庭や職場、あるいは地域における様々な判断や行動に何らかの影響を及ぼすものと考えられるためである。言い換えれば、上記の先行研究は、近代化が進展した可能性が危惧される現代社会において、より増長されてきたと考えられる人々の「大衆化」によって生ずる様々な社会的影響の一側面を浮き彫りにしたものであり、この結果は、「大衆化」による問題が、社会の至るところで深刻の度を増している可能性を暗示するものといえるだろう。

2.2. 利他的行動

大衆性に関する先行研究では、「大衆性」と「利他性」の間に負の相関のあることが示唆されている²⁾。そこで、本節においては、この利他性に着目し、利他性を主な原因とする行動であるところ利他的行動について、既往研究を整理することとする。

個人の利他的行動に関する研究、あるいはボランティア活動に焦点をあてた研究は、

様々な分野において数多く蓄積されている 5),6),7),8),9),10),11),12),13),14),15),16)。

例えば、坂野ら⁵⁾は、ボランティア活動への参加動機と満足感の関連について個人属性や諸心理要因を用いた分析を行い、ボランティアにおける便益を明示していくことの重要性を論じている。また、塚本ら⁸⁾は、環境ボランティア活動を「決定への参加」と「活動への参加」に大別すると同時に、参加する個人のリスク（費用）やコミットメントの度合いに着目した段階分けを行い、参加・活動に関する多様な考え方を考慮した分析をしたうえで、円滑に活動を推進する上で個人属性による棲み分けが有効である可能性を示している。これらは、ボランティア活動が社会的に意義深いものであるという認識の下、この種の活動が継続的に、かつ人的、場所的に拡大していくことを目指すための戦略を探索するものであると言える。また、羽鳥・藤井⁹⁾は進化論の視点から、利他的行動の創発に関する分析を行っており、集団淘汰圧が存在するという条件の下では、コミュニティ内において利他的行動が自発的に創発されるという可能性を理論的かつ数理的に示している。

このような、利他的行動、あるいはボランティア活動に関する研究は、少なくとも次のような認識において進められていると言えよう。

- ・ 利他的行動は存在し、伝播し得るものである。
- ・ 利他的行動は個人およびその周辺に対して、心理的にも社会的にも影響を及ぼし得るものである。

そして、このような認識の理論的な背景は、態度行動変容施策の理論的背景である社会的ジレンマの知見においても、確認されているところであり¹⁷⁾、本研究の目的であるところの大衆性の低減を考えるうえで、重要な示唆を与えるものであると考える。

最後に、ボランティア活動への参加動機と満足感について、感情的安寧や自尊心の向上といった Clary らの測定項目を用いた坂野らの研究⁶⁾については、ボランティア活動の参加動機について示唆が多いことから、その調査項目（Clary により開発され、坂野らによって日本での妥当性・有用性が確認された VFI⁶⁾）と構造方程式モデリング結果を掲載する。

表 2-1 Volunteer Function Inventory (VFI) の各項目 (坂野ら⁶⁾を基に作成)

感情的安寧 (protetive)
<ul style="list-style-type: none"> ・私がどんな嫌な気分ときでも、「ボランティア活動」に携わることによって、そのことを忘れさせてくれる ・ボランティア活動をすることで、あまりさみしさを感ぜないで済む ・ボランティア活動を行うことで、他の人よりも恵まれていることへの罪悪感がいくぶんやわらぐ ・ボランティア活動は、自分が直面している個人的な問題を解決するのに役立つ ・ボランティア活動は、煩わしいことから逃避するのに、よい方法だ
利他主義 (values)
<ul style="list-style-type: none"> ・私は、自分によりも恵まれていない人々のことが気になる ・私は、自分が直接ボランティアで関わっている人たちのことが、とても気になる ・自分は、困っている人々をみると気の毒に思う ・自分は、他の人を助けることを大切に思っている ・自分は、自分のためになることならやれる
職業上の成功 (career)
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動は、私がなりたい職業に挑戦するきっかけをつくってくれる ・ボランティア活動は、仕儀とや職業に役立つと思われるあ新たな出会いの場となる ・ボランティア活動は、また別の職業を探す機会を与えてくれる ・ボランティア活動は、自分が選んだ職業で成功することに役立つ ・ボランティア活動の経験は、履歴書を書くにいい印象を与える
社会的つながり (social)
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の友達、ボランティア活動に参加している ・友人は、私がボランティア活動に参加することを望んでいる ・私の知っている人々は、地域での助け合いに関心が高い ・親しい人の中に、地域での助け合いをととても大切にしている人がいる ・ボランティア活動は、自分がよく知っている人にとって重要な活動になっている
知識の習得 (understanding)
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を行うことで、自分が取り組んでいることをさらに深めることができる ・ボランティア活動によって、ものごとについての新たな考え方が得られる ・ボランティア活動からは、直接的な体験を通して、さまざまなことが学べる ・ボランティア活動によって、自分がいろんな人と付き合っていく方法が学べる ・ボランティア活動によって、自分の長所を見出すことができる
自尊心の高揚 (enhancement)
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動は、自分の大切さを気づかせてくれる ・ボランティア活動は、自尊心を高めてくれる ・ボランティア活動は、自分が必要とされていることを実感させてくれる ・ボランティア活動は、自分が好ましい人間であることを感じさせてくれる ・ボランティア活動は、新しい友達をつくる手段になる

表 2-2 ボランティア活動から得た利益尺度と満足度尺度 (坂野ら⁶⁾を基に作成)

ボランティア活動から得た利益尺度
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動によって、自分の価値を表現できた ・ボランティア活動によって、達成感を得た ・ボランティア活動によって、社会についての新しいことを学べた ・ボランティア活動が高く評価された ・ボランティア活動によって、将来役に立つ技術を学ぶことができた
ボランティア活動満足感尺度
<ul style="list-style-type: none"> ・全体として、ボランティア経験は私にとって非常に有意義である ・ボランティアの役割によって与えられる責任に対して、個人的に非常に満足している ・ボランティア活動は、私にとって何も得るものはないと思う

※score=7 (まったくあてはまらない～非常にあてはまる)

2.3. 観光行動

「人はなぜ観光するのか」という、観光動機の問題は観光心理学の中で中核的なテーマとされている¹⁸⁾吉川。

主に佐々木の「観光旅行の心理学」¹⁹⁾の中から本研究の目的意識に関係するものを整理したい。

佐々木は旅行者のモチベーションにおける一般的特性を①緊張解消（緊張を解消したい）、②娯楽追求（楽しいことをしたい）、③関係強化（人間関係を深めたい）、④知識増進（知識を豊かにしたい）、⑤自己拡大（自分自身を成長させたい）といった5つに大別し²⁰⁾、例えば観光政策審議会の1995年答申での観光の定義における「触れあい、学び、あそぶ」とう観光目的は、それぞれ「触れあい」が③に、「学び」が⑤に、「あそぶ」が①・②にてはまられるとしている¹¹⁾。

また、佐々木はより根源的なアプローチでは、フロイトにおけるイド（またはエス）の次のような概念を援用し、観光欲求が生まれる起点を「快」欲求であるとしている。

人間のパーソナリティの構造はイド、自我、超自我から成り…（中略）

イドは無意識的で本能的な心理的エネルギー（その代表は性衝動、攻撃性など）を生み出して個人の欲望や衝動の源泉になり、また欲求を解消するために「苦痛を避けて快楽を追求する」という「快楽原理」に従って活動する。

さらに、この「快」感情もその対象に対する「慣れ」によって変化（減少）することから、さらなる「新奇性」を求めると言う。これ故に、日常を言う要素を加えれば、概して「日常生活状況では満たされない「快」欲求を、日常生活圏の外部で新奇な経験をすることでみたしたいとする…それが観光」ということになるのである。

佐々木は、自己の「変化」についても言及している。本研究に関わる興味深い記述であることから、その文章をそのまま記載する（棒線は筆者による）。

観光旅行を通して、従来の「自己」から脱皮し、一種の「ヘンシン（変心、変身）」を図ることもできる。たとえば「広くて多様な外部社会を知り、自己の位置づけや評価が変わる」という自己相対化を促進させる意味があるし、このことは同時に、「外部社会に何を求めるか」ということだけでなく「外部社会に対して何ができるか」ということを考えさせる契機になるだろう。

自己中心的な性質の強い動機で始めたとしても、その観光旅行の帰結として、広い外部社会との関わりのなかで「自己」を再認識することができれば、それは、自己と外部社会の両方にとって意義にあることである。さらに、そうした新しい自己認識の結

果が旅行場面を離れた日常生活のなかでも活かされれば、「井のなかの蛙」的な狭い知識や見解にとらわれない行動につながり、人間的成長をもたらすことにもなるだろう。

同様の認識は、内閣総理大臣官房審議室の「国民生活における観光の本質とその将来像」²²⁾においても確認できる。これも基本的には佐々木の解釈と同様であるが、より広い視野からの記述となっているために、今後の参照のためにそのまま記載する（棒線は筆者による）

(1) 人間生活は日々に循環であるが、それが単調な繰り返しではなく、活動－休息－、緊張－弛緩、勉強－遊び、思考－情操といった相対応する変化から成り立っているとみることができる。人間はこのような変化を無意識的あるいは意識的に求めようとする。変化は、人間が人間として存在するための本質的な欲求といえる。この欲求は、次のようにさまざまな形で現れる。

イ. 活力の保持：環境変化を求める生物的なものから、気分転換を求める心理的なもので、さまざまな変化欲求により、人間は明日への活力を保持していく。

ロ. 創造性の開発：人間は現在に止まることなく常に思考し、意図し、未来を考え、その目標に向かって努力し、多くのものを創造していく。人間の本質は創り出すよろこびを体得することである。

ハ. 人間と遊び：生活の中心である労働の場は多くのルールによって秩序が維持されている。また、そこは個人相互の競走の場でもある。こうした緊張に対し、人間はそれらからの解放を求める。すなわち「遊びの欲求」であり、ルールに従って社会の秩序を維持するとともに遊びを発見したところに人間と他の動物とのきわだった相違がある。

ニ. 人間性に回復：人間が主体的・能動的に行動することによってこうした多様な欲求を充足することは、人間の全体を使うことであり、ふだん遮られがちな人間性を回復することができる。

「余暇」は、まさしく、このような変化欲求を充足させるための重要な場である。

(2) しかし、物質文明、特に情報の豊かさがかえって人間の変化欲求に逆作用する面がある。

第1は「新鮮さの喪失」である（たとえば、季節感の喪失、情報反復による印象の希薄化）。第2は「主体性の喪失」である（たとえば、テレビに影響による受身の態度）。これは、創造性の欠如や人間性の喪失につながる。

したがって「新鮮さと主体性の回復」ということが、レジャー活動の大きな課題となる。

(3) 変化や新鮮さが同じ環境で求められなくなると、人々は、その単調さを破るため外の社会にでかけようとする。観光はまさにそのために求められる。観光は各種

のレジャー活動の中で変化の効果が最大であり、変化欲求に関する前記イ～ニのすべてを充足させることができる。特に、「新鮮さと主体性の回復」という現代的要求にもっともよくこたえることができる。つまり「余暇」や「観光」は人間の本質に基づく不可欠な行動であって、単なる「暇つぶし」や「物見遊山」のためのものではない。

いずれの引用においても観光の有する「自己の変化」の可能性を重視しており、特に後者では、「活力の保持」、「人間性の回復」といった側面においても観光を強く評価している。無論、本研究で観光を対象とした点は、以上のような「変化」（大衆性の変化）の可能性を期してのことである。ただし、本研究を進めるにあたっては、大衆性が有する外部環境を遮断する自己閉塞的な性質、己の能力を無意味に過信する傲慢的な性質が、これらの期待を裏切るに十分であるという点を付記しておくとする。

2.4. 本研究の方針

以上の既往研究から得られた知見を簡潔に取りまとめると次のように収斂されたいえよう。

第一に、本研究の問題意識でも記載したとおり、「大衆性が（土木計画学の対象とする問題を含め）多くの社会問題に負の影響を及ぼしており、種々の社会問題を漸次的にでも解決することを目指すにあたっては、大衆性抑制への方途を探る重要性が高い」ということである。第二に、その大衆性と負の相関を有する利他性とは、「利他的行動という形式で個人間において伝播し得るものであり、その結果として個人やその周辺、ひいては社会に対して心理的にも構造的にも影響を及ぼしうるものである」ということである。そして、第三に、「観光は、仮に一時的にせよ個人の心的傾向に影響を及ぼす可能性があるものであり、自己の相対化や変化を期待できるものである」ということである。

これらの知見を受け、本研究では、大衆性抑制の必要性を再認識し上で、その方途を探る第一として、コミュニケーションを通じた態度行動変容施策の一つ、「読書」に着目することとする。そして、第二に、行為の持つ性質そのものが大衆性と（負の相関を有するが故に）対置する存在に近いと考えられる「利他的行動」に着目する。最後に、大衆性の変化そのものではなく、変化の「過程」についての知見を獲得するために、大多数の人々が経験し、刺激され、それ故に今後も自発的に行動が継続される可能性の高い「観光」に着目し、大衆性抑制の「過程」が有する特性を、普遍的な行動の中に見出すこととする。

そして、それぞれについて、大衆性や大衆性の変化（特に抑制）、そしてその過程について理論的背景に基づく推論を展開し、これを実証・研究することで、実践行為における大衆性抑制施策についての基礎的とりまとめ及び今後の展望を具体的に描出することとしたい。

第2章脚注

- [1] なお、この分類については、アンケート調査の結果から①刺激性、②文化見聞、③現地交流、④健康回復、⑤自然体験、⑥意外性、⑦自己拡大、という7因子が抽出される²¹⁾など、アプローチの姿勢（分析の目的）や解釈の程度なども様々であるが、これらの分類の精緻化は、本研究の目的ではないことから、以上の整理に留める。

第2章参考文献

- 1) ホセ・オルテガ・イ・ガセット：大衆の反逆（1930），（神吉敬三 訳），ちくま学芸文庫，1995.
- 2) 羽鳥剛史，小松佳弘，藤井聡：大衆性尺度の構成－“大衆の反逆”に基づく大衆の心的構造分析－，心理学研究，Vol.79，No.5，pp.423-431，2008.
- 3) 小松佳弘，羽鳥剛史，藤井聡：大衆による風景破壊－オルテガ「大衆の反逆」の景観問題への示唆－，景観デザイン論文集，No.6，pp.23-30，2009.
- 4) 羽鳥剛史，小松佳弘，藤井聡：政府に対する大衆の反逆－公共事業合意形成に及ぼす大衆性の否定的影響についての実証的研究－，土木計画学研究・論文集，Vol.25，pp.37-48，2008.
- 5) 坂野純子，矢嶋裕樹，中嶋和夫：地域住民におけるボランティア活動への参加動機と満足感の関連性，東京保健科学学会誌，Vol.7，No.1，pp.17-24，2004.
- 6) 坂野純子，矢嶋裕樹，中嶋和夫：大学生における Volunteer Function Inventory の交差妥当性の検討，岡山県立大学保険福祉学部紀要，Vol.10，pp.24-31，2003.
- 7) Clary EG, Snyder M, Ridge RD, Copeland J, Stukas AA, Haugen J, Miene P : Understanding and assessing the motivations of volunteers : a functional approach. Journal of Personality and Social Psychology, Vol.74, pp.1516-1530, 1998.
- 8) 塚本利幸，霜浦森平，山添史郎，野田浩資：環境ボランティア活動の多様性と参加の規定要因－参加意欲と参加経験のギャップをめぐって－，福井県立大学論集，Vol.23，pp.73-90，2004.
- 9) 羽鳥剛史，藤井聡：地域コミュニティ保守行動に関する進化論的検討－階層淘汰論に基づく利他的行動の創発に関する理論的分析－，社会心理学研究，Vol.24，No.2，pp.87-97，2008.
- 10) 西川正之(編)，高木修(監)：援助とサポートの社会心理学－助けあう人間のこころと行動－，北大路書房，2000.
- 11) 塚本剛志：ボランティアの動機と文化的要素－スペインにおける予備的考察，国際開発研究フォーラム，32，2006.
- 12) 広瀬幸雄：環境配慮的行動の規定因について，社会心理学研究，Vol.10，No.1，pp.44-55，1994.

- 13) 杉浦淳吉：環境配慮の社会心理学，ナカニシヤ出版，2003.
- 14) 安藤香織，広瀬幸雄：環境ボランティア団体における活動継続意図・積極的活動意図の規定因，社会心理学研究，Vol.15，No.2，pp.90-99，1999.
- 15) 加藤潤三，池内裕美，野波寛：地域焦点型目標意図と問題焦点型目標意図が環境配慮行動に及ぼす影響：地域環境としての河川に対する意思決定過程，社会心理学研究，Vol.20，No.2，pp.134-143，2004.
- 16) 元吉忠寛，高尾堅司，池田三郎：地域防災活動への参加意図を規定する要因－水害被災地域における検討－，心理学研究，Vol.75，No.1，pp.72-77，2004.
- 17) 藤井聡：社会的ジレンマの処方箋－都市・交通・環境問題のための心理学－，ナカニシヤ出版，2003.
- 18) 吉川茂：大学生の観光動機と観光懸念に関する心理学的考察，阪南論文集－人文・自然科学編－，Vol.47，No.2，pp.125-133，2011.
- 19) 佐々木土師二：観光旅行の心理学，北大路書房，2007.
- 20) 佐々木土師二：旅行者行動の心理学，関西大学出版部，2000.
- 21) 林幸史，藤原武弘：訪問地域，旅行形態，年齢別にみた日本人海外旅行者の観光動機，実験社会心理学研究，VOL.48，pp.17-37，2008.
- 22) 内閣総理大臣官房審議室（編）：観光の現代的意義とその方向－内閣総理大臣諮問第 9 号に対する観光政策審議会答申－，大蔵省印刷局，1970.

第3章 大衆性抑制と実践行為との関係に関する推論

本章では、先の研究方針に基づき、大衆性抑制に関係すると思われる 3 つの実践行為「読書」、「利他的行動」、「観光」について、大衆性及びその変化や変化の過程に関する推論を展開し、検証内容を明確に位置づけることとする。

3.1. 大衆性と「書籍通読」との関係に関する推論

先ず、大衆性の低減・抑制に向けた方途として、人々とのコミュニケーションを通じた態度変容施策について検討する。その具体的な手段として「読書」に着目し、良き書物、所謂「良書」を通読することによって、個人ひとり一人の心に潜む大衆性が抑制される可能性を探ることとする。この方策は、個人に存する非自己閉塞的な側面、そして非傲慢的な側面に期待するものと捉えることが出来る。つまり、ある個人が、仮にわずかでも非自己閉塞的な側面をその精神の内に留めているならば、高潔な人生を描いた物語と、自らの人生を対比する可能性が幾ばくかでも生じるであろうし、わずかなりとも非傲慢的な側面を持ち合わせているのであれば、その対比の内に、自身の方が、その書物に描かれた高潔な人物よりも、「倫理的に劣る人生」を歩んでいる可能性について思いが至ることもあり得るものと考えられる。そして、彼がまさにこの点に達した時には、例えば認知的不協和理論¹⁾が予測するように、万人が持ち合わせている「正しくありたい」という理想的な自己像への志向性に合致するべく、自身の種々の態度を改めようとする傾向がその精神の中の一つの動きとして生じることが期待されるのである。以上のように、幾ばくかでも非大衆的な要素を持ち合わせている人物ならば、書物に記された高潔な人物の物語を読了することは、その個人の内的における大衆性が自発的に低減するという帰結がもたらされる可能性が考えられる。

推 論

つまり、以上の考察は次のような示唆を与えるものである。

「良書の通読をとおして、個人の大量性が抑制される」可能性がある。

それでは、大衆性抑制のための「良書」とはいかなるものであろうか。まず第一に、そうした良書の条件を探る上で、オルテガの提起した「貴族」なる概念が重要な示唆を与えるものと思われる。オルテガは、人間の持つ最も根本的な心理的類型として、大衆と貴族という二つのタイプを定義した²⁾。即ち、大衆とは「自分に対してなんら特別な要求を持たず、生きることが自分の既存の姿の瞬間的連続以外のなにものでもなく、したがって自己完成への努力をしない人々」であり、他方、貴族とは「自らに多くを求め、進んで困難と義務を負わんとする人々」を表す。良書の選定において、この点は重要な

指針を示していると考ええる。即ち、人々の大衆性を抑制するにあたっては、その対置に存在する「貴族的なもの」が適当なのではないかという指針である。

第二に、人々において「古典」の通読が道德心の向上に寄与するであろうことは、しばしば指摘されているところである³⁾。なぜなら、歴史的批判に耐えながら、あるべき価値判断の指針を示した「古典」を通読することにより、様々な価値葛藤の中で良識を養う術を学ぶとともに、より高德なる価値への志向性が高まることが期待されるためである。ここで、大衆性の抑制を道德心の醸成と言い換えることができるとするならば、古典の通読が人々において大衆性の抑制を促す可能性が少なからず期待されることとなる。

以上の2点から、“貴族的”および“古典（歴史）”という要素を含んだ書物こそ、本研究に最適な書物、「良書」と考えることが出来る。そこで、本研究では、そうした良書の一つとして、内村鑑三による『代表的日本人』を選定することとした。『代表的日本人』は、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮上人の生涯を叙述し、彼ら代表的日本人に宿る日本古来の道德や倫理の高潔性を説いた啓蒙の書である。本書においては、“貴族的”なる要素は、取り上げられる人物のみならず、しばしば指摘されているところである、著者内村鑑三という人物そのものの精神性の崇高さ⁴⁾においても、本研究が目ざすところの「良書」としての資格を十二分に持つものと考えられる。また、“古典（歴史）”なる要素は、その歴史（伝記）的著述の内容をもって担保されるであろうと考える。以上の理由から、本研究では、内村鑑三『代表的日本人』を選定することが妥当であると判断し、本書を通読することによって、人々の大衆性が抑制される可能性について実証的に検証することとしたい。

補足：内村鑑三『代表的日本人』

内村鑑三（1861-1930）は、明治期の近代化に伴う混乱の中で、己の在り方をキリストへの恭順の中に見出し、神に対する己の在り方を模索し続けるとともに、日本人の在り方、そして、日本の在り方、さらには世界の在り方を問い続けた人であったと言われる⁵⁾。そして、内村鑑三はその著書『代表的日本人』において、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮上人の5人をもって代表的な日本人であるとし、彼らに宿る日本古来の道德や倫理の高潔性を説いたのであった。

まず、西郷隆盛について、内村鑑三は、「純粹の意志力との関係が深く、道德的な偉大さがある（p.49）」と論じている。次に、上杉鷹山について、「率直で高潔な人格（p.74）」の持ち主であると評価し、二宮尊徳については、「真の貴人（p.128）」であると評している。また、中江藤樹については、「高德にして進歩的な思想家（p.115）」であると称えている。最後に、日蓮上人については、「しんそこ誠実な人間、もっとも正直な人間、…このうえなく勇敢な人間（p.172）」と評している。そして、本書においては、彼ら「代表的日本人」がその人生において経験した「困難」や「義務」、あるいは彼らの有する「義」や「徳」について多くの記述が割かれている。無論、ここに挙げた記述は、あくまでも、

それぞれの人物に対する内村自身の所感であるが、少なくとも内村の目に映じた彼ら「代表的日本人」は、オルテガの論ずる「貴族」なる存在、すなわち、「自らに多くを求め、進んで困難と義務を負わんとする」者に相違ないと思われる。

さらに、内村鑑三という人物自身の高德性も、既往文献の中でしばしば指摘されているところであり、この点からも、本書『代表的日本人』が「貴族的」要素を備えたものであることが認められるものと考えられる。例えば、隅谷三喜男は「内村の対社会の基本姿勢を表すものとしては『戦闘の人』がもっともふさわしいであろう」と説いた上で、「政治や社会と妥協することをいっさい拒否」することから生じる「潔癖さ」を以って「内村の思想と行動の特色」とした⁵⁾。また、自己の内においても「(みずからの弱点)をめぐって神と死力をつくした格闘があった(補足は筆者による)」と論じている⁴⁾。また、松沢弘陽は「日本の名著 38—内村鑑三—」に添えて、内村が「神と、それを信じる自分、あるいはキリスト者一般との関係を、おそらくそれが武士の子にとってびったりしていた…主君と兵士(つわもの)との関係としてとらえて」おり、内村にとって「あるべきキリスト者の姿は…神の命令にしたがって自己を規律し、人と自然との、外の世界に向かって戦いをいどみ、働きかけていくもの」であったと論じ、内村の基本姿勢が社会に対して屹立する高潔な態度にあることを指摘している⁶⁾。内村鑑三についての評論は多数存在するが、それらの論評に少なからず共通して見られることは、ここに挙げた「戦いの人」としての評価であると言えよう。この自己の内外に対する「戦う」姿勢こそ、オルテガの論ずる貴族的な姿勢、すなわち「われこそは他に優る者なりと信じ込んでいる僭越な人間ではなく、たとえ自力で達成しえなくても、他の人々以上に自分自身に対して、多くしかも高度な要求を課す」姿勢と同意義のものとして解釈することが出来よう。すなわち、内村鑑三なる人物は、オルテガの言うところの「貴族」なるものに他ならないと言って過言ではないであろう。

一方で、内村鑑三に対して否定的な評価が存在することもまた事実である。例えば、亀井勝一郎は、「鑑三の信仰についてことごとく懷疑」した人物として正宗白鳥を挙げており、正宗によれば内村の著作には「深い懷疑の言葉」がなく、正宗はまさにその点を「強調し、その言動のすべてに対して、片っぱしから懷疑の声を放っている」と述べている⁷⁾。ただし、亀井は、「懷疑」の所在を「信仰自体の内部にひそむ」ものと捉え、内村の「心中に懷疑のなかったはずはない」と述べている⁸⁾。内村の純粋な信仰と深い学識に根ざした思想が、往々にして「怒気のこもって」、「懷疑のない」言葉をもって語られているかのように見えたため、このような対立が生まれたものと思われる。しかし、亀井が指摘するように、内村の社会に対して屹立し、「戦う」姿勢そのものについて十分な否定を為し得ない限りにおいて、内村鑑三をオルテガの論ずるところの「貴族」として捉えることは妥当であるように思われる。

さらに、内村鑑三の「土木」に関わる文言の中においても、その貴族性なる性格を確認することができる。内村は、特に札幌農学校時代の学友を通して、土木に対する理解

を深めていたと言われている⁸⁾。その中でも、日本の近代土木における先駆者である広井勇と深い親交のあったことはよく知られているところである。実際、広井の葬儀にあたり、内村は「広井君在りて明治・大正の日本は清きエンジニアを持ちました」と言明し、「広井君の事業よりも、広井君自信が偉かったのであります」と追悼の辞を捧げている^{8),9)}。さらに、「広井の門下生であるクリスチャン技師青山士の生涯は広井と内村の影響を抜きにして考えることは出来ない」と言われており、土木史における巨人らと内村の間に深い親交があったことが窺える。内村の土木に対する理解の深さは、その著書「後世への最大遺物」¹⁰⁾においても、確認することが出来る。同書において内村は、後世に何を遺すべきかについて論じており、その中で「土木事業」を遺すことの意義を説いている。例えば、内村は、箱根用水の隧道を掘ったとされる兄弟の伝説等を例に挙げて「ひとつの土木事業を遺すことは、実に我々にとっても快樂であるし、また永遠の喜びと富とを後世に遺すことではないかと思ひます」と述べている。また、『代表的日本人』においても、土木事業に対する多くの言及がなされており、このことから、内村の土木に対する深い理解と恩恵の念を窺い知ることが出来る。このように、内村の土木に対する理解と賛辞とは、その事業の困難さと、何より後世への献身に対してこそ与えられている評価であるように思われる。言い換えれば、内村は、土木という営為の中に、自己に対して困難と義務を強いるという「貴族」的な態度を見出し、そのことに対してこそ評価を与えているものと言ひ得るだろう。ここにおいてもなお、内村自身の貴族性が窺えるのである。

以上のことから、内村鑑三の『代表的日本人』において、“古典（歴史）”なる要素は、その書籍の内容によって、“貴族的”なる要素は、その登場人物、及び内村鑑三なる人物の精神性の高さによって担保されているものと考えられよう。したがって、大衆性抑制のための良書の一つとして、内村鑑三著『代表的日本人』を挙げる事が可能であるものと考えられる。

3.2. 大衆性と「利他的行動」との関係に関する推論

従来の解釈学研究から、「読書」は実際の経験の「疑似体験」となり得るものであるということが知られており¹¹⁾、この点を踏まえるなら、上述のような「良書の通読」はその良書が模写している“現実の体験”を疑似的にではなく実際に体験することを通じて、大衆性が抑制されることがあり“得る”であろうという視座に立っていると解釈することできる。ただし、どのような体験であっても大衆性が抑制されるとは考えがたいところでもある。大衆性を抑制しうる体験もあれば、そうではない体験もあるであろうことが予期される。

については本研究では、大衆性を抑制しうる実践行為とはどのようなものであるかを探索的に把握するための第一歩として、先行研究¹²⁾で示されている、大衆性と負の相関を持つ「利他性」という心理的傾向に着目し、これに起因すると考えられる実践行為である

ところの「ボランティア活動」を対象とした推論を展開することとしたい。

さて、利他的行動に関する既往研究のレビューからも明らかとなっており、「利他的行動は存在し、伝播し得る」ものであり、「利他的行動は個人およびその周辺に対して、心理的にも社会的にも影響を及ぼし得るものである」と考えることができよう。このような認識の理論的背景は、態度行動変容施策の理論的背景である社会的ジレンマの知見においても確認されていることである¹³⁾。つまり、信頼・知識・道德意識という3つの要因が協力行動の規定要因となることを踏まえれば¹²⁾、利他的行動の経験が、図3-1に示す通り「利他的行動をしている人がいるという認識（信頼）」、「利他的行動の在り方に関する認識（知識）」、「利他的行動が求められており、自分はそれをすべきだという意識（道德意識）」を醸成し、結果的に個人の利他的傾向を高めるであろうことが、規範活性化理論¹⁴⁾を用いて協力行動のプロセスを示している既往研究¹⁵⁾からも理論的に推察されるところである。さらには、大衆性と利他性の間に負の相関があるという先行研究の結果¹²⁾を踏まえれば、この利他的傾向の増加は、大衆性の低減という帰結をもたらす可能性すらも有するものと考えられるところである。

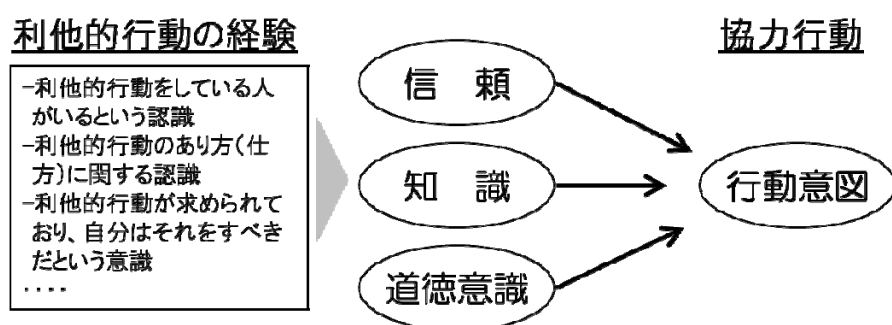


図 3-1 利他的行動の経験による協力行動の3要因の活性化

推 論

以上の推論を通じて、大衆性の抑制と利他的行動に関して次のような示唆が得られたと言えよう。

「利他的行動を通じて人々の大衆性が抑制する」可能性がある。

3.3. 大衆性と「観光行動」の関係に関する推論

先の2つの項目においては、「大衆性が抑制される（と推察され得る）」実践行為についての推論を展開した。その中では、「大衆性抑制の方途」を検討する際に、共通して「大衆性と対置する存在：書籍通読においては“貴族性”，利他的行動においては“利他性”」に着目している。ここで、「大衆性と対置する存在」に着目する理論的背景としては、認

知的不協和理論¹⁾や規範活性化理論¹⁴⁾が挙げられたところであるが、大衆性抑制施策の展開を目指す上では、実践行為における大衆性抑制効果の有無と合わせ、「抑制過程」に関する研究・考察も不可欠であろうと考えられるところである。

そこで、本項においては、先行研究¹²⁾において大衆性心理尺度を測定する基礎となった「大衆の反逆」(Ortega,1930)に改めて着目し、「大衆性抑制」の方途や過程に関する記述を抽出することから、大衆性と実践行為に関する第3の推論を展開するための示唆を得ることとする。

「大衆の反逆」からの示唆

本書では、特に近代以降において大衆人なるものが現実世界を席卷する具体的な構図や、彼らの心的傾向性、行動特性などが描かれると同時に、以下のような「大衆化する過程・抑制される過程」に関係するオルテガの認識が描出されている（下線は筆者による）。

- a) 「彼の魂の生来の自己閉塞性が、自己の不完全さを発見するための前提条件であるはずの自分を他人と比較することを妨げているのである。自分を他人と比較することとは、しばらくの間自分から抜け出して隣人のところへ自分を移すことに他ならないであろう。」(p.98)
- b) 「愚者にその愚かさの殻を脱がせ、しばしのあいだ、その盲目の世界の外を散歩させ、日ごろの愚鈍な物の見方をより鋭敏な物の見方と比較するよう力づくで強制する方法はない」(p.98)

a) の記述においては、大衆性を構成する自己閉塞性が「自分と他人と比較することを妨げている」とし、オルテガの認識によれば、この「自他の比較」こそが「自己の不完全さを発見するための前提条件」とであるとされている。同様の認識はb)においても一貫しており、「日ごろの愚鈍な物の見方をより鋭敏な物の見方と比較する」方途について、あえて絶望的な表現を用いているものの、その必要性が十分に読みとれるところである¹³⁾。

ここで抽出された「比較」の要素は、第1、第2の推論における考え方、およびその理論的背景であるところの認知的不協和理論や規範活性化理論においても前提とされている条件（理論が展開される状態として初期条件）であるが、ここにその重要な「比較」の要素が改めて抽出されたことを受け、「比較」から「(大衆性の)抑制」に及ぶまでの過程について、今ひとつの代表的古典的理論「コールバーグの道徳性発達理論」^{16),17)}を参照することとしたい。

コールバーグの道徳性発達理論（以後、コールバーグ理論と呼ぶ）においては、人間の道徳性には6つの段階が存在していると想定されており、人間の成長とともに低次の段階からより高次の段階への発達する（かつ不変的な連続性をもつ）ものと考えられて

いる¹⁴⁾。そして、このような道德性の発達を促進する要因として、コールバーグ理論では「道德上の“葛藤経験”」が重要な役割を果たすと考えられている。なぜなら、人間は自らの道德水準では解決できない葛藤場面に出会うと、その葛藤がもたらす認知的な不安定状態（認知的不協和）を解消しようと試み、その結果として道德性の段階が向上することが期待されるからである。

このコールバーグ理論を、大衆性の変化に援用するならば、先に抽出された「比較」とは、すなわち「葛藤するような場面」が生起する瞬間の状態を示しているのであり、「(大衆性の) 抑制」とは、道德性の段階の向上に相当するものと考えられよう。つまり、大衆性の変化（抑制）の過程においては、「比較→葛藤→変化（抑制）」といった過程が存在することが理論的に推察され、この「葛藤」の有無の重要性が示唆されたと言える。

次に、さらに一段階前の状態、すなわち「比較が生じるような状態」に関する示唆を得るべく、改めてオルテガの「大衆の反逆」の記述を参照する（下線は筆者による）。

- c) 「大衆人は環境に無理強いされるのでなければ、けっして自分以外のものに目を向けることはないであろう」(p.88)
- d) 「外部の力によって自己の外に出ることを強制されないかぎり永遠の逼塞を申し渡されている生」(p.91)

これら c), d) においては、(自他の比較を可能とするために)「自己の外に出る」ような「環境」が必要であることを説いていると解釈することができるであろう。ここで、先の a), b) の引用を含め、「しばらくの間自分から抜け出す」「殻」を脱ぐ、「自己の外に出る」といった用語を概観すれば、これらは、「自己の放棄」ではなく、「自己を成立せしめる“関係性”からの一時の離脱」といった要素が含まれているものと考えられる。なぜなら、この「一時の離脱」によってこそ「自己の相対化（あるいは客観視）」が可能となるのであり、「自己の相対化」なきところに「自他の比較と葛藤」は成立しえないからである。

つまり、これらのオルテガの記述から、大衆性を抑制させるには「自己を成立せしめる“関係性”からの一時の離脱」が生じるような「環境」が望ましいことが示唆されていると言える。

推 論

以上、「大衆の反逆」の記述とその解釈を通じて、次のような示唆が得られたと言える。

「大衆性の抑制過程の一つとして、自己を成立せしめる“関係性”からの一時の離脱が生じ得る環境における（自己の相対化を経た）自他の比較の生起と、その比較による葛藤経験が重要となる」可能性がある。

このような示唆に対し、「大衆性低減を導く実践行為」に焦点を置く本研究では、「自己を成立させている“関係性”からの一時の離脱が生じ得る環境」を「実践行為」の中に見出さねばならない。

ここで、キルケゴールの想定¹⁹⁾にもあるとおり、自己なるものが「関係」により成立している（関係そのものである）以上、「“関係性”からの離脱」については厳密には達成され得ないこととなる。しかしながら、実際には、我々の「関係」はその多くが社会的環境による影響を多大に受けており、平易な言葉で換言すれば「日常」によって多くの「関係」が関連づけられていると言っても過言ではないだろう。つまり、「“関係性”からの離脱」は、「日常」からの離脱によって、一定程度達成されうるものと考えられるところである。

そこで、本研究では、「自己を成立させている“関係性”からの一時の離脱が生じ得る実践行為」として、その定義の中に「日常からの離脱」と同義の「日常生活圏を離れて」という要素を有する「観光」に着目し、大衆性抑制における過程として重要であることが示唆された「葛藤」との関係について検証することとする。

◆観光の定義（運輸省運輸政策局観光部・観光行政研究会，1995）²⁰⁾

- （１）余暇時間の中で、
- （２）日常生活圏を離れて行うさまざまな活動であって
- （３）触れ合い、学び、あそぶということを目的とする

なお、「観光」の語源は、中国の儒教の経典である四書五経の一つ「易教」の「観国之光，利用賓于王（国の光を観るは、もって王たるの賓によろし）」によるとされている²¹⁾。ここに、「光」とは、文物，政治，暮らし向き，風俗などのことを指し、「観」はただ漠然と見るのではなく「よくみる」の意であり、さらには「しめす」の意味も含まれていると言う。つまり、観る，観せるの両方向の意味を持っていることから、他国の輝かしい文物を視察するだけでなく、受入側からみれば、国威発揚の意をも有していることとなる²¹⁾。このような観光の語源を踏まえれば、大衆性抑制の実践行為として、観光に着目する妥当性が一定程度確保されると言うのも過言でないだろう。なぜならば、自己閉塞性，傲慢性のいずれの心的傾向においても、「よくみる」ことが日常的に軽視，あるいは忌諱されていることが十分に想像されるからである。

第3章脚注

- [1] 亀井は、「神あるいは仏に対する自己の精神的位置を決定するための持続的な戦いが、思想形成の基本である」とし（亀井は仏教徒である）、「信、不信、あるいは懷疑のゆえの心の戦いなくして、どんな思想が可能だろうか」と述べている。あるいはこれを換言して、「そもそも峻厳な信仰に直面しなければ、懷疑などは起こりえない」と説いている。「所感」において「懷疑は学生、僧侶、文人の中にあり。…宇宙と人生に関し、沈黙考を凝らす者の中にあり。懷疑は思想の過食より来る脳髓の不消化症なり。ゆえにこれを癒すのは…沈黙考することを止めしめて、手をもって働かしむるに在り」と語る内村の真意を、亀井は「ただ『無一物』なるものとして、自己放下の状態にある以外に信仰はない」という「無私に至る道」への「信仰の純化における決意」と解している。つまり、亀井にとって内村鑑三に「懷疑」のあることは明白であり、懷疑のあるからこそ「無私」への道を求め、自己の内外に対して「非妥協的な戦いをつづけた」人として、内村を亀井は評価するのである。
- [2] 「協力行動」を誘発する様々な要因のうち、社会的ジレンマを明確に定義したドウズが最も重要なものとして主張しているのが「信頼」、「知識」、「道德意識」という3つの心理要因である¹³⁾。
- [3] 3.1における書籍通読による貴族性への接触を期する方途は、この②の記述において放棄されている方途の一環として明確に位置づけることができる。「日ごろの愚鈍な見方」こそは、大衆性そのものみに、「鋭敏な物の見方」とは貴族性に換言され得るものであり、これらを「比較するよう力づくで強制する」のが、「良書通読」という実証実験なのである。
- [4] 詳細かつ簡潔な取りまとめは、羽鳥ら¹⁸⁾を参照されたい。

第3章参考文献

- 1) Festinger, L. : *A Theory of Cognitive Dissonance*, Evanston, IL: Row, Peterson, 1957
(末永俊郎（監訳）：認知的不協和の理論，誠信書房，1965）。
- 2) ホセ・オルテガ・イ・ガセット：大衆の反逆（1930），（神吉敬三 訳），ちくま学芸文庫，1995。
- 3) 西部 邁：国民の道徳，編/新しい歴史教科書をつくる会，産経新聞社，2000。
- 4) 隅谷 三喜男：内村鑑三は光に面しているか闇に面しているか，現代日本思想体系第5巻内村鑑三，筑摩書房，月報6，pp.3-4，1963。
- 5) 隅谷 三喜男：内村鑑三と現代一座標軸をもつ思想一，世界，岩波書店，No.422，pp.54-66，1981。
- 6) 松沢 弘陽：近代日本と内村鑑三，日本の名著38内村鑑三，中央公論社，pp.5-78，1971。
- 7) 亀井勝一郎：内村鑑三ー近代日本精神史におけるその位置と特徴ー 現代日本思想体系第5巻内村鑑三，筑摩書房，pp.7-41，1963。

- 9) 高崎 哲郎: 評伝 山に向かいて目を挙ぐー工学博士・広井勇の生涯ー, 鹿島出版会, 2003.
- 8) 高崎 哲郎: 内村鑑三「後世への最大遺物」を読む, 土木学会誌, (社) 土木学会, Vol.92-12, p.62, 2007.
- 10) 内村 鑑三: 後世への最大遺物/デンマーク国の話, 岩波文庫, 1946.
- 11) 藤井聡, 長谷川大貴, 中野剛志, 羽鳥剛史: 「物語」に関わる人文社会科学の系譜とその公共政策的意義, 土木学会論文集 F5, Vol.67, No.1, pp. 32-45, 2011.
- 12) 羽鳥剛史, 小松佳弘, 藤井聡: 大衆性尺度の構成ー“大衆の反逆”に基づく大衆の心的構造分析ー, 心理学研究, Vol.79, No.5, pp.423-431, 2008.
- 13) 藤井聡: 社会的ジレンマの処方箋ー都市・交通・環境問題のための心理学ー, ナカニシヤ出版, 2003.
- 14) Schwarz, H.: Normative influence on altruism. In: L. Berkowitz (Ed.), *Advances in Experimental Psychology*, Vol.10, New York: Academic Press, pp.222-280, 1977.
- 15) Taniguchi, A. and Fujii, S.: Process model of voluntary behavior modification and effects of travel feedback pro-grams, *Transportation Research Record*, pp.45-52, 2010.
- 16) Kohlberg, L.: Sage and sequence : The cognitive-developmental approach to socialization, In D.A. Goslin(ed), *Handbook of Socialization: Theory and Reach*, Rand McNally, 1969. (コールバーグ「道德性の形成」, 永野重史監訳, 新潮社, 1987)
- 17) Kohlberg, L. and Higgins, A. (岩佐信道 訳): 道德性の発達と道德教育ーコールバーグ理論の展開と実践, 麗澤大学出版, 2001.
- 18) 羽鳥剛史, 黒岩武志, 藤井聡, 竹村和久: 道德性発達理論に基づく土木技術者倫理に関する実証的研究ー倫理規定の解釈可能性が土木技術者の倫理性に及ぼす影響ー, 土木学会論文集 D, Vol.65, No.3, pp.262-279, 2009.
- 19) セーレン・キルケゴール: 現代の批評 (1846 年刊), キルケゴール 死に至る病・現代の批評 (梶田啓三郎 訳), 中央公論新社, 2003.
- 20) 国土交通省観光庁: 観光立国の実現に向けてー住んでよし, 訪れてよしの国づくりへー, 2008.
- 21) (財) 日本交通公社編: 観光読本ー第 2 版ー, (財) 日本交通公社, 2004.

第4章 大衆性抑制と書籍通読に関する検証

本章では、3.1 における良書通読による大衆性抑制の可能性を示唆した推論について、仮説を措定し、実証実験を通じて検証した結果を取りまとめる。

4.1. 仮説の設定

3.1 の推論の概要は次のとおりである。つまり、大衆性抑制のための具体的方途の一つとして「読書」に着目し、高潔なる人生を描いた書物、所謂「良書」の具備すべき条件として、Ortega が「大衆」と対置するものとして提起した「貴族」と、道徳心の向上に寄与すると考えられている「古典（歴史）」なる要素を考え、そうした「良書」の一つとして、内村鑑三による『代表的日本人』を選定した。本書は、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮上人の生涯を著述し、彼らに宿る日本古来の道徳や倫理の高潔性を説いた啓蒙の書である。そして、この良書の通読による大衆性が抑制される可能性を論じた。

以上を踏まえ、本章においてこの推論を検証するために、次のような作業仮説を措定する。

作業仮説：

内村鑑三「代表的日本人」を通読することによって、人々の大衆性が低減する。

4.2. 実験対象者・手順

上記の仮説を検証するために、大学生 300 名を対象とし実験を実施した（図 4-13）。まず、2007 年 7 月に、実験協力者を大学構内の一つの会場に集め、wave 1 調査を実施した（なお、wave 2、wave 3 の調査も大学構内の同一の会場にて行った）。その後、実験協力者を無作為に実験群と統制群の 2 つのグループに分類し、実験群に対して内村鑑三著の『代表的日本人』（内村鑑三、1995）、統制群に対して神田敏晶著の『You Tube 革命』（神田敏晶、2006）の通読を依頼した^[1]。そして、上記の書籍通読を依頼した約 2 週間後の 2007 年 10 月に実施した wave 2 について、書籍通読の効果を測定し、さらに一定期間経過後の書籍通読による効果を測定するべく、wave 2 調査への実験協力者 124 名に対して、2007 年 11 月下旬から 12 月上旬にかけて E-mail、電話等を用いて、再調査実施の旨を連絡した。そして、書籍の通読を依頼してから約 3 ヶ月経過した後の 2007 年 12 月に、wave 3 調査を実施したところ、110 名の実験協力者を得ることができた（表 4-1）。

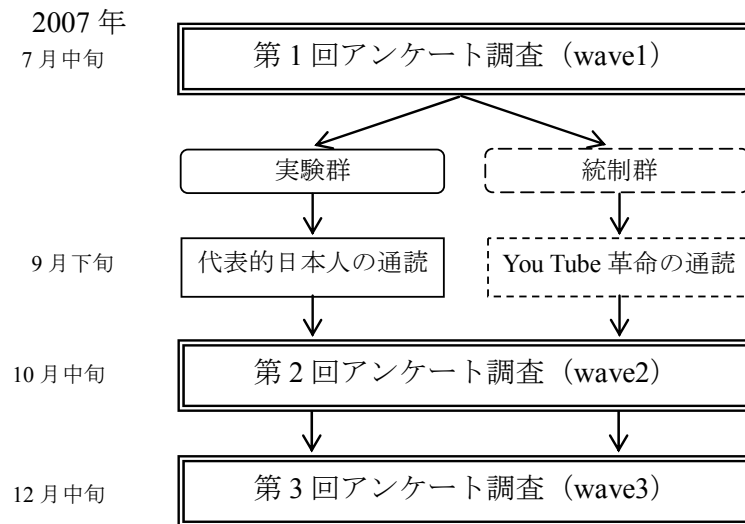


図 4-1 実験手順

表 4-1 実験協力者

度数(人)	男性	女性	合計
wave1	259	41	300
wave2	97	27	124
wave3	84	26	110
年齢(歳)	M		SD
wave1	20.81		2.18
wave2	20.60		1.93
wave3	20.63		2.03

有効回答者の選定

wave 2 調査時には、実験協力者が依頼した書籍を読了していることを確認するために、以上の質問項目に加えて、実験群、統制群それぞれに対して、配布した書籍の内容に関する 5 つの質問項目を設けた。そして、その回答結果から有効回答者を選定した結果、wave 2 調査の有効回答者は、実験群について 71 人 (91%)、統制群について 41 人 (89%) の計 112 人であった。この内、男性は 90 人 (80%)、女性は 22 人 (20%) である。また、wave3 調査の有効回答者は、実験群について 62 人 (90%)、統制群について 38 人 (93%) の計 100 人であり、その内、男性が 79 人 (79%)、女性が 21 人 (21%) であった。なお、wave 3 調査における有効回答者とは、wave 3 調査の協力者の中で、wave 2 調査時ににおいて有効回答者と見なされた実験協力者に相当する。年齢については、wave 2 調査、wave 3 調査共に平均 20.67 歳、標準偏差は 1.96 歳であった。本研究では、以上の有効回答者

を分析の対象とすることとした。

4.3. 調査項目

4.3.1. 各心理尺度・指標の構成

本実験による実験協力者の大衆性の変化を調べるために、wave 1 調査から wave 3 調査を通じて、個人の大衆性指標を量るための質問項目を設定した。また、wave 1 調査では、「代表的日本人」通読効果の規定要因を検討するために、社会的価値、個人志向性・社会志向性、幼少期の生活環境に関する質問項目を設定した。wave 3 調査では、書籍の波及効果を調べるための質問項目を設けた。各質問項目の内容は以下の通りである。

大衆性に関する項目

大衆性指標を量るための質問項目として、先行研究¹⁾において示された2因子(傲慢性、自己閉塞性)17項目の質問を設定し(表4-2)、各項目について「とてもそう思う」から

表 4-2 大衆性測定項目

「傲慢性」尺度 (α=.63)	
	自分を拘束するのは自分だけだと思う
	自分の意見が誤っている事などない、と思う
	私は、どんな時でも勝ち続けるのではないか、 と何となく思う
	自分個人の「好み」が社会に反映されるべきだと思う
	どんなときも自分を信じて、 他人の言葉などに耳を貸すべきではない、と思う
	「ものの道理」には、あまり興味がない
	物事の背景にあることには、あまり興味がない
	世の中の問題は、技術ですべて解決できると思う
	人は人、自分は自分、だと思う
	自分のことを、自分以外のものに委ねることは 一切許されないことだと思う
	道徳や倫理などというものから自由に生きていたいと思う
「自己閉塞性」尺度 (α=.64)	
	伝統的な事柄に対して敬意・配慮をもっている*
	日々の日常生活は感謝すべき対象で満たされている*
	世の中は驚きに満ちていると感じる*
	我々には、伝統を受け継ぎ、改良を加え、 伝承していく義務があると思う*
	自分自身への要求が多いほうだ*
	自分は進んで義務や困難を負う方だ*

α：クロンバックの信頼性係数，*逆転項目

「全く思わない」の 7 件法で回答を要請した。ここで、傲慢性は、自分自身や社会等の種々の対象に対する自らの制御能力についての過大な評価に関する質問項目から構成され、一方、自己閉塞性は、外部世界に対する関心および外部世界との紐帯やその中での責務に関する質問項目から構成される。そして、「傲慢性」尺度については対応する 11 項目の加算平均から、「自己閉塞性」尺度については対応する 6 項目のそれぞれを反転した上で求められる加算平均から、それぞれの尺度を構成した。各尺度の α 係数は、「傲慢性」については $\alpha = .63$ 、「自己閉塞性」については $\alpha = .64$ であった。また、両尺度間の相関係数は .157 であった。さらに、大衆性、傲慢性、自己閉塞性のそれぞれについて、その平均点よりも高い個人を「1」、低い個人を「0」とする「高大衆性ダミー」、「高傲慢性ダミー」、「高自己閉塞性ダミー」を設定した。

社会的価値に関する項目

Schwartz²⁾の社会的価値および Strathman et al.³⁾の将来価値を測定するための質問項目を設けた (wave 1 のみ)。これらの心理尺度は、羽鳥ら¹⁾の先行研究において、大衆性尺度と関連性を有することが示された尺度である。前者の社会的価値については、Stern et al.⁴⁾が用いた 23 項目 (表 4-3) のそれぞれの重要度を質問することとした。質問の手順は Schwartz²⁾の方法にならい、提示した項目リストの中で自らの価値観に反しているもの (複数可) を -1、最も重要なものを 7 とし、それ以外の価値の重要度を 0~6 の 7 段階で評定してもらう方法を採用した。後者の将来価値に関しては、Strathman et al.³⁾の指標を採用し、「私は、将来のことをよく考えて、それをもとに日々の行動を決めている」「私はよく、『すぐに結果の出ないような事』でも、実行する」「私は、将来のことを考えて、目先の幸せを犠牲にすることができる」「『将来の問題』は将来、解決されるであろうから、気にする必要はない」「『将来の問題』のために、今を犠牲にする必要はない」「将来のことは、そのときになって考えればよい。今は目先のことが重要である」という 6 項目を設定した。各項目について、「とてもそう思う」から「全く思わない」の 5 件法で回答を要請した。それぞれの尺度の α 係数は、利他価値 $\alpha = .79$ 、利己価値 $\alpha = .71$ 、変化価値 $\alpha = .65$ 、伝統価値 $\alpha = .61$ 、将来価値 $\alpha = .72$ であった。尺度の中にはやや低い α 値も見られるが、一定程度の信頼性が認められた。

表 4-3 社会的価値

利他価値
社会的な正義（不正を正す，弱者の保護）
汚染の防止（天然資源の保全）
公平さ（全ての機会の平等）
自然との調和（自然との適応）
世界平和（戦争と紛争の除去）
地球の尊重（他の生き物との調和）
環境保護（自然保護）
利己価値
社会的な勢力（他者の支配，優位性）
影響力（人々や物事に対する影響力）
富（物質的財産，金銭）
権力（支配や命令の権利）
変化価値
好奇心（あらゆるものに対する興味，探究心）
変化に富んだ生活（挑戦，珍しさと変化）
刺激的な生活（刺激的な経験）
伝統価値
真の友情（親しい理解ある友人）
忠誠心（自分の友人に対する信用）
所属意識（自分の助けとなる友人の存在を感じる）
従順さ（礼儀正しさ，義務を果たすこと）
自己鍛錬（自己抑制，誘惑への忍耐）
家族の安全（愛する人の安全）
両親や年長者の尊重（敬意の表明）
正直さ（純粋，誠実さ）
寛容さ（他者を許そうとする気持ち）

個人志向性・社会志向性に関する項目

伊藤^{5),6)}の作成した心理尺度を用いて，表 4-4 のような個人志向性と社会志向性を測定するための質問項目を設定した（wave 1 のみ）．ここで，個人志向性とは，「自分独自の基準を尊重し，個性を活かした生き方への志向性」を，社会志向性とは「他者あるいは社会の規範に則った生き方への志向性」を表す⁶⁾．また，P 尺度とはこれらの志向性の肯定的（positive）な側面を捉えたものであり，N 尺度とはその否定的（negative）な側面を捉えたものである⁷⁾．個人志向性において，その P 尺度は自己実現への欲求，N 尺度

表 4-4 個人志向性/社会志向性項目

No.	項目
「個人志向性P尺度」	
1	自分の個性を活かそうと努めている
*2	小さなことも自分ひとりでは決められない
5	自分が満足していれば、人が何を言おうと気にならない
8	周りとは反対でも、自分が正しいと思うことは主張できる
*17	自分の生きるべき道がみつからない
19	自分の信念に基づいて生きている
23	自分の心に正直に生きている
*28	自分が本当に何をやりたいのかわからない
「社会志向性P尺度」	
3	社会のルールに従って生きていると思う
12	人に対しては誠実であるように心掛けている
14	他の人の気持ちになることができる
18	社会（周りの人）の中で自分が果たすべき役割がある
20	人とのつながりを大切にしている
25	他の人から尊敬される人間になりたい
26	他人に恥ずかしくないように生きている
27	周りとの調和を重んじている
30	社会（周りの人）のために役に立つ人間になりたい
「個人志向性N尺度」	
9	自分中心に考えることが多い
11	個性が強すぎて、人とよくぶつかる
13	何ごとにも独断で決めることが多い
15	人に合わせるよりは、たとえ孤独であっても自由なほうがよい
22	自分の性格はわがままだと思う
24	周りのことを考えず、自分の思ったままに行動することがある
「社会志向性N尺度」	
4	何か良くないことがあると、すぐ自分のせいだと考えてしまう
6	人の目ばかり気にして、自分を失いそうになることがある
7	困ったことがあると、すぐ人に頼ってしまう
10	何かを決める場合、周りの人に合わせるが多い
16	相手の顔色をうかがうことが多い
21	人の先頭に立つよりも、多少がまんしてでも相手に従うほうだ
29	人前では見せかけの自分をつくってしまう

*反転項目

はエゴの表出や自己愛的性格を表している。また、社会志向性において、その P 尺度は他者あるいは社会規範への志向、N 尺度は他者への一方的な依存や従属といった、未熟な対人関係を表している。これら 4 つの尺度を構成する質問項目を、ランダムに並べ直し、伊藤の方法にならい、各質問項目について「あてはまる」から「あてはまらない」の 5 件法で回答を要請した。それぞれの尺度の α 係数は、個人志向性 P 尺度について $\alpha = .66$ 、社会志向性 P 尺度について $\alpha = .71$ 、個人志向性 N 尺度について $\alpha = .69$ 、社会志

向性 N 尺度について $\alpha = .72$ であり、一定程度の信頼性が認められた。

幼少期の生活環境に関する項目

幼少期の家庭環境や地域環境に関する 20 個の質問項目を設定した (表 4-5)。因子分析 (主成分分析, バリマックス回転) と信頼性分析の結果, 「家庭内コミュニケーション・しつけ」尺度と「地域内コミュニケーション・地域連帯」尺度の 2 つの尺度を構成した 3。各尺度の α 値は, 前者が .68, 後者が .70 であった。さらに, 「家庭内コミュニケーション・しつけ」尺度, 「地域内コミュニケーション・地域連帯」尺度のそれぞれについて, その平均点よりも高い個人を「1」, 低い個人を「0」とする「高しつけダミー」, 「高地域連帯

表 4-5 幼少期のしつけや地域内連帯について

質問項目	回転バリマックス解		
	I	II	III
第1因子 「家庭内コミュニケーション・しつけ」 ($\alpha=.68$)			
家庭内で礼儀作法についてしつけられましたか?	.721	-.060	-.072
「おはよう」「いただきます」といった家庭内のあいさつをしっかりとしていましたか?	.646	.025	.091
親にしかられることはよくありましたか?	.606	.031	-.083
親子間の会話は多かったと思いますか?	.494	.184	.236
家の手伝いをふだんしていましたか?	.492	.112	-.125
「節分」「ひな祭り」「端午の節句」などの季節の行事を家庭内でよく行っていましたか?	.458	.234	.434
社会の問題が家族の間で話題となることはありましたか?	.433	.196	.005
第2因子 「地域内コミュニケーション・地域連帯」 ($\alpha=.70$)			
近所の人から、よく注意を受けたりしかなかったりしましたか?	.107	.667	-.145
近所の子どもと、よく遊びましたか?	-.142	.636	.006
近所の人にいつもあいさつをしていましたか?	.261	.631	-.069
近所の祭りや盆踊りにいつも参加していましたか?	-.025	.618	.212
あなたの家庭は、両隣の家と親交がありましたか?	.114	.600	-.165
親戚づきあいが多かったですか?	.301	.436	.293
家によく来客がありましたか?	.292	.379	.166
第3因子 ($\alpha=.37$)			
お墓参りによく行きましたか?	.342	.303	.318
食事のときよくテレビをつけていましたか?	-.183	-.059	.637
欲しいと思うものは何でも買ってもらえましたか?	-.157	-.171	.533
テレビゲームでよく遊びましたか?	-.383	.063	.500
家族での移動はいつも自動車でしたか?	.104	.079	.334
学校から帰ったとき、家族の誰かが家にいましたか?	.152	-.028	.329
固有値	3.64	1.90	1.65
寄与率	18.22	9.50	8.23
累積寄与率	18.22	27.72	35.95

5回の反復で回転収束

ダミー」を設定した。なお、以上の質問項目の他、「子どものころ、あなたの家族は、何人でしたか?」「兄弟・姉妹は何人いますか?」「祖父・祖母と同居していましたか?」「神棚が家にありましたか?」「仏壇が家にありましたか?」「子どものころ、家に自分の一人部屋がありましたか?」という質問項目、及び、「夕食はどのように食べることが多かったですか?」という質問項目を設けて、それぞれ「はい」「いいえ」の2件法、及び「家族全員で食べる」「全員ではないが家族でそろって食べる」「子どもたちだけで食べる」「ばらばらに食べる」の4件法で回答を要請した。

書籍の波及効果及び日常の読書傾向に関する項目

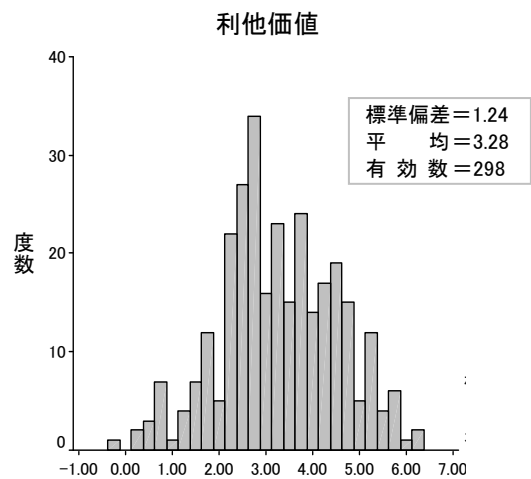
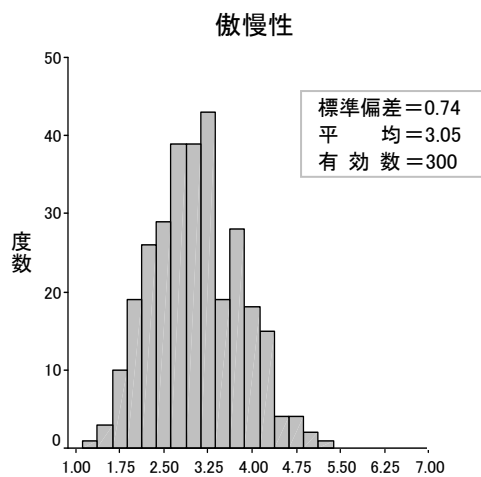
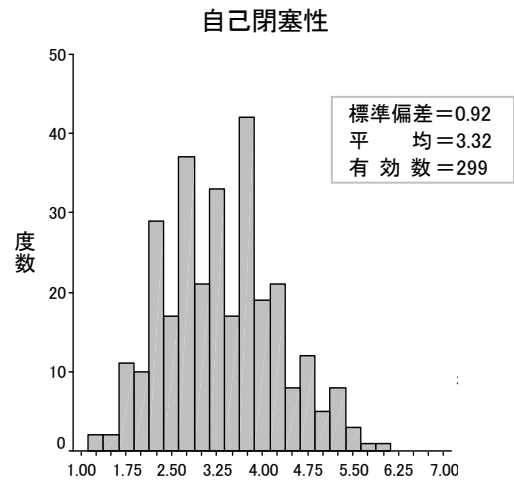
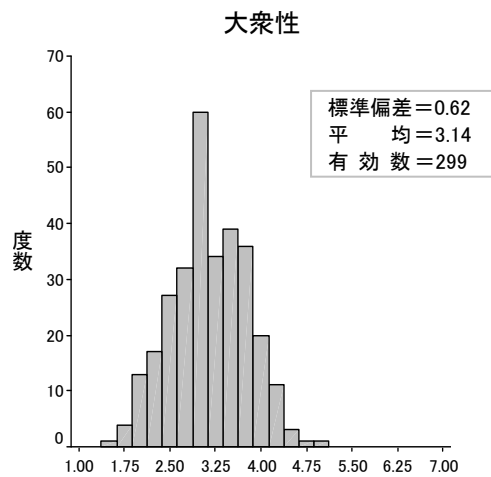
配布した書籍の波及効果について調べるため、wave 3 調査において、「第2回アンケート調査にあたってお読みいただいた書籍を、周囲の人に薦めることができましたか」という質問を設け、「はい」と「いいえ」のいずれかを選択してもらった。

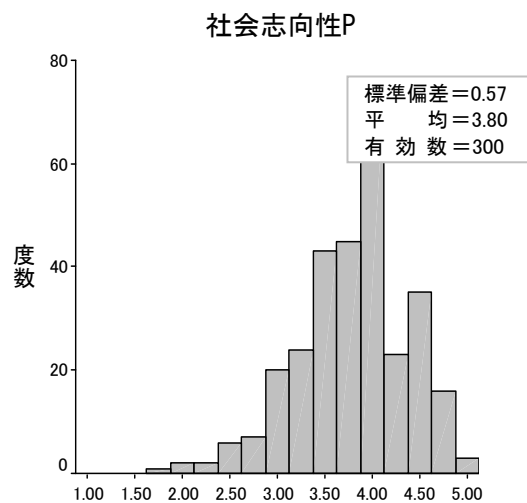
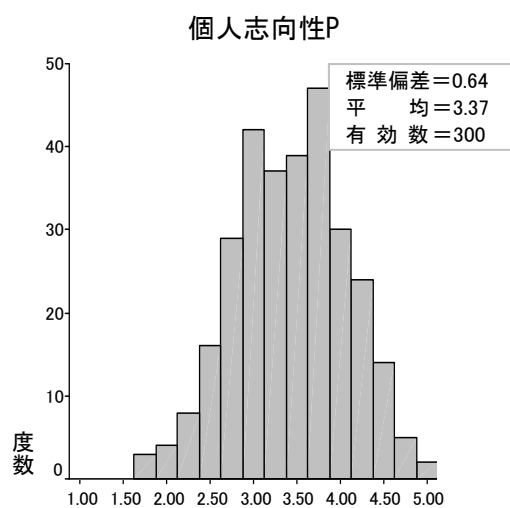
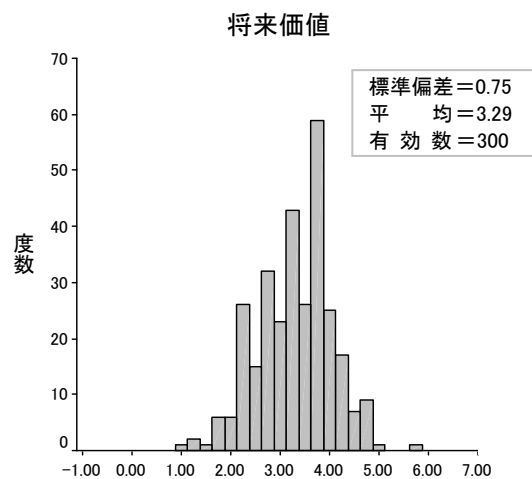
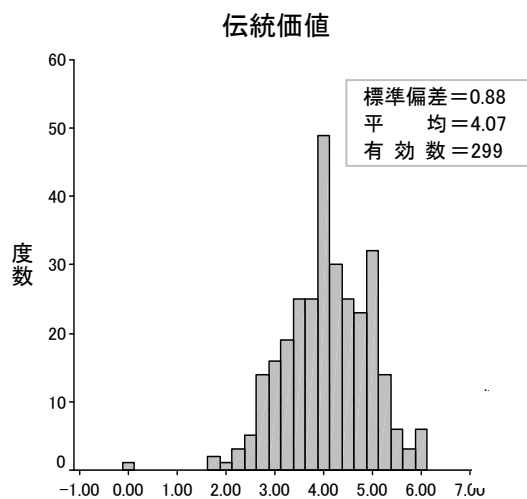
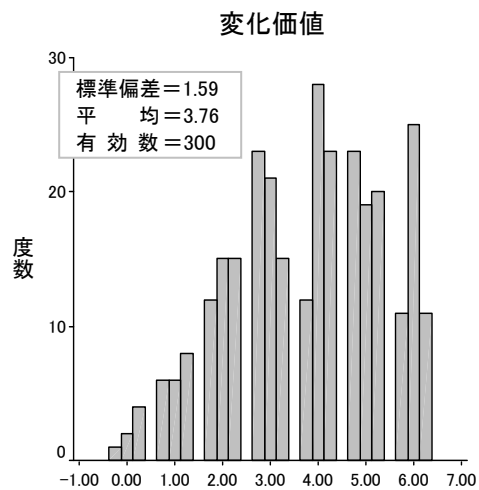
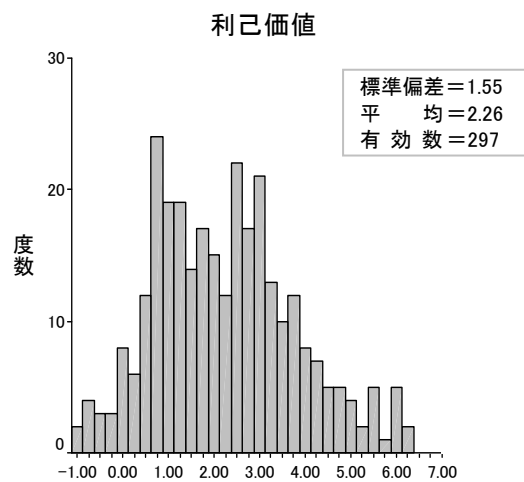
表 4-6 幼少期のしつけや地域内連帯について

No.	項目
1	第2回のアンケート調査にあたってお読みいただいた書籍を、 周囲の人に薦めることができましたか。 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2	お読みいただいた書籍をきっかけに、関連するようなもの（情 報・書籍等）に興味を抱きましたか。 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
3	普段、本をどれくらいお読みになりますか。 <input type="checkbox"/> よく読む <input type="checkbox"/> たまに読む <input type="checkbox"/> ほとんど読まない
4	どのような種類の本を好んでお読みになりますか。 (複数回答可) <input type="checkbox"/> 小説 <input type="checkbox"/> 歴史・伝記 <input type="checkbox"/> 社会問題 <input type="checkbox"/> 技術・情報 <input type="checkbox"/> 哲学・思想 <input type="checkbox"/> その他

4.3.2. 各心理尺度・指標の基本統計量と関連性の確認

大衆性尺度をはじめ、各心理データの分布図を示す。それぞれ概ね単峰性が確認された。これらを取りまとめ、表 4-7 において基本統計量を整理する。なお、wave1 については、wave2 との比較に用いるデータ（つまり、wave2 までの協力者のデータ）「wave1-2」と、wave3 との比較に用いるデータ（つまり、wave3 までの協力者のデータ）「wave1-3」の 3 種類、そして、wave1-2, wave1-3 については、それぞれ実験群と制御群に分けて整理する。





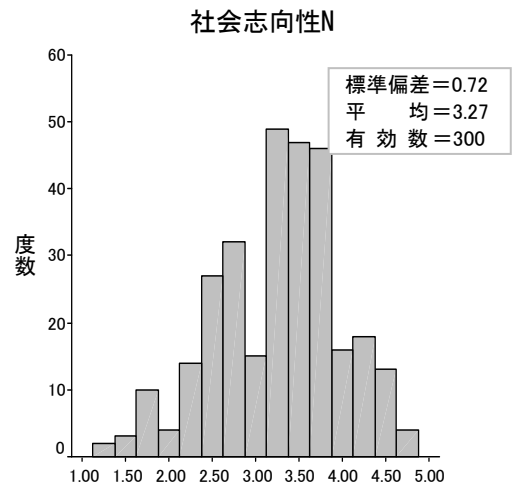
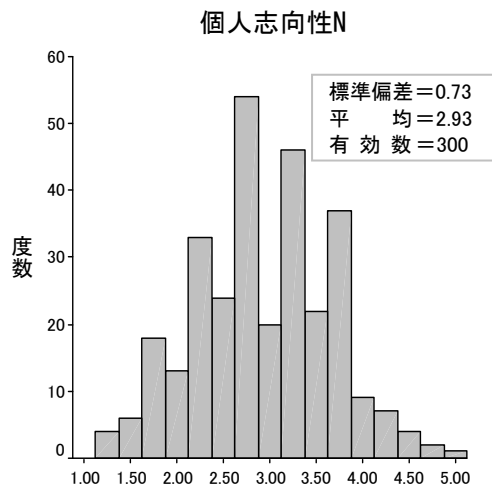


表 4-7 wave1 における各心理尺度の基本統計量

尺度	n	M	Min	Max	SD
大衆尺度得点	299	3.14	1.59	4.94	0.62
傲慢性尺度	300	3.05	1.36	5.36	0.74
自己閉塞性尺度	299	3.32	1.33	6.00	0.92
利他価値	298	3.28	-0.29	6.14	1.24
利己価値	297	2.26	-1.00	6.25	1.55
変化価値	300	3.76	-0.33	6.33	1.59
伝統価値	299	4.07	0.11	6.11	0.88
将来価値	300	3.29	1.00	5.67	0.75
個人志向性P尺度	300	3.37	1.63	5.00	0.64
社会志向性P尺度	300	3.80	1.67	4.89	0.57
個人志向性N尺度	300	2.93	1.17	5.00	0.73
社会志向性N尺度	300	3.27	1.29	4.86	0.72
家庭内コミュニケーション・しつけ	300	5.04	1.43	7.00	0.94
地域内コミュニケーション・地域連帯	300	4.56	1.29	6.86	0.99

注) 大衆性尺度, 傲慢性尺度, 自己閉塞性尺度については, wave1の調査結果

表 4-8 wave1-2（実験群）の各心理尺度の基本統計量

尺度	N	M	Min	Max	SD
大衆尺度得点	41	3.16	2.35	4.35	0.53
傲慢性尺度	41	3.00	2.09	4.27	0.56
自己閉塞性尺度	41	3.46	1.67	5.67	0.91
利他価値	41	3.20	0.29	5.86	1.12
利己価値	40	2.16	-0.75	6.00	1.78
変化価値	41	3.71	-0.33	6.33	1.60
伝統価値	41	3.99	1.78	5.56	0.90
将来価値	41	3.40	1.83	4.67	0.67
個人志向性P尺度	41	3.34	1.63	4.63	0.59
社会志向性P尺度	41	3.75	2.22	4.89	0.63
個人志向性N尺度	41	3.04	1.50	4.00	0.58
社会志向性N尺度	41	3.34	1.29	4.57	0.67
生き方尺度	41	4.07	2.93	4.93	0.44
代表的日本人得点	41	3.37	2.29	4.05	0.39
家庭内コミュニケーション・しつけ	41	4.96	2.57	6.57	0.95
地域内コミュニケーション・地域連帯	41	4.64	2.86	6.86	0.87

表 4-9 wave1-2（制御群）における各心理尺度の基本統計量

尺度	N	M	Min	Max	SD
大衆尺度得点	71	3.07	1.76	4.94	0.67
傲慢性尺度	71	3.02	1.45	5.00	0.77
自己閉塞性尺度	71	3.14	1.67	6.00	0.91
利他価値	69	3.47	0.86	6.14	1.15
利己価値	71	2.30	-1.00	6.25	1.61
変化価値	71	3.63	0.33	6.00	1.49
伝統価値	71	4.04	0.11	6.11	1.01
将来価値	71	3.42	1.67	4.67	0.71
個人志向性P尺度	71	3.36	1.88	4.63	0.63
社会志向性P尺度	71	3.84	2.11	4.89	0.60
個人志向性N尺度	71	2.89	1.33	4.67	0.78
社会志向性N尺度	71	3.25	1.29	4.86	0.79
生き方尺度	71	4.11	2.47	5.00	0.50
代表的日本人得点	71	3.40	2.19	4.52	0.44
家庭内コミュニケーション・しつけ	71	5.22	2.86	6.71	0.86
地域内コミュニケーション・地域連帯	71	4.70	1.86	6.57	0.92

表 4-10 wave1-3（実験群）における各心理尺度の基本統計量

尺度	N	M	Min	Max	SD
大衆尺度得点	62	3.06	1.76	4.94	0.69
傲慢性尺度	62	3.01	1.45	5.00	0.77
自己閉塞性尺度	62	3.15	1.67	6.00	0.96
利他価値	60	2.00	1.14	0.86	3.39
利己価値	62	2.25	-1.00	6.25	1.57
変化価値	62	3.76	0.67	6.00	1.47
伝統価値	62	3.98	0.11	6.11	1.03
将来価値	62	3.41	1.67	4.67	0.71
個人志向性P尺度	62	3.31	1.88	4.63	0.63
社会志向性P尺度	62	3.81	2.11	4.78	0.57
個人志向性N尺度	62	2.88	1.50	4.50	0.74
社会志向性N尺度	62	3.22	1.29	4.86	0.81
生き方尺度	62	4.10	2.47	5.00	0.50
代表的日本人得点	62	3.41	2.19	4.52	0.45
家庭内コミュニケーション・しつけ	62	5.31	2.86	6.71	0.84
地域内コミュニケーション・地域連帯	62	4.67	1.86	6.57	0.93

表 4-11 wave1-3（制御群）における各心理尺度の基本統計量

尺度	N	M	Min	Max	SD
大衆尺度得点	38	3.17	2.35	4.35	0.54
傲慢性尺度	38	2.98	2.09	4.27	0.55
自己閉塞性尺度	38	3.51	1.67	5.67	0.91
利他価値	38	3.13	0.29	5.86	1.13
利己価値	37	2.07	-0.75	5.50	1.68
変化価値	38	3.65	-0.33	6.00	1.55
伝統価値	38	3.95	1.78	5.56	0.91
将来価値	38	3.40	1.83	4.67	0.69
個人志向性P尺度	38	3.34	1.63	4.63	0.60
社会志向性P尺度	38	3.75	2.22	4.89	0.63
個人志向性N尺度	38	3.03	1.50	4.00	0.59
社会志向性N尺度	38	3.32	1.29	4.57	0.69
生き方尺度	38	4.06	2.93	4.93	0.42
代表的日本人得点	38	3.37	2.29	4.05	0.40
家庭内コミュニケーション・しつけ	38	4.99	2.57	6.57	0.96
地域内コミュニケーション・地域連帯	38	4.63	2.86	6.86	0.88

続いて、大衆性を構成する傲慢性尺度、自己閉塞性尺度と各心理尺度との相関分析を行った結果を表 4-12 に示す。まず、大衆性尺度と社会的価値尺度との間の相関について、傲慢性尺度は、利己価値、変化価値と有意に正の相関を示し、将来価値と有意に負の相関を示した。一方、自己閉塞性尺度は、利他価値、変化価値、伝統価値、将来価値のすべてと有意に負の相関を示した。これらの結果は、羽鳥ら¹⁾で得られた結果と同様の相関関係を示している。また、この先行研究において、大衆性尺度と社会的価値尺度との相関関係は Ortega の記述と整合的であり、理論的に解釈可能であることが指摘されている。これらの点を踏まえれば、以上の結果より、本研究の大衆性尺度に一定の妥当性が存在することが本実験からも改めて示唆されたものと考えられる。

次に、幼少期の生活環境に関する尺度については、自己閉塞性尺度との間にのみ有意な相関が見られた。すなわち、自己閉塞性尺度は、「家庭内コミュニケーション・しつけ」と「地域内コミュニケーション・地域連帯」尺度と有意に負の相関を示した。とりわけ、前者との相関係数の水準は他のものよりも大きなものであったことが示された。一方、傲慢性については、幼少期の生活環境についての尺度との有意な相関は見られなかった。この結果は、幼少期の家庭内のコミュニケーションやしつけが十分でなく、また、幼少期に地域コミュニティと接触する機会が少ないほど、大衆性の一側面である自己閉塞性が増長される可能性を示唆している。以上の結果についても、藤井⁷⁾らの先行調査から得

表 4-12 大衆性と各指標との相関分析結果

	傲慢性		自己閉塞性	
	r	p	r	p
傲慢性	-		.157 **	.006
自己閉塞性	.157 **	.006	-	
利他価値	-.057	.326	-.283 **	.000
利己価値	.274 **	.000	-.005	.931
変化価値	.149 **	.010	-.165 **	.004
伝統価値	-.104	.073	-.306 **	.000
将来価値	-.186 **	.001	-.226 **	.000
個人志向性P尺度	.046	.422	-.182 **	.002
社会志向性P尺度	-.084	.145	-.355 **	.000
個人志向性N尺度	.288 **	.000	-.009	.879
社会志向性N尺度	-.123 *	.033	-.029	.620
家庭内コミュニケーション・しつけ	-.084	.147	-.411 **	.000
地域内コミュニケーション・地域連帯	-.096	.097	-.228 **	.000

** : 1%水準で有意 (両側)

* : 5%水準で有意 (両側)

られている結果と概ね同様のものである。

また、個人志向性尺度に関して、その P 尺度については自己閉塞性尺度と有意に負の相関を示し、N 尺度については傲慢性尺度と有意に正の相関を示した。また、社会志向性尺度に関して、その P 尺度については自己閉塞性尺度と有意に負の相関を示し、N 尺度については傲慢性尺度と有意に負の相関を示した。ここで、個人志向性 P 尺度は自己実現への欲求を表し、また、社会志向性 P 尺度は社会規範への志向を表しており⁵⁾、外部環境からの閉塞性を意味する自己閉塞性が、これら個人志向性 P 尺度、社会志向性 P 尺度の双方と負の相関関係を持つという結果は、理論的に解釈可能であると考えられる。その一方で、個人志向性 N 尺度はエゴの表出を意味するものであることから、この尺度は傲慢性と類似した概念であると考えられる。また、社会志向性 N 尺度は、他者への一方的な依存・従属を表しているが⁶⁾、傲慢性の高い個人は、そうした依存や従属を忌避する傾向にあるものと考えられる。それ故、傲慢性が、個人志向性 N 尺度と正の相関を示し、社会志向性 N 尺度と負の相関を示したことについても、理論的に解釈可能な結果であると考えられる。

以上、本研究の大衆性尺度は、既往の心理尺度と理論的に解釈可能な関連性を持つことが示されたが、これらの結果は、羽鳥ら¹⁾と同様に、本研究における大衆性尺度に、一定の経験的な妥当性が存在している可能性が、異なる調査データから改めて示唆されたものと解釈することが可能である。

4.4. 書籍通読が大衆性に及ぼす影響

4.4.1. 大衆性低減仮説の検証

全 3 回の調査における、大衆性尺度得点、傲慢性尺度得点、及び自己閉塞性尺度得点について、wave 1（事前 1）と wave 2 時点での平均値と分散を比較した結果を表 4-13 及び図 4-2、図 4-3、図 4-4 に示す。また、wave 1（事前 2）と wave 3 時点での平均値と分散を比較した結果を表 4-14 及び図 4-5、図 4-6、図 4-7 に示す。なお、wave 1（事前 1）とは、wave 2 実験協力者のみを対象として算出した wave 1 得点であり、wave 1（事前 2）とは、wave 3 実験協力者のみを対象として算出した wave 1 得点である。

表 4-13 大衆性尺度の変化 (wave1-wave2)

実験群 (n=71)

	wave1(事前1)	wave2	変化	変化のt値とp値
大衆性	3.07	3.01	-0.05	t=-1.41 p=.162
傲慢性	3.02	2.90	-0.12	t=-2.08 p=.041
自己閉塞性	3.14	3.22	0.07	t=1.08 p=.283

統制群 (n=41)

	wave1(事前1)	wave2	変化	変化のt値とp値
大衆性	3.16	3.21	0.04	t=0.68 p=.500
傲慢性	3.00	3.03	0.03	t=0.45 p=.653
自己閉塞性	3.46	3.53	0.06	t=0.52 p=.608

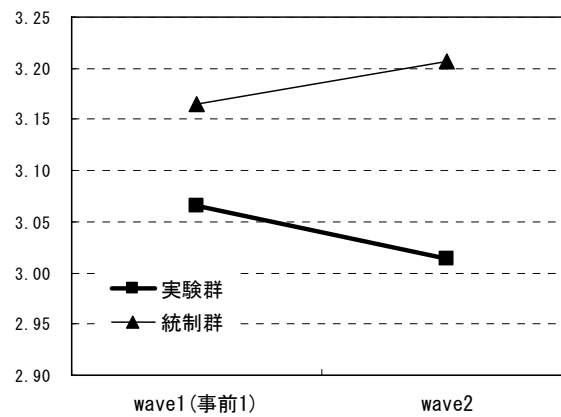


図 4-2 大衆性得点の変化 (wave1-wave2)

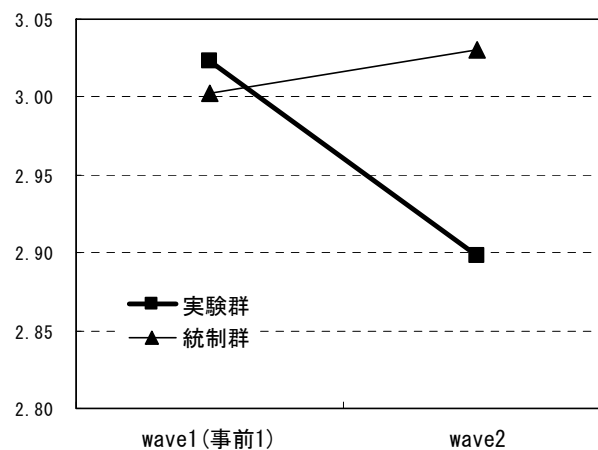


図 4-3 自己閉塞性得点の変化 (wave1-wave2)

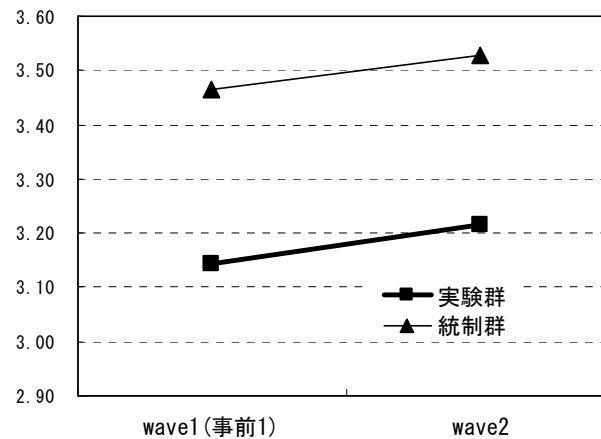


図 4-4 傲慢性得点の変化 (wave1-wave2)

表 4-14 大衆性尺度の変化 (wave1-wave3)

実験群 (n=62)

	wave1(事前2)	wave3	変化	変化のt値とp値
大衆性	3.06	2.99	-0.08	t=-1.51 p=.137
傲慢性	3.01	2.89	-0.13	t=1.80 p=.077
自己閉塞性	3.15	3.17	0.02	t=0.23 p=.822

統制群 (n=38)

	wave1(事前2)	wave3	変化	変化のt値とp値
大衆性	3.17	3.01	-0.15	t=-1.93 p=.061
傲慢性	2.98	2.82	-0.16	t=-1.78 p=.083
自己閉塞性	3.51	3.37	-0.14	t=-1.17 p=.251

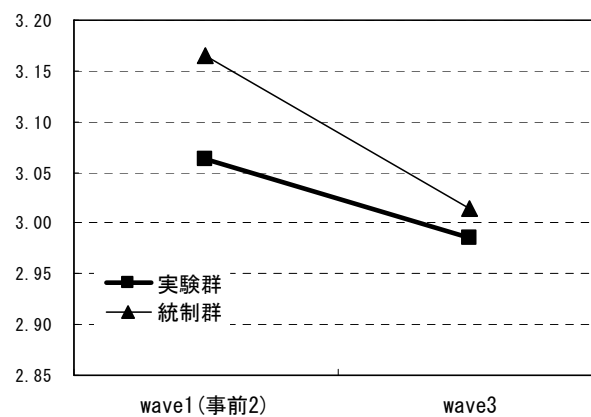


図 4-5 大衆性得点の変化 (wave1-wave3)

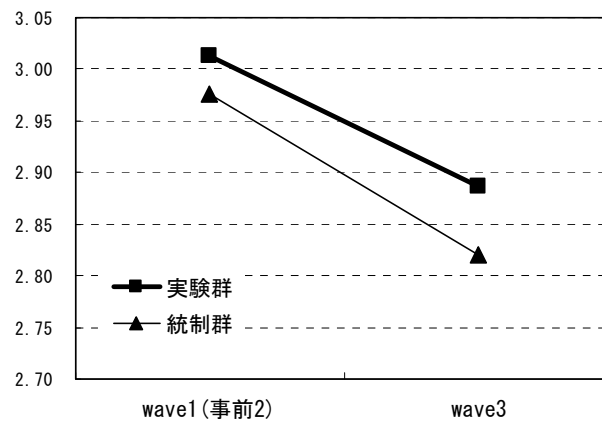


図 4-6 自己閉塞性得点の変化 (wave1-wave3)

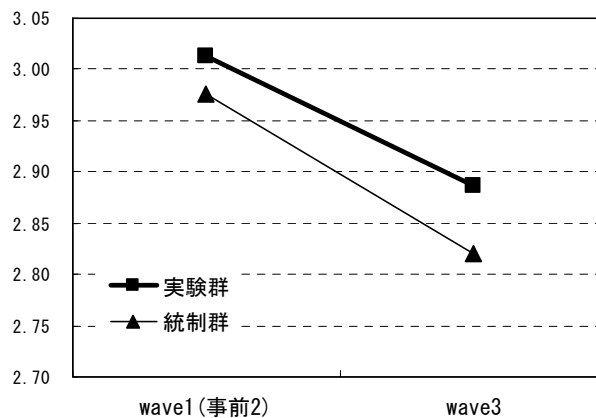


図 4-7 傲慢性得点の変化 (wave1-wave3)

書籍通読直後（約 2 週間）の大衆性の変化について、wave 1（事前 1）と wave 2 の大衆性得点、傲慢性得点、及び自己閉塞性得点のそれぞれの尺度について、2（wave 1 得点 vs. wave 2 得点）× 2（実験群 vs. 統制群）の反復測定分散分析を行ったところ、傲慢性尺度について、2 要因の交互作用が有意となり（ $F(1, 218) = 2.81, p = .097$ ）、「代表的日本人」を読んだ実験協力者において、『You Tube 革命』を読んだ実験協力者よりも、一般にその傲慢性が抑制されるという傾向が示された。

続いて、書籍通読から一定期間（約 3 ヶ月）経過後の、実験群と統制群の大衆性の変化を比較検証するために、上記と同様の分析を、wave 1（事前 2）と wave 3 に対しても行ったところ、まず、大衆性尺度については、wave 1/wave 3 の主効果（ $F(1, 98) = 6.51, p = .012$ ）は有意であったが、両要因の交互作用（ $F(1, 98) = 0.69, p = .408$ ）は有意ではなかった。傲慢性尺度についても同様に、wave 1/wave 3 の主効果（ $F(1, 98) = 6.26, p = .014$ ）は有意であったが、両要因の交互作用（ $F(1, 98) = 0.07, p = .797$ ）は有意ではなかった。自己閉塞性尺度については、wave 1/wave 2 の主効果（ $F(1, 98) = 0.95, p = .333$ ）、両要因の交互作用（ $F(1, 98) = 1.47, p = .228$ ）ともに有意ではな

かった。すなわち、書籍通読後約 3 ヶ月においては、大衆性の変化について実験群・統制群との間に有意な差は確認されなかった。

4.4.2. 書籍通読効果の規定要因

次に、「代表的日本人」通読による効果がどのような条件に依存しているかについて検証するため、本研究で採用した各心理尺度を用いて探索的な分析を行った。まず、統制群・実験群のそれぞれについて、wave 2, wave 3 時点において測定した、大衆性、傲慢性、及び自己閉塞性尺度の wave1 に比した“変化量”を従属変数に、各心理尺度を説明変数にとった単回帰分析を行い、その上で、両群の係数の間に有意な差が見られる要因を検出した。ここで、幼少期の生活環境に関する心理尺度については、より詳細に検証するため、「家庭内コミュニケーション・しつけ」尺度、「地域内コミュニケーション・地域連帯」尺度に加えて、各尺度を構成する個々の質問項目も説明変数として用いた。

1) wave 2 時点での効果規定要因

以上の前提で行った wave 2 時点での分析結果について、有意な係数が得られたものを表 4-15 に示す。なお、表中の「child 15」などの記号は、幼少期の生活環境に関する質問項目について、分析の際に便宜的に付与した記号である。

まず、書籍通読による大衆性の変化について、幼少期の生活環境に関する質問項目「child 8」、「child 14」、「child 23」、及び「個人志向性 N 尺度」の項目において、実験群と統制群の間で統計的に有意な差が見られた。この結果は、幼少期の生活環境について、実験群における回帰係数が負であるのに対して、統制群における回帰係数が正であることから、子どもころ「一人部屋があった」人、「欲しいものを買ってもらっていた」人、もしくは「社会問題が家族の間で話題になっていた」人において、『代表的日本人』

表 4-15 大衆性尺度の変化量に関する単回帰分析結果 (wave1-wave2)

説明変数	従属変数：大衆性の変化				従属変数：傲慢性の変化				従属変数：自己閉塞性の変化			
	B		t検定		B		t検定		B		t検定	
	実験群	統制群	t値	p値	実験群	統制群	t値	p値	実験群	統制群	t値	p値
高自己閉塞性ダミー	-0.12	-0.31	1.28	.20	-0.04	-0.09	0.27	.79	-0.28	-0.71	1.74	.09 *
個人志向性N尺度	-0.06	0.19	2.28	.02 **	-0.06	0.20	1.96	.05 **	-0.04	0.17	1.06	.29
社会志向性N尺度	0.16	0.22	0.70	.49	0.23	0.13	0.87	.38	0.02	0.41	2.19	.03 **
子どもころ、神棚が家にありましたか?(child5)	0.05	0.10	0.29	.77	0.20	0.01	0.88	.38	-0.24	0.27	1.73	.09 *
子どもころ、家に自分の一人部屋がありましたか?(child8)	-0.17	0.10	1.73	.09 *	-0.22	0.27	2.55	.01 **	-0.10	-0.22	0.44	.66
子どもころ、欲しいと思うものは何でも買ってもらえましたか?(child14)	-0.05	0.04	1.86	.07 *	-0.09	0.02	1.75	.08 *	0.01	0.09	0.84	.40
子どもころ、食事のときよくテレビをつけていましたか?(child15)	0.02	-0.03	1.41	.16	0.02	0.00	0.37	.71	0.02	-0.10	1.69	.09 *
子どもころ、親子間の会話は多かったと思いますか?(child22)	-0.06	0.01	1.01	.31	-0.12	0.07	2.21	.03 **	0.05	-0.10	1.38	.17
子どもころ、社会の問題が家族の間で話題となることはありましたか?(child23)	-0.01	0.08	2.14	.03 **	-0.06	0.06	2.21	.03 **	0.06	0.10	0.56	.58

** : 5%水準で有意 (両側) * : 10%水準で有意 (両側)

を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、少なくともその通読から約 2 週間の間は、その大衆性が抑制される傾向が高いことを示している^[2]。また、「個人志向性 N 尺度得点が高い」人ほど、『代表的日本人』を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、本調査期間において、その大衆性が抑制される傾向が見られた。

次に、書籍通読による傲慢性の変化について、幼少期の生活環境に関する質問項目「child8」、「child14」、「child22」、「child23」、及び、「個人志向性 N 度」の項目において、実験群と統制群の間で統計的に有意な差が見られた。この結果は、前段と同様に、幼少期の生活環境について、子どものころ「一人部屋があった」人、「欲しいものを買ってもらっていた」人、「親子間の会話が多かった」人、「社会問題が家族の間で話題になっていた」人において、『代表的日本人』を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、少なくともその通読から約 2 週間の間は、その傲慢性が抑制される傾向が高いことを示している。また、「個人志向性 N 尺度得点が高い」人ほど、『代表的日本人』を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、本調査期間において、その傲慢性が抑制される傾向が見られた。

最後に、書籍通読による自己閉塞性の変化について、幼少期の生活環境に関する質問項目「child5」、「child15」、及び、「社会志向性 N 尺度」、「高自己閉塞性ダミー」の項目において、実験群と統制群の間で統計的な有意差が見られた。この結果は、幼少期の生活環境については、子どものころ「神棚が家にあった」人、「食事のときよくテレビをつけていなかった」人において、『代表的日本人』を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、少なくともその通読から約 2 週間の間は、その自己閉塞性が抑制される傾向が高いことを示している^[3]。また、「社会志向性 N 尺度得点が高い」人ほど、『代表的日本人』を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、本調査期間において、その自己閉塞性が抑制される傾向が見られた^[4]。さらに、「高自己閉塞性ダミー」については、実験群、統制群ともにその回帰係数が負であり、かつ統制群の方が係数の絶対値が大きいことから、自己閉塞性の高い人ほど、『代表的日本人』を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、少なくともその通読から約 2 週間においては、その自己閉塞性の抑制効果が小さい可能性を示している。このことは少なくとも、『代表的日本人』は自己閉塞性の高い人には理解され難いという可能性を示唆するものである。なお、第 3 章の推論において論じているように、自己閉塞性が高い個人においては、高德な人物の物語に触れても、彼の自己閉塞性故に、その物語を受け入れる傾向が少なく、それ故、『代表的日本人』通読の効果が低下するであろうことが予想されるのであり、この結果は、その議論に経験的妥当性が存在する可能性を示すものである。

2) wave 3 時点での効果規定要因

次に、wave 3 時点での分析結果について、有意な係数が得られたものを表 4-16 に示す。

この表に示すように、大衆性の変化について、「個人志向性 N 尺度」、「家庭内コミュニケーション・しつけ」、「child11」、「child17」、「child22」、「child23」の項目において、実験群と制御群の間で統計的に有意な差が見られた。この結果は、幼少期の生活環境について、実験群における回帰係数が負であるのに対し、制御群における回帰係数は正であることから、子どものころ「家庭内コミュニケーションが豊富で、しつけがきちんとなされていた」人、「家庭内のあいさつをしっかりとっていた」人、「季節の行事を家庭内でよく行っていた」人、「親子間の会話が多かった」人、もしくは「社会の問題が家族の間で話題となることが多かった」人において、『代表的日本人』を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、少なくともその通読から約 3 ヶ月時点において、その大衆性が抑制される傾向が高いことを示している¹⁵⁾。また、その他の尺度についても同様に、「個人志向性 N 尺度得点が高い」人ほど、『代表的日本人』を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、本調査期間において、その大衆性が抑制される傾向が見られた。

次に、書籍通読による傲慢性の変化について、「child8」、「child22」の項目において、実験群と制御群の間で統計的な有意差が見られた。この結果は、幼少期の生活環境について、実験群における回帰係数が負であるのに対し、制御群における回帰係数は正であることから、子どものころ「自分の一人部屋があった」人、「親子間の会話がかった」人において、『代表的日本人』を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、少なくともその通読から約 3 ヶ月の間は、その大衆性が抑制される傾向が高いことを示している¹⁶⁾。

次に、書籍通読による自己閉塞性の変化については、「個人志向性 N 尺度」、「家庭内コミュニケーション・しつけ」、「child10」、「child11」、「child15」、「child21」、「child23」

表 4-16 大衆性尺度の変化量に関する単回帰分析結果 (wave1-wave3)

説明変数	従属変数：大衆性の変化				従属変数：傲慢性の変化				従属変数：自己閉塞性の変化			
	B		t検定		B		t検定		B		t検定	
	実験群	統制群	t値	p値	実験群	統制群	t値	p値	実験群	統制群	t値	p値
個人志向性N尺度	-0.03	.23	1.91	.06 *	-0.04	0.14	1.09	.28	0.01	0.40	1.93	.06 *
家庭内コミュニケーション・しつけ	-0.06	.13	1.82	.07 *	-0.04	0.08	0.94	.35	-0.08	0.21	2.01	.05 **
子どものころ、家に自分の一人部屋がありましたか?(child8)	-0.12	0.10	1.23	.22	-0.15	0.31	2.05	.04 **	-0.07	-0.29	0.80	.43
子どものころ、家の手伝いをふだんしていましたか?(child10)	0.00	0.07	1.30	.20	0.03	0.04	0.16	.87	-0.05	0.13	2.30	.02 **
子どものころ、「おはよう」「いただきます」といった家庭内のあいさつをしっかりとっていましたか?(child11)	-0.11	0.00	2.03	.04 *	-0.14	-0.04	1.38	.17	-0.06	0.08	1.68	.10 *
子どものころ、食事のときよくテレビをつけていましたか?(child15)	-0.01	-0.04	0.66	0.51	-0.05	-0.02	0.38	.71	0.06	-0.06	1.84	.07 *
子どものころ、「節分」「ひな祭り」「端午の節句」などの季節の行事を家庭内でよく行っていましたか?(child17)	0.02	0.10	1.89	.06 *	0.03	0.12	1.56	.12	-0.01	0.07	1.16	.25
子どものころ、家族での移動はいつも自動車でしたか?(child21)	-0.02	-0.05	0.61	.55	-0.04	-0.01	0.57	.57	0.01	-0.12	2.09	.04 **
子どものころ、親子間の会話は多かったと思いますか?(child22)	-0.09	0.06	2.06	.04 **	-0.14	0.09	2.42	.02 **	0.00	0.01	0.13	.90
子どものころ、社会の問題が家族の間で話題となることはありましたか?(child23)	0.00	0.09	1.78	.08 *	-0.01	0.02	0.50	.62	0.01	0.20	2.75	.01 **

**：5%水準で有意（両側） *：10%水準で有意（両側）

の項目において、実験群と制御群の間で統計的に有意な差が見られた。この結果は、幼少期の生活環境について、実験群における回帰係数が負であるのに対し、制御群における回帰係数は正であることから、「個人志向性 N 尺度得点が高い」人、あるいは、子どものころ「家庭内コミュニケーションが豊富で、しつけがきちんとなされていた」人、「学校から帰ってきたとき家族がいた」人、「家庭内のあいさつをしっかりとっていた」人、「食事のときにテレビをつけていなかった」人、「家族での移動が自動車でなかった」人、「社会問題が家族で話題になった」人において、『代表的日本人』を読む方が、『You Tube 革命』を読むことに比べて、少なくともその通読から約 3 ヶ月の間は、その大衆性が抑制される傾向が高いことを示している¹⁶⁾。

4.4.3. 書籍通読効果の波及的影響

wave 3 調査において質問した、書籍の波及的影響に関して、実験群において 17 人 (27%)、統制群において 5 人 (13%) の実験協力者が、自分の読んだ書籍を周囲の人々に薦めていたことが分かった。その回答と群とのクロス集計表を作成し、 χ^2 検定を行ったところ、群間で傾向差があるという結果が得られた ($\chi^2=2.79$, $p=.094$)。この結果は、「代表的日本人」の方が、「You Tube 革命」に比べて、他の人々に波及する可能性が高いことを示唆する結果であると考えられる。

4.5. 考察

4.5.1. 「代表的日本人」通読による持続的効果の検証

書籍通読直後 (約 2 週間後) において、大衆性を構成する 2 つの尺度のうち、傲慢性において、「代表的日本人」通読効果に関する仮説を支持する結果が得られた。ここで、Ortega の論ずる大衆性が「傲慢性と自己閉塞性を併せ持つ存在」として描出されており、この想定が、両尺度の相関が有意に正であるという実験データによっても、経験的に裏付けられていることを踏まえれば、「代表的日本人」を通読した人において、大衆性を構成する傲慢性が抑制されるという先行研究の結果は、本書籍の通読が、部分的なものであれ、大衆性の抑制に寄与する方向に働く可能性を示唆するものと解釈することができる。

ただし、その通読から一定期間 (約 3 ヶ月) 経過後においては、本仮説を支持する統計的に有意な結果が得られず、「代表的日本人」通読による効果を確認することが出来なかった。この結果から、「代表的日本人」の通読は、傲慢性の抑制に対して短期的な効果を及ぼし得るものの、少なくとも「万人」に対しては、読了後の時間の経過に伴い、その効果が安定的に持続し難い可能性が存在するものと考えられる。

4.5.2. 幼少期の生活環境が「代表的日本人」通読効果に及ぼす影響

この様に、「代表的日本人」通読による大衆性低減の効果は、少なくとも「万人」にお

いて、安定的に持続するものではないという可能性が示されたものの、特定の条件を持つ個人については、その効果が持続する可能性が考えられる。そこで、この可能性について検討したところ、wave 2, wave 3における大衆性、傲慢性、及び自己閉塞性の全ての変化に対し、幼少期の生活環境に関する要因について、統計的に有意な結果が得られた。特に、書籍通読から一定期間（約 3 ヶ月）経過後に測定した効果に対して、幼少期の生活環境が顕著な影響を及ぼすという結果が得られた。この結果は、幼少期に、基本的なしつけをしっかりと受けていた人や、家庭内のコミュニケーションや地域内の交流が活発であった人ほど、「代表的日本人」の通読によって、大衆性およびそれを構成する傲慢性と自己閉塞性が抑制され、かつ、その抑制効果の持続性が高い傾向にあることを表している^[4]。その反対に、幼少期に、家庭内のしつけや地域連帯が不足していた人においては、一般に「代表的日本人」を通読することによって、その大衆性が抑制される傾向が低いことを示している。

4.5.3. 良書波及による大衆性抑制の可能性

本実験では、「You Tube 革命」に比べて、「代表的日本人」の方が、人々に波及しやすい傾向にあることが示された。冒頭で述べたように、先行研究（伊地知他，2010）において「代表的日本人」を「良書」として選定する際には、本書が高徳なる精神性を含んでいるものと想定していた。したがって、本研究で得られた結果は、以下のような可能性を暗示するものと言えよう：「良書」に含まれた高徳なる精神性は、その良書の紹介を通じて、人々の間で自発的に波及（伝染）していく。この解釈に一定の妥当性があるとするならば、「代表的日本人」をはじめとする高い精神性を秘めた「良書」なるものは、その内容故に、人々の手によって、地域を越えて、また、時代を通じて“自発的に”広がっていくものと考えられる。つまり、「良書」とそこに秘められた高徳なる精神性は、空間的にも時間的にも伝播するのであり、その時間的広がりによって、いずれ、一般に言うところの「古典」になる可能性が考えられる^[7]。

本研究より、一般に、一個人においては「代表的日本人」通読による効果が安定的に持続し難い可能性が示され、一個人における一冊の「良書」通読による効果に限界が存在する可能性が示唆されたものの、この「良書」波及による 2 次的な効果の可能性を加味するならば、大衆性抑制に向けた方策の一つとして、良書通読という方途には、一定の有用性があると考えられる。

なお、本研究が大学生のみを対象としていることから、今後は、そうした方策の効果について、より一般的な知見を得るために、幅広い年齢層を対象とした調査実験を進めていくことが重要である。ただし、先行研究（伊地知他，2010）で措定した理論仮説が真でないとすれば、仮に大学生サンプルであったとしても、そして、良書の一つであるところの『代表的日本人』を活用した実験であったとしても、その仮説を支持“しない”データが得られ、また、一部の対象者における持続的効果や波及効果も確認“できない”

であろうことが予想されるところである。それ故、本実験データを用いた仮説検証とその追加分析にも、一定の経験的妥当性が存在するものと思われる。ただし、繰り返しとなるが、本研究における効果の計測や要因の抽出をより厳密なものとするためには、今後より広範なサンプルや異なる実験条件を用いた仮説検証と追加分析が必要となることは言うまでもない。その意味において、先述のとおり、本報告は、そうした研究の第一歩と位置づけられるであろう。

第4章脚注

- [1] ここでは、「代表的日本人」通読による効果をより明確に検証するために、統制群に対して、その価値観や人格に出来るだけ影響を及ぼさないような書籍を読んでもらうことを考え、「You Tube 革命」を選定することとした。本書は、You Tube の性能やサイトを中心に諸現象を解説しており、You Tube やインターネット、メディアに対する認識については、読者に影響を与え得るが、本研究で対象とするような、個人の性格や価値観に対しては、大きな影響は及ぼさないと考えられる。
- [2] ただし、子どものころ「自分の一人部屋があった」については、家庭内のコミュニケーションを抑制するように働く可能性が考えられ、「欲しいものを買ってもらっていた」については、傲慢性に類似する性質が助長される可能性が考えられられるが、本実験から、良書通読による大衆性抑制効果に寄与するという結果が得られた。これらの点については、今後の課題としたい。
- [3] 「子どものころ、食事のときによくテレビをつけていましたか?」の項目については、回帰係数の正負を逆転し、その解釈を逆に与えることで、このように記述できる。
- [4] 「社会志向性 N 尺度」では、両群とも係数が正であるが、統制群に比べて実験群の方が有意に小さいため、このように解釈することが出来る（以下の考察についても、同様）。
- [5] 「子どものころ、『節分』『ひな祭り』『端午の節句』などの季節の行事を家庭内でよく行っていましたか? (child17)」の項目では、両群とも係数が正であるが、制御群に比べて実験群の方が有意に小さいため、このように解釈することが出来る。
- [6] 「子どものころ、食事のときによくテレビをつけていましたか? (child15)」, 及び「子どものころ、家族での移動はいつも自動車でしたか? (child21)」の項目は、回帰係数の正負を逆転し、その解釈を逆に与えることで、このように記述できる。また、「子どものころ、社会の問題が家族の間で話題となることはありましたか? (child24)」の項目においては、両群とも回帰係数が正であるが、制御群に比べて実験群の方が有意に小さいため、このように解釈することが出来る。なお、「個人志向性 N 尺度」についても同様である。
- [7] 3.1 において、「良書」の具有すべき条件として、「古典」なる要素を提起したが、以上の考察から、「良書」であるからこそ、その波及によって「古典」という要素を持ちえ

たとも考えることができる。

第 4 章参考文献

- 1) 羽鳥剛史, 小松佳弘, 藤井聡: 大衆性尺度の構成—“大衆の反逆”に基づく大衆の心的構造分析—, 心理学研究, Vol.79, No.5, pp.423-431, 2008.
- 2) Schwarz, S. H. : Universals in the content and structure of values: theoretical advances and empirical tests in 20 countries, *Advances in Experimental Social Psychology*, Vol.25, pp.1-65, 1992.
- 3) Strathman, A., Gleicher, F., Boninger, D.S., & Edwards, C.S. : The consideration of future consequences: Weighing immediate and distant outcomes of behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, Vol.66, pp.742-752, 1994.
- 4) Stern, P.C., Dietz, T., Abel, T., Guagnano, G.A. & Kalof, L. : A value-belief-norm theory of support for social movement: the case of environmentalism. *Human Ecology Review*, Vol.6, pp.81-97, 1999.
- 5) 伊藤美奈子: 個人志向性・社会志向性尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討 心理学研究, Vol.64, pp.115-122, 1993.
- 6) 伊藤美奈子: 個人志向性・社会志向性 PN 尺度の作成とその検討 臨床心理学研究, Vol.13, pp.39-47, 1995.
- 7) 藤井聡・羽鳥剛史・小松佳弘: オルテガ「大衆の反逆」論についての実証的研究 日本社会心理学会第 48 回大会論文集, pp.120-121, 2007.

第5章 大衆性抑制と利他的行動に関する検証

本章では、3.2における利他的行動の経験による大衆性抑制の可能性を示唆した推論について、仮説を措定し、実証実験を通じて検証した結果を取りまとめる。

5.1. 仮説の設定

3.2.の第二の推論を検証するために、以下のような仮説を措定した。

作業仮説：

ボランティア活動という行為を通じて、人々の大衆性が低減する

5.2. 調査対象者・手順

以上の仮説を検証するために、2010年4月に北海道医療大学および札幌大学の学生を対象としてアンケート調査を実施した。調査票の配布、記入、回収をすべて講義中に行ったところ、有効回答者151名を得た。そのうち、69人が男性(45.7%)、82人が女性(54.3%)であり、平均年齢は18.91歳、年齢の標準偏差は1.44歳であった。なお、このうちボランティア経験者は102名であった。

5.3. 調査項目

5.3.1. 各心理尺度・指標の構成

大衆性に関する項目

本調査では、仮説を検証するために、大衆性を測るための質問項目として、先行研究¹⁾で提案された大衆性尺度のうち、傲慢性と自己閉塞性のそれぞれについて、特に寄与率の高い項目上位5項目を抽出し表5-1に示すような10項目の質問を設定し、各項目について「とてもそう思う」から「全く思わない」の7件法での回答を要請した。なお、傲慢性尺度については対応する5項目の加算平均から、自己閉塞性尺度については対応する5項目のそれぞれを反転した上で求められる加算平均から、それぞれの尺度を構成した。それぞれの尺度の α 係数は、傲慢性について $\alpha = .71$ 、自己閉塞性について $\alpha = .66$ であった。 α 係数がやや低いものの、一定程度の信頼性が認められたため、これらの尺度を採用することとした。なお、「大衆性尺度」はこれらの「傲慢性尺度」、「自己閉塞性尺度」の尺度を加算することにより算出した。

また、大衆性の低減仮説を直接検証するための質問項目として、に示すような大衆性低減仮説測定項目（傲慢性低減仮説測定項目5項目、自己閉塞性低減仮説測定項目6項目）の質問を設定し、各項目について「とてもそう思う」から「全く思わない」の5件法で回答を要請した。なお、これらについても信頼性分析をおこなったところ、傲慢性低減仮説項目について $\alpha = .77$ 、自己閉塞性低減仮説項目について $\alpha = .79$ であった。

表 5-1 大衆性測定項目

傲慢性尺度

- 自分を拘束するのは自分だけだと思う
- 自分の意見が誤っていることなどないと思う
- 私は、どんな時でも勝ち続けるのではないかと、と何となく思う
- 自分個人の「好み」が社会に反映されるべきだと思う
- どんなときも自分を信じて、他人の言葉などに耳を貸すべきではないと思う

自己閉塞性尺度

- 伝統的な事柄に対して敬意・配慮をもっている★
- 日々の日常生活は感謝すべき対象で満たされている★
- 世の中は驚きに満ちていると感じる★
- 我々は、伝統を受け継ぎ、改良を加え、伝承していく義務があると思う★
- 自分自身への欲求が多いほうだ★

*score=7：全く思わない～どちらとも言えない～とてもそう思う

★逆転項目

表 5-2 大衆性低減仮説測定項目

傲慢性低減仮説測定項目

- ボランティアを経験して、「自分を拘束するのは自分だけだ」と思うようになりましたか？
- ボランティアを経験して、「自分の意見が誤っていることなどない」と思うようになりましたか？
- ボランティアを経験して、「私は、どんな時でも勝ち続けるのではないかと、と何となく思うようになりましたか？
- ボランティアを経験して、自分は人よりも高い能力があると、確信しましたか？
- ボランティアを経験して、自分は我が道を行くべきなのだ、と改めて感じましたか？

自己閉塞性低減仮説測定項目

- ボランティアを経験して、人とつきあう時には「謙虚さ」が重要だと感じましたか？
- ボランティアを経験して、「伝統的な事柄に対する敬意・配慮を感じるようになった」と感じますか？
- ボランティアを経験して、「日々の日常生活は感謝すべき対象で満たされている」と感じるようになりましたか？
- ボランティアを経験して、「世の中は驚きに満ちている」と感じるようになりましたか？
- ボランティアを経験して、人の話に耳を傾けることが大切だ、と感じましたか？
- ボランティアを経験して、自分の役割を考え、それを引き受ける事が大切だ、と感じましたか？

*score=5：全く思わない～どちらとも言えない～とてもそう思う

利他的行動に関する項目

ボランティア活動経験の有無に加え、経験者については以下のようにその内容を把握する設問を設けた。

- ・身近な清掃活動（公園・道路などの身近な場所）
- ・遠方での清掃活動（自宅から離れた公園・山林など）
- ・公的な場所（駅・市民会館等）での高齢者・障がい者の介助
- ・特定の施設や自宅訪問による高齢者・障がい者の介助
- ・観光案内などの支援
- ・農作業支援
- ・酪農支援
- ・林業支援
- ・漁業支援
- ・お祭りなどの伝統的な地域イベントの支援
- ・音楽、芸術祭などの文化的イベントの支援
- ・環境保護に資するイベント・活動の支援
- ・その他

また、利他的行動と大衆性の関係性を把握するために、既往研究における利他的行動の規定要因について表 5・3、表 5・4 に示すような質問項目を設けた。それぞれの要因の意味は次のとおりである。

- ・社会的つながり：「ボランティア活動をすることにより、他者とのコミュニケーションを取ることができ、友人を得る機会が得られる。また、ボランティア活動することは、他者に好意をいだかれやすくなる」ことを表している²⁾。坂野ら³⁾は、そうした要因を「社会的つながり」と、西川ら⁴⁾は「社会適応機能」とそれぞれ呼んでおり、ボランティア活動への参加動機の一つであることを指摘している。
- ・感謝：羽鳥ら⁵⁾は、「利他的行動は、一般の人々が利他的行動に対して「感謝」をする傾向が強い地域ほど、発生しやすく、また、定着しやすい」という仮説を進化心理学の視点から理論的に導き、アンケート調査により、まちづくり活動や町内会自治会活動において、この仮説を支持する結果を得ている。
- ・人に喜んでもらえる：塚本⁶⁾は、ボランティア活動者への聞き取り調査を通じて、ボランティア活動を続ける動機として、社会や人の「役に立つことの嬉しさ」という点を挙げている。
- ・実行可能性評価：実際に行動を行うことが可能であるかどうかについての評価であ

り、環境配慮行動の行動意図が形成される過程において、実行可能性の評価が、行意図の規定要因及び制約要因となり得ることが指摘されている^{7,8)}。

- ・対処有効性認知：「何らかの対処によって直面している（環境）問題が解決可能かどうか」に関する認知であり、環境保全を目指す運動への参加の促進要因であることが確認されている^{7,8)}。
- ・費用（コスト）、便益（ベネフィット）評価：「費用・便益評価」は、ある活動に参加することによって「得られる個人的な利益、もしくは被る不利益」に対する評価である⁹⁾。安藤ら⁹⁾の調査では、環境ボランティア活動の継続意図に対して、「コスト評価」が負の影響を及ぼす要因として確認されている。そして、環境配慮行動の行動意図に影響を及ぼす要因として「コスト評価」、「ベネフィット評価」が存在することも示されている^{7,8,9)}。また、元吉ら¹⁰⁾においても、地域防災活動の参加意図を規定する正の要因として「ベネフィット認知」が、負の要因として「コスト認知」が、指摘されている。
- ・感情的安寧：「ボランティア活動に参加することによってネガティブな自己像やプライベートな問題といった脅威から自己を守ることができる」ことを表している²⁾。坂野ら³⁾はそうした要因を「感情的安寧」と、西川・高木⁴⁾はこれを「防衛機能」とそれぞれ呼んでおり、ボランティア活動への参加動機の一つであることを指摘している。
- ・役に立つことのうれしさ：塚本⁶⁾は、ボランティア活動者への聞き取り調査を通じて、活動を続ける動機として、「人に喜んでもらえる」という点が存在することを指摘している。
- ・責任感：環境配慮行動の規定要因として、「責任」帰属の認知が存在することが示されている^{7,8)}。例えば、環境汚染の「責任」が自分自身にあると考えれば、環境配慮的行動の行動意図が強められるものと予想されている。また、塚本²⁶⁾は、ボランティア活動者への聞き取り調査を通じて、活動を続ける動機として、活動に携わることに対する「責任感」が存在することを指摘している。
- ・興味、関心：塚本ら⁶⁾は、一般市民の環境ボランティア活動への参加意欲や参加経験の規定要因、及び、ボランティア団体会員の地域行事への参加を促進する要因として、環境への「関心」を挙げている。また、元吉ら¹⁰⁾の研究では、地域における防災問題に対する「興味・関心」が、地域防災活動の行動意図に影響を及ぼすことを示している。

なお、各要因のうち、尺度化を構成したものについて信頼性分析をおこなったところ、社会的つながりについて $\alpha = .81$ 、ボランティア活動における便益の認知と評価について、それぞれ $\alpha = .71$ 、 $\alpha = .73$ 、感情的安寧については $\alpha = .81$ であった。ボランティア活動における費用の評価・認知については、信頼性分析の結果 α 係数が低かったことから、

個別の尺度として扱うこととした。以上の既往研究における利他的行動の規定要因に加え、他者との関係に関する要因として、主観的規範、人間関係、手伝ってくれる人の存在に関する項目を設けるとともに、その他の要因として時間的、経済的なゆとりに関する項目を追加した。

表 5-3 利他的行動の規定要因①

項目名	内 容
◆他者との関係に関する要因	
社会的つながり*	(以下3項目による尺度化) ・あなたの周りの人々は、「ボランティア活動」に対して、関心を寄せていると思いますか？ ・あなたの周りの人々は、「ボランティア活動」に携わる人を高く評価していると思いますか？ ・あなたの周りの人々は、「ボランティア活動」に携わることを、重要なことだと考えていると思いますか？
感謝*	「ボランティア活動」をしている場面、地域では、「ボランティア活動」に携わる人に対して感謝する傾向は、どれくらいあると思いますか？
人に喜んでもらえる(1)*	あなたの周りの人々は、あなたが「ボランティア活動」に携わることを喜ぶと思いますか？
人に喜んでもらえる(2)*	あなたが「ボランティア活動」に携わることで、関係する人々に喜んでもらえると思いますか？
主観的規範*	あなたの周りの人々は、「ボランティア活動」に携わることにに対して、賛成していると思いますか？
人間関係*	あなたは、「ボランティア活動」の中で、周りの人々との人間関係は良好であると思いますか？
手伝ってくれる人の存在*	あなたが「ボランティア活動」に携わるときに、手助けをしてくれる人は、どれくらいいると思いますか？
◆自己に関係する要因	
実行可能性評価**	あなたにとって「ボランティア活動」に携わることは、可能だと思いますか？
対処有効性認知**	あなたは、自分自身が「ボランティア活動」に携わることによって、実際に問題解決などに大きく貢献することができると思いますか？

*score=5: 全く思わない/全くない/全く感じない/全く望ましくない～どちらとも言えない～とてもそう思う/非常にある/非常に感じる/非常に望ましい

**score=4: そう思わない・少しそう思う・思う・とても強くそう思う

表 5-4 利他的行動の規定要因②

項目名	内 容
◆合理的要因	
便益の認知*	<p>(以下4項目による尺度化)</p> <p>「ボランティア活動」に関わることで、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「友人、ネットワークを得ることができる」ということをどの程度感じますか？ ・「自分の生き方に関する考え方が変わる」ということをどの程度感じますか？ ・「ボランティア活動」に携わるための技術・方法を学ぶことができる」ということをどの程度感じますか？ ・「自分が「ボランティア活動」に携わることで、事態が変わるかもしれないと思えるようになる」ということをどの程度感じますか？
便益の評価*	(上記の項目を「望ましい」と感じる程度についての尺度化)
費用の認知(1)*	あなたは、「ボランティア活動」に関わることで、「自分の自由な時間がなくなる」ということをどの程度感じますか？
費用の評価(1)*	また、「ボランティア活動」に関わることで、「自分の自由な時間がなくなる」ということが生じることを、望ましいことだと思いますか？
費用の認知(2)*	あなたは、「ボランティア活動」に関わることで、「仕事をこなすのが大変だ」ということをどの程度感じますか？
費用の評価(2)*	また、「ボランティア活動」に関わることで、「仕事をこなすのが大変だ」ということが生じることを、望ましいことだと思いますか？
費用の認知(3)*	あなたは、「ボランティア活動」に関わることで、「人間関係のストレスがある」ということをどの程度感じますか？
費用の評価(3)*	また、「ボランティア活動」に関わることで、「人間関係のストレスがある」ということが生じることを、望ましいことだと思いますか？
◆情緒的要因	
感情的安寧**	<p>(以下5項目で構成される尺度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな嫌な気分ときでも、「ボランティア活動」に携わることによって、そのことを忘れることができると思いますか？ ・「ボランティア活動」に携わることによって、孤独感を感じないで済むと思いますか？ ・「ボランティア活動」に携わることによって、自分が他の人よりも幸福であることの罪悪感が和らぐと思いますか？ ・「ボランティア活動」に携わることによって、あなた自身の個人的な煩わしいことから逃れられると思いますか？ ・「ボランティア活動」に携わることは、あなた自身の個人的な問題を解決
役に立つことにうれしさ*	あなたは、自分自身が「ボランティア活動」に携わることで、人々の役に立つことに喜びを感じますか？
◆責任意識に関する要因	
責任感**	あなたには、「ボランティア活動」に取り組む責任があると思いますか？
◆その他の要因	
興味関心**	あなたは、「ボランティア活動」に興味がありますか？
時間的ゆとり*	あなたは、時間的に見て、どの程度ゆとりがあると思いますか？
経済的ゆとり*	あなたは、経済的に見て、どの程度ゆとりがあると思いますか？

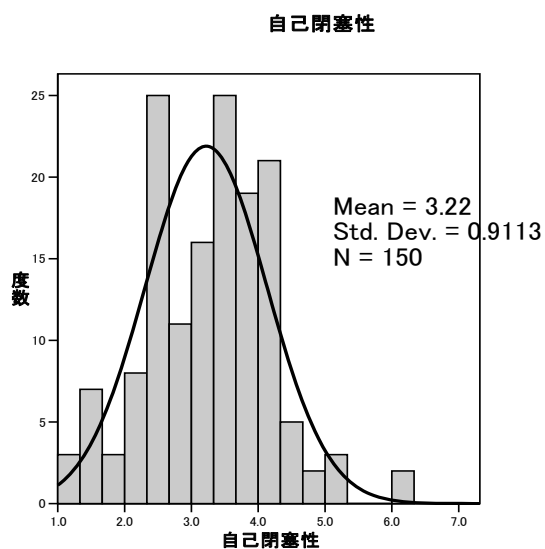
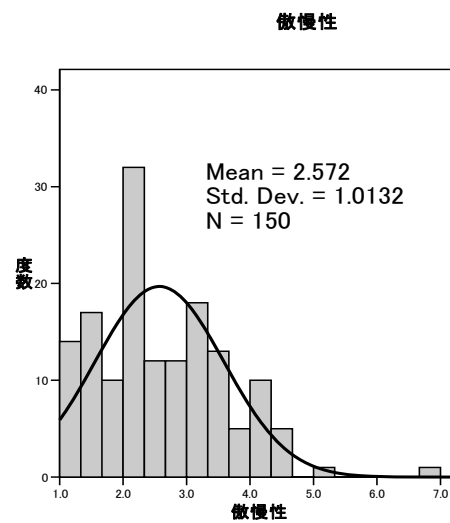
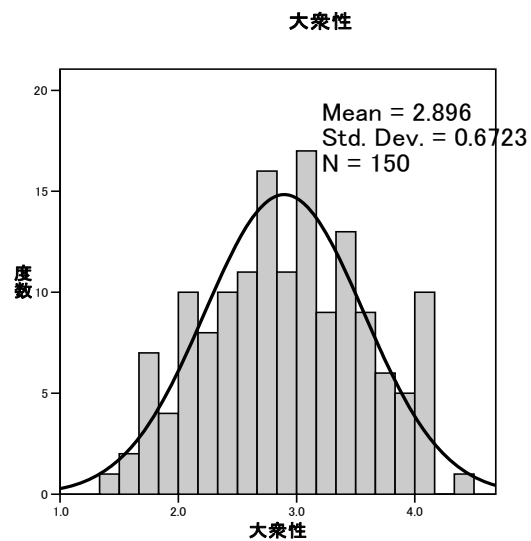
*score=5: 全く思わない/全くない/全く感じない/全く望ましくない～どちらとも言えない～とてもそう思う/非常にある/非常に感じる/非常に望ましい

**score=4: そう思わない・少しそう思う・思う・とても強くそう思う

5.3.2. 各心理尺度・指標の基本統計量

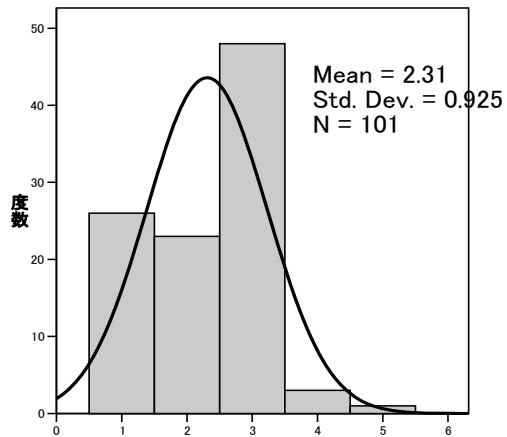
大衆性尺度をはじめ，各心理データの分布図を示す．それぞれ概ね単峰性が確認された．これらのうち，特に大衆性低減仮説測定項目については，表 5-5 において基本統計量を整理する．なお，大衆性は傲慢性と自己閉塞性の尺度得点の加算平均により算出する．

大衆性に関する項目①：大衆性尺度

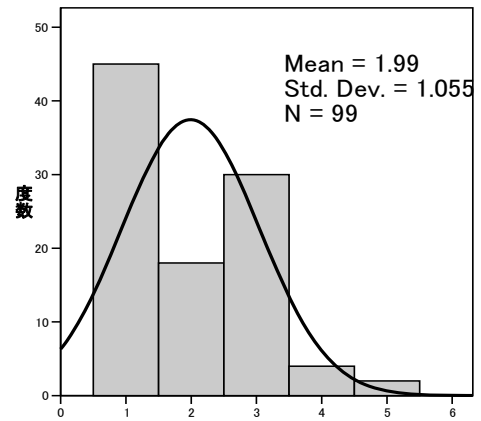


大衆性に関する項目②：大衆性低減仮説測定項目

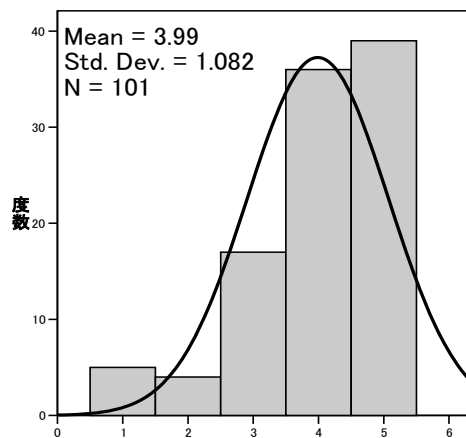
ボランティアを経験して、「自分を拘束するのは自分だけだ」と思うようになりましたか？



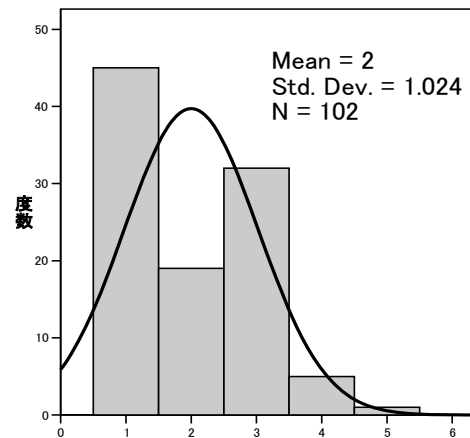
ボランティアを経験して、「私は、どんな時でも勝ち続けるのではないか」、と何となく思うようになりましたか？



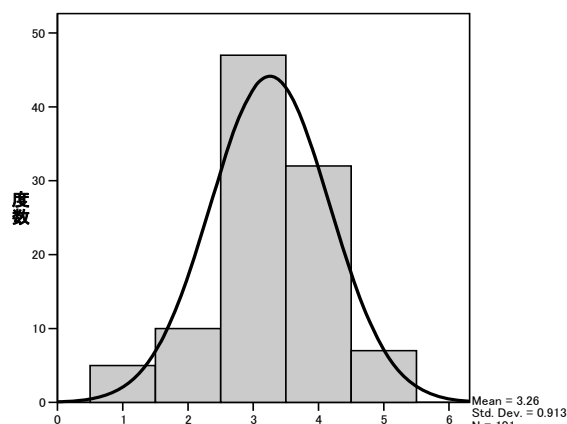
ボランティアを経験して、人とつきあう時には「謙虚さ」が重要だと感じましたか？



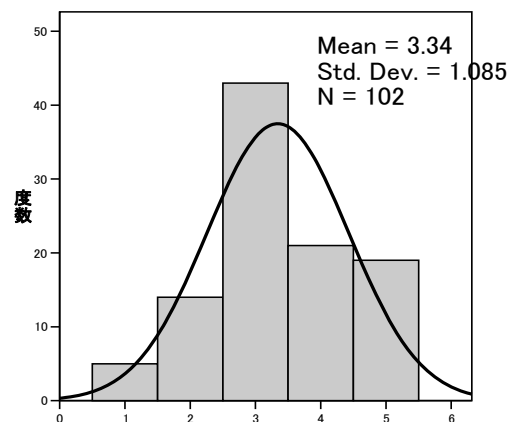
ボランティアを経験して、自分は人よりも高い能力があると、確信しましたか？



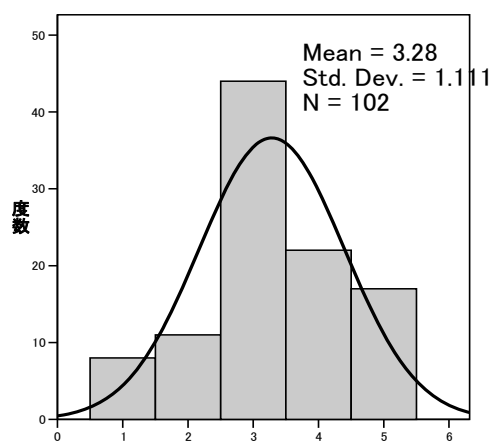
ボランティアを経験して、「伝統的な事柄に対する敬意・配慮を感じるようになった」と感じますか？



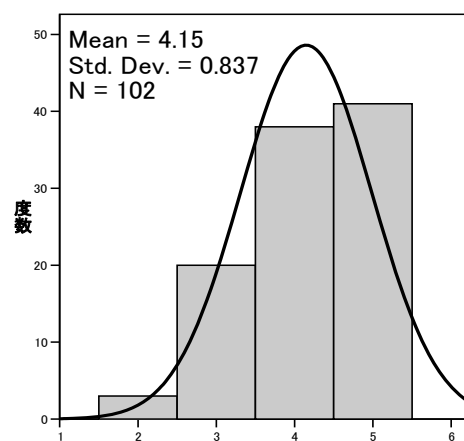
ボランティアを経験して、「日々の日常生活は感謝すべき対象で満たされている」と感じるようになりましたか？



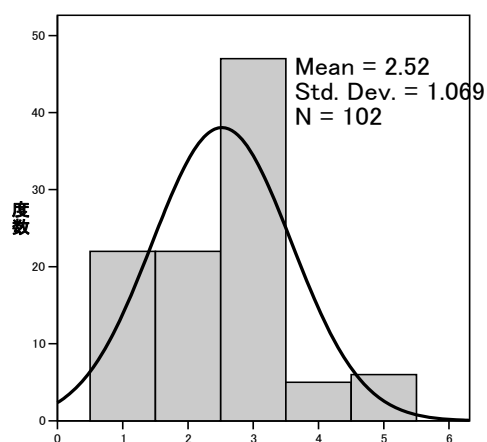
ボランティアを経験して、「世の中は驚きに満ちている」と感じるようになりましたか？



ボランティアを経験して、人の話に耳を傾けることが大切だ、と感じましたか？



ボランティアを経験して、自分は我が道を行くべきなのだ、と改めて感じましたか？



ボランティアを経験して、自分の役割を考え、それを引き受ける事が大切だ、と感じましたか？

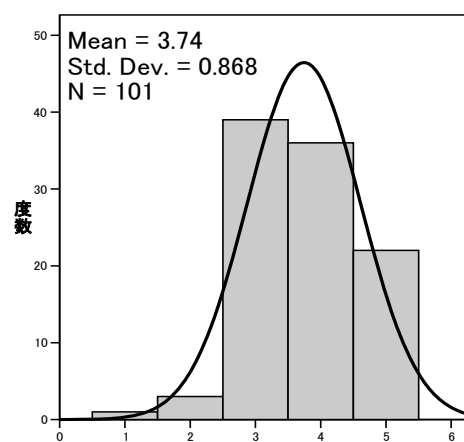


表 5-5 大衆性低減仮説測定項目の基本統計量

	N	M	SD	中位値(3)との有意差	
				t値	p値(両側)
傲慢性低減	ボランティアを経験して、「自分を拘束するのは自分だけだ」と思うようになりましたか？★	101	2.31	0.92	-7.53 .00 **
	ボランティアを経験して、「自分の意見が誤っていることなどない」と思うようになりましたか？★	101	1.99	1.00	-10.10 .00 **
	ボランティアを経験して、「私は、どんな時でも勝ち続けるのではないか」、と何となく思うようになりましたか？★	99	1.99	1.05	-9.53 .00 **
	ボランティアを経験して、人とつきあう時には「謙虚さ」が重要だと感じましたか？	101	3.99	1.08	9.20 .00 **
	ボランティアを経験して、自分は人よりも高い能力があると、確信しましたか？★	102	2.00	1.02	-9.86 .00 **
自己閉塞性低減	ボランティアを経験して、「伝統的な事柄に対する敬意・配慮を感じるようになった」と感じますか？	101	3.26	0.91	2.83 .01 **
	ボランティアを経験して、「日々の日常生活は感謝すべき対象で満たされている」と感じるようになりましたか？	102	3.34	1.09	3.19 .00 **
	ボランティアを経験して、「世の中は驚きに満ちている」と感じるようになりましたか？	102	3.28	1.11	2.58 .01 *
	ボランティアを経験して、人の話に耳を傾けることが大切だ、と感じましたか？	102	4.15	0.84	13.84 .00 **
	ボランティアを経験して、自分は我が道を行くべきなのだ、と改めて感じましたか？★	102	2.52	1.07	-4.54 .00 **
	ボランティアを経験して、自分の役割を考え、それを引き受ける事が大切だ、と感じましたか？	101	3.74	0.87	8.60 .00 **

★:逆転項目

5. 4. 利他的行動の経験が大衆性に及ぼす影響

5. 4. 1. 大衆性低減仮説の検証

大衆性低減仮説の項目は、先述のとおり「全く思わない～どちらとも言えない～とてもそう思う」の5段階で設定されており、例えば「ボランティア活動を経験して、「日々の日常生活は感謝すべき対象で満たされている」と感じるようになった」と感じますか？」(大衆性のうち、自己閉塞性低減仮説項目)という項目の平均値が、その中位値3よりも「思う」側にあれば、回答者は平均的に、ボランティア活動を経験することで、大衆性が低減している可能性が示唆されることとなる。

そこで、ボランティア活動の経験があると回答した102名(有効回答者数156名のうち65.4%)各大衆性低減仮説項目の平均値と、中位値の差を検定した結果、表-4に示すとおり全ての項目で、中位値よりも望ましい方向、すなわち大衆性が低減する方向に平均値が位置していた。つまり、「ボランティア活動という行為を通じて、人々の大衆性が

低減する」という作業仮説を支持する結果が得られたと言える。

5.4.2. 大衆性低減効果の検証

1) ボランティア活動の種類と大衆性低減効果

本研究では、ボランティア活動という行為に着目したが、表 5-6 に示すとおり、ボランティア活動の経験には多様な種類が存在しており、これを通じた大衆性の低減効果についても、ボランティアの内容に応じて相違が生じることが考えられる。

そこで、ボランティア活動経験者を対象に、傲慢性低減仮説項目の 5 項目と自己閉塞性低減仮説項目の 6 項目を、それぞれ尺度化し、それぞれの平均値をもって、大衆性（または傲慢性、自己閉塞性）効果が高い群と低い群に分け、この低減効果の「高い群・低い群」と、表 5-6 に示す各種のボランティア経験の「あり・なし」についてクロス集計表による χ^2 乗検定を行った。その結果、表 5-7 及び 表 5-8 に示すとおり「お祭りなど

表 5-6 回答者のボランティア活動経験

ボランティア活動の種類	経験者	
	N	(%)
・身近な清掃活動(公園・道路などの身近な場所)	5	4.9%
・遠方での清掃活動(自宅から離れた公園・山林など)	22	21.6%
・公的な場所(駅・市民会館等)での高齢者・障がい者の介助	20	19.6%
・特定の施設や自宅訪問による高齢者・障がい者の介助	17	16.7%
・観光案内などの支援	4	3.9%
・農作業支援	3	2.9%
・酪農支援	2	2.0%
・林業支援	2	2.0%
・漁業支援	0	0.0%
・お祭りなどの伝統的な地域イベントの支援	18	17.6%
・音楽、芸術祭などの文化的イベントの支援	14	13.7%
・環境保護に資するイベント・活動の支援	6	5.9%
・その他	20	19.6%

(%):ボランティア経験者数(N=102)に占める割合

表 5-7 「お祭りなどの伝統的な地域イベントの支援」経験の有無と

大衆性低減効果の高低のクロス集計

		「お祭りなどの伝統的な地域イベントの支援」経験		合計
		ない	ある	
χ^2 乗値=3.34 p=.09	大衆性低い	41(54%)	7(32%)	48
	大衆性高い	35(46%)	15(68%)	50
合計		76(100%)	22(100%)	98

表 5-8 「身近な清掃活動（公園・道路などの身近な場所）」経験の有無と

自己閉塞性低減効果の高低のクロス集計				
		「身近な清掃活動（公園・道路などの身近な場所）」		合計
		ない	ある	
自己閉塞性 低減効果	低い	14(67%)	32(41%)	46
	高い	7(33%)	47(59%)	54
合計		21(100%)	79(100%)	100

の伝統的な地域イベントの支援を経験している人」は、経験していない人に比べて大衆性の低減効果が高く（ $\chi^2=3.34$, $p=0.09$ ）, 「身近な清掃活動（公園・道路などの身近な場所）を経験している人」は、経験していない人に比べて「自己閉塞性の低減効果が高い」（ $\chi^2=4.57$, $p=0.05$ ）可能性があることが示唆された。

2）大衆性低減効果の相違

第3章では、大衆性の低減の度合いが自己閉塞性の高さに影響を受けていることが示唆されている。そこで、大衆性尺度と大衆性尺度低減仮説項目について相関分析を行った。その結果、表 5-9 に示すとおり、「ボランティアを経験して、自分の役割を考え、それを引き受けることが大切だ、と感じましたか？」（自己閉塞性低減仮説項目）を除く 10 項目で、有意な相関が見られた。つまり、傲慢性については、傲慢性が高い人ほど、ボランティア活動を経験して、「自分を拘束するのは自分だけだ」、「自分の意見が誤っていることなどない」、「私は、どんな時でも勝ち続けるのではないか」思うようになり、「自分は人より高い能力があるのではないか」と確信し、「自分は我が道を行くべきなのだ」と改めて感じるようになる傾向にあり、自己閉塞性については、自己閉塞性が高い人ほど、ボランティアを経験しても「伝統的な事柄に対する敬意・配慮を感じるようになった」と思わず、「日々の日常生活は感謝すべき対象で満たされている」と感じるようにならず、「人の話に耳を傾けることが大切だ」と感じるようにならず、「人の話に耳を傾けることが大切だ」と感じない傾向にあることが示唆された。このことから、傲慢性の高い人はより一層傲慢性を高めてしまい、自己閉塞性の高い人は自己閉塞性が下がりにくいという可能性が示唆されたと言える。

そこで、大衆性低減効果の高低による各心理指標や利他的行動の規定要因の相違について一元配置分散分析を行った。

表 5-9 大衆性と大衆性低減仮説項目の相関分析結果

		大衆性	傲慢性	自己閉塞性
ボランティアを経験して、「自分を拘束するのは自分だけだ」と思うようになりましたか？	Pearson の相関係数	0.28	0.25	0.14
	有意確率(両側)	0.00 **	0.01 **	0.17
ボランティアを経験して、「自分の意見が誤っていることなどない」と思うようになりましたか？	Pearson の相関係数	0.29	0.33	0.05
	有意確率(両側)	0.00 **	0.00 **	0.64
ボランティアを経験して、「私は、どんな時でも勝ち続けるのではないか」、と何となく思うようになりましたか？	Pearson の相関係数	0.26	0.36	-0.03
	有意確率(両側)	0.01 **	0.00 **	0.78
ボランティアを経験して、人とつきあう時には「謙虚さ」が重要だと感じましたか？	Pearson の相関係数	-0.20	-0.18	-0.09
	有意確率(両側)	0.05 *	0.08	0.35
ボランティアを経験して、自分は人よりも高い能力があると、確信しましたか？	Pearson の相関係数	0.36	0.37	0.10
	有意確率(両側)	0.00 **	0.00 **	0.30
ボランティアを経験して、「伝統的な事柄に対する敬意・配慮を感じるようになった」と思いますか？	Pearson の相関係数	-0.19	-0.02	-0.26
	有意確率(両側)	0.06	0.83	0.01 **
ボランティアを経験して、「日々の日常生活は感謝すべき対象で満たされている」と感じるようになりましたか？	Pearson の相関係数	-0.28	-0.17	-0.24
	有意確率(両側)	0.00 **	0.10	0.02 *
ボランティアを経験して、「世の中は驚きに満ちている」と感じるようになりましたか？	Pearson の相関係数	-0.20	-0.09	-0.20
	有意確率(両側)	0.05	0.37	0.05 *
ボランティアを経験して、人の話に耳を傾けることが大切だ、と感じましたか？	Pearson の相関係数	-0.26	-0.15	-0.23
	有意確率(両側)	0.01 **	0.12	0.02 *
ボランティアを経験して、自分は我が道を行くべきなのだ、と改めて感じましたか？	Pearson の相関係数	0.17	0.27	-0.06
	有意確率(両側)	0.09	0.01 **	0.58
ボランティアを経験して、自分の役割を考え、それを引き受ける事が大切だ、と感じましたか？	Pearson の相関係数	-0.12	-0.04	-0.13
	有意確率(両側)	0.23	0.66	0.19

表 5-10 大衆性低減効果の高低による各要因の差

大衆性低減項目の平均値								
	低い群			高い群			F 値	p値
	N	M	SD	N	M	SD		
大衆性				50	2.48	0.52	25.43	.00 **
傲慢性	48	2.93	1.14	50	2.13	0.76	16.85	.00 **
自己閉塞性	48	3.24	0.98	50	2.83	0.69	5.92	.02 *
しつけ	48	5.56	0.81	50	5.63	0.95	0.16	.69
◆他者との関係に関する要因								
社会的つながり	47	3.06	0.78	49	3.59	0.72	12.08	.00 **
感謝	48	3.31	0.83	49	3.76	0.92	6.15	.01 *
人に喜んでもらえる(1)	48	3.38	0.96	50	3.80	0.86	5.36	.02 *
人に喜んでもらえる(2)	48	3.71	0.90	50	4.16	0.87	6.43	.01 *
主観的規範	47	3.53	0.83	49	4.18	0.78	15.69	.00 **
人間関係	48	4.17	1.36	49	4.29	1.21	0.21	.65
手伝ってくれる人の存在	48	3.27	0.79	50	3.70	1.04	5.28	.02 *
◆自己に関する要因								
実行可能性評価	48	2.83	0.66	50	3.22	0.55	9.97	.00 **
対処有効性認知	48	2.19	0.73	50	2.30	0.86	0.48	.49
◆合理的要因								
便益の認知	48	3.30	0.67	50	3.96	0.61	25.67	.00 **
便益の評価	48	3.44	0.60	50	4.07	0.64	24.27	.00 **
費用の認知(1)	48	3.42	1.01	50	3.34	1.12	0.13	.72
費用の評価(1)	47	2.53	0.83	50	2.46	0.89	0.17	.68
費用の認知(2)	48	2.85	0.95	49	2.94	1.11	0.16	.69
費用の評価(2)	48	2.77	0.81	49	3.06	0.83	3.07	.08
費用の認知(3)	48	2.92	1.05	50	2.98	1.12	0.08	.77
費用の評価(3)	48	2.29	1.05	50	1.96	0.88	2.88	.09
◆情緒的要因								
感情的安寧	48	1.57	0.64	50	1.62	0.51	0.21	.65
役に立つことにうれしさ	48	3.46	1.09	49	4.24	0.80	16.39	.00 **
◆責任意識に関する要因								
責任感	47	1.96	0.75	50	2.22	0.93	2.32	.13
◆その他の要因								
興味関心	48	2.35	0.89	50	2.72	0.95	3.88	.05 *
時間的ゆとり	48	2.58	1.11	50	2.46	0.91	0.36	.55
経済的ゆとり	48	2.25	1.10	50	2.20	1.05	0.05	.82

表 5-11 傲慢性低減効果の高低による各要因の差

	傲慢性低減項目の平均値						F 値	p値
	低い群			高い群				
	N	M	SD	N	M	SD		
大衆性	54	3.02	0.66	45	2.49	0.55	18.86	.00 **
傲慢性	54	3.00	1.06	45	1.94	0.65	34.59	.00 **
自己閉塞性	54	3.04	0.91	45	3.04	0.81	0.00	.96
しつけ	54	5.61	0.92	45	5.57	0.83	0.04	.83
◆他者との関係に関する要因								
社会的つながり	52	3.29	0.69	45	3.38	0.90	0.30	.58
感謝	53	3.34	0.90	45	3.78	0.85	6.09	.02 *
人に喜んでもらえる(1)	54	3.52	0.95	45	3.69	0.90	0.83	.36
人に喜んでもらえる(2)	54	3.93	0.89	45	3.96	0.93	0.03	.87
主観的規範	52	3.85	0.80	45	3.89	0.93	0.06	.81
人間関係	53	4.23	1.20	45	4.20	1.38	0.01	.92
手伝ってくれる人の存在	54	3.44	0.77	45	3.53	1.12	0.22	.64
◆自己に関する要因								
実行可能性評価	54	2.98	0.69	45	3.04	0.64	0.22	.64
対処有効性認知	54	2.31	0.70	45	2.16	0.90	0.98	.32
◆合理的要因								
便益の認知	54	3.60	0.71	45	3.68	0.73	0.27	.60
便益の評価	54	3.73	0.70	45	3.79	0.69	0.20	.65
費用の認知(1)	54	3.35	0.95	45	3.42	1.18	0.11	.74
費用の評価(1)	53	2.57	0.75	45	2.42	0.97	0.69	.41
費用の認知(2)	53	2.83	0.91	45	2.96	1.15	0.36	.55
費用の評価(2)	53	2.89	0.72	45	2.93	0.94	0.08	.78
費用の認知(3)	54	2.89	0.96	45	3.02	1.20	0.38	.54
費用の評価(3)	54	2.44	1.00	45	1.76	0.80	13.84	.00 **
◆情緒的要因								
感情的安寧	54	1.74	0.63	45	1.44	0.47	7.02	.01 **
役に立つことにうれしさ	54	3.80	0.98	44	3.93	1.09	0.42	.52
◆責任意識に関する要因								
責任感	54	2.19	0.73	44	2.00	0.99	1.14	.29
◆その他の要因								
興味関心	54	2.67	0.93	45	2.40	0.91	2.04	.16
時間的ゆとり	54	2.44	0.98	45	2.64	1.05	0.96	.33
経済的ゆとり	54	2.37	1.05	45	2.09	1.10	1.68	.20

表 5-12 自己閉塞性低減効果の高低による各要因の差

	自己閉塞性低減項目の平均値						F 値	p値
	低い群			高い群				
	N	M	SD	N	M	SD		
大衆性	46	3.05	0.68	54	2.57	0.59	14.43	.00 **
傲慢性	46	2.75	1.13	54	2.35	0.92	3.88	.05 *
自己閉塞性	46	3.36	0.97	54	2.80	0.68	11.38	.00 **
しつけ	46	5.40	0.86	54	5.71	0.91	3.06	.08
◆他者との関係に関する要因								
社会的つながり	46	3.01	0.78	52	3.60	0.71	15.38	.00 **
感謝	46	3.41	0.83	53	3.62	0.97	1.32	.25
人に喜んでもらえる(1)	46	3.17	0.90	54	3.91	0.83	17.91	.00 **
人に喜んでもらえる(2)	46	3.52	1.01	54	4.24	0.70	17.64	.00 **
主観的規範	46	3.35	0.77	52	4.27	0.74	36.39	.00 **
人間関係	46	4.07	1.37	53	4.32	1.19	0.99	.32
手伝ってくれる人の存在	46	3.35	0.71	54	3.63	1.09	2.27	.13
◆自己に関する要因								
実行可能性評価	46	2.87	0.58	54	3.17	0.64	5.85	.02 *
対処有効性認知	46	2.11	0.77	54	2.37	0.81	2.73	.10
◆合理的要因								
便益の認知	46	3.17	0.64	54	4.00	0.55	49.13	.00 **
便益の評価	46	3.41	0.60	54	4.05	0.64	26.53	.00 **
費用の認知(1)	46	3.48	1.03	54	3.31	1.10	0.59	.45
費用の評価(1)	46	2.43	0.89	53	2.57	0.82	0.59	.45
費用の認知(2)	46	2.85	1.07	53	3.00	1.02	0.52	.47
費用の評価(2)	45	2.67	0.85	53	3.11	0.75	7.60	.01 **
費用の認知(3)	46	2.98	1.04	54	2.94	1.11	0.02	.88
費用の評価(3)	46	2.15	1.05	54	2.09	0.92	0.09	.76
◆情緒的要因								
感情的安寧	46	1.51	0.59	54	1.68	0.55	2.29	.13
役に立つことにうれしさ	46	3.35	1.14	53	4.23	0.78	20.55	.00 **
◆責任意識に関する要因								
責任感	45	1.98	0.78	54	2.19	0.89	1.48	.23
◆その他の要因								
興味関心	46	2.26	0.88	54	2.76	0.93	7.49	.01 **
時間的ゆとり	46	2.63	1.12	54	2.48	0.93	0.53	.47
経済的ゆとり	46	2.20	1.07	54	2.28	1.07	0.15	.70

その結果、表 5-10、表 5-11、表 5-12 に示すとおり、傲慢性については、傲慢性が低減する傾向が低い人は、高い人に比べて、大衆性が高く、傲慢性が高く、周囲からの感

謝を感じず、ボランティア活動に関わることで人間関係のストレスが生じることを厭わず、ボランティア活動に参加することによってネガティブな自己像やプライベートな問題といった脅威から自己を守ることができる（感情的安寧）と感じているという結果が、いずれも統計的に有意な水準で示された。

同様に、自己閉塞性については、自己閉塞性が低減する傾向が低い人は、高い人に比べて、大衆性が高く、傲慢性も自己閉塞性も双方とも高く、社会的なつながりを感じておらず、周囲からの感謝を感じず、人々が喜んでくれると思っておらず、主観的規範が低く、実行可能性の評価が低く、利他的行動による便益の認知・評価が低く、仕事が大変になるというリスク（費用）を望んでおらず、人の役にたつことのうれしさを感じず、ボランティア活動に関する興味・関心が低いという結果が、いずれも統計的に有意な水準で示された。

以上の相関分析、一元配置分散分析の結果から、大衆性（あるいは傲慢性、自己閉塞性）が低い人は、大衆性がより一層低減しやすいが、大衆性（あるいは傲慢性、自己閉塞性）が高い人は、大衆性が低減しにくいばかりか、より一層増長されてしまう可能性を有しており、利他的行動の規定要因についても、元来“望ましくない”形で有している可能性があることが示唆されたと言える。

5.5. 考察

アンケート調査の結果より、本研究の作業仮説が支持され、利他的行動であるボランティア活動の経験は、平均的に大衆性を低減することに寄与する可能性を有するとともに、経験したボランティア活動の種類により、低減効果に差異のある可能性が示唆された。一方で、元来の大衆性の高低によりその変化の大きさや方向性が異なる可能性があることも示唆されたところである。具体的には、元来、傲慢性、自己閉塞のいずれか、あるいは総じて大衆性が低い個人は、ボランティア活動によって大衆性が低減される可能性が高いものの、元来、特に傲慢性が高い個人は、ボランティア活動によって、大衆性低減どころか、これを増加させる可能性が示唆されたものと考えられる。なお、本研究ではボランティア活動の内容に応じた大衆性低減効果の差異について、その可能性こそ衆性の低減、あるいは増長の規定要因」を明らかにできていないことから、今後この規定要因の抽出に関する追加研究が必要であり、それをもって「高大衆群の増長」とも言うべき事態への対処方途を検討することが必要であると考えられる。

いずれにしても、大衆性低減を促す行為として、ボランティア活動の経験、すなわち利他的な「実践行為」が有効である可能性が示唆された一方で、特に大衆性の高い個人については、この種の利他的な「実践行為」によって、より一層大衆性を増加させてしまうという危ぶむべき示唆が得られた以上、少なくともボランティア活動についてこれを見無差別に賞賛し、無秩序に推進することは避けるべきだと言わざるを得ないものと考えられる。

については、今後ボランティア活動をはじめとした実践行為の展開について議論する際には、この危険性を踏まえたうえで、より一層の慎重な姿勢が必要なものと思われるところである。

第5章参考文献

- 1) 羽鳥剛史, 小松佳弘, 藤井聡: 大衆性尺度の構成ー“大衆の反逆”に基づく大衆の心的構造分析ー, 心理学研究, Vol.79, No.5, pp.423-431, 2008.
- 2) 西川正之(編), 高木修(監): 援助とサポートの社会心理学ー助けあう人間のこころと行動ー, 北大路書房, 2000.
- 3) 坂野純子, 矢嶋裕樹, 中嶋和夫: 地域住民におけるボランティア活動への参加動機と満足感の関連性, 東京保健科学学会誌, Vol.7, No.1, pp.17-24, 2004.
- 4) 西川正之(編), 高木修(監): 援助とサポートの社会心理学ー助けあう人間のこころと行動ー, 北大路書房, 2000.
- 5) 羽鳥剛史, 藤井聡: 地域コミュニティ保守行動に関する進化論的検討ー階層淘汰論に基づく利他的行動の創発に関する理論的分析ー, 社会心理学研究, Vol.24, No.2, pp.87-97, 2008.
- 6) 塚本剛志: ボランティアの動機と文化的要素ースペインにおける予備的考察, 国際開発研究フォーラム, 32, 2006.
- 7) 広瀬幸雄: 環境配慮的行動の規定因について, 社会心理学研究, Vol.10, No.1, pp.44-55, 1994.
- 8) 杉浦淳吉: 環境配慮の社会心理学, ナカニシヤ出版, 2003.
- 9) 安藤香織, 広瀬幸雄: 環境ボランティア団体における活動継続意図・積極的活動意図の規定因, 社会心理学研究, Vol.15, No.2, pp.90-99, 1999.
- 10) 元吉忠寛, 高尾堅司, 池田三郎: 地域防災活動への参加意図を規定する要因ー水害被災地域における検討ー, 心理学研究, Vol.75, No.1, pp.72-77, 2004.

第6章 大衆性抑制と観光行動に関する検証

本章では、3.3 における大衆性抑制過程に重要となるであろう「葛藤」、および実践行為としての「観光」に関する推論を検証するために、仮説を措定し、調査・分析を行った結果を整理する。

6.1. 仮説の設定

第4章、第5章の調査・分析結果にもあるとおり、「大衆性の変化」には「元来の大衆性」の高低が関係しており、総じて言えば「大衆性の高い個人は、低い個人に比べて大衆性が抑制されにくい」ことが示唆されている。この示唆を、3.3 の推論にあてはめるなら、「大衆性の高い個人は、その抑制に重要と考えられるところの“葛藤”をしにくいからこそ、大衆性が抑制されにくい」ことが想定される場所である。

ここで、先の推論にもあるとおり、個人の中で葛藤が生じるためにはその前提に「比較」という心的反応が必要であろう。そして、この心的反応は、「(比較する対象を)認知」してこそ起こりうる反応であることは論を俟たない。つまり、葛藤する前に比較があり、比較の前に認知があると考えられる。

以上の認識が正しいとするならば、本章において大衆性の抑制過程を探索的に検証するにあたっては、この葛藤以前の「認知」についても、その対象にするのが望ましいと言えるだろう。そして、先述の大衆性の高い個人における葛藤についての想定に、この「認知」の過程を追加するならば、「大衆性の高い個人は、(対象を)“認知”しにくい(しようとしないう)ために“葛藤”しにくく、大衆性が抑制されにくい」と考えられる場所である。

以上のことから、観光における個人の意識に関して、以下のとおり作業仮説を措定することができるものとする。

仮 説

- ①大衆性の高い人は観光においても、「認知」を望まない
- ②大衆性の高い人は観光においても、「葛藤」しにくい

本章では、この仮説を検証し、認知と大衆性、葛藤と大衆性、総じて、大衆性抑制過程に関する示唆を得ることとしたい。

6.2. 調査対象者・手順

2010年4月に、北海道医療大学及び札幌大学の学生を対象としたアンケート調査を実施した。調査票の配布、記入、回収をすべて講義中に行ったところ、有効回答者 151 名

を得た。そのうち、69 人が男性（45.7%）、82 人が女性（54.3%）であり、平均年齢は 18.91 歳、年齢の標準偏差 1.44 は歳であった。

6.3. 調査項目

6.3.1. 各心理尺度・指標の構成

本調査では、6.1 で指定した仮説を検証するために、大衆性を測るための質問項目として、先行研究¹⁾で提案された大衆性尺度のうち、傲慢性と自己閉塞性のそれぞれについて、特に寄与率の高い項目上位 5 項目を抽出し表 6-1 に示すような 10 項目の質問を設定し、各項目について「全く思わない」から「とてもそう思う」の 7 件法での回答を要請した。なお、傲慢性尺度については対応する 5 項目の加算平均から、自己閉塞性尺度については対応する 5 項目のそれぞれを反転した上で求められる加算平均から、それぞれの尺度を構成した。それぞれの尺度の α 係数は、傲慢性について $\alpha=.71$ 、自己閉塞性について $\alpha=.66$ であった。 α 係数がやや低いものの、一定程度の信頼性が認められたため、これらの尺度を採用することとした。なお、「大衆性尺度」はこれらの「傲慢性尺度」、「自己閉塞性尺度」の尺度を加算することにより算出した。

また、観光時の個人の意識を把握するために、表 6-2 に示すとおり、認知や葛藤に関する質問項目を設けた。ここで、観光時の認知に関しては、地域、人、文化（伝統）に着目し、「観光に（旅）に行ったときには、できるだけ、その地域の“成り足ち”につい

表 6-1 大衆性尺度項目

傲慢性尺度	
	自分を拘束するのは自分だけだと思う
	自分の意見が誤っていることなどないと思う
	私は、どんな時でも勝ち続けるのではないかと、と何となく思う
	自分個人の「好み」が社会に反映されるべきだと思う
	どんなときも自分を信じて、他人の言葉などに耳を貸すべきではないと思う
自己閉塞性尺度	
	伝統手的な事柄に対して敬意・配慮をもっている★
	日々の日常生活は感謝すべき対象で満たされている★
	世の中は驚きに満ちていると感じる★
	我々は、伝統を受け継ぎ、改良を加え、伝承していく義務があると思う★
	自分自身への欲求が多いほうだ★
*score=7：全く思わない～どちらとも言えない～とてもそう思う	
★逆転項目	

て、きちんと知りたいと思いますか?」,「観光(旅)に行ったときには、できるだけ、その地域の人と話す機会を多くしたいと思いますか?」,「観光(旅)に行ったときには、できるだけ、その地域の文化(伝統)に触れる機会を多くしたいと思いますか?」といった質問項目を設け、各項目について「全く思わない」から「強くそう思う」の5件法で回答を要請した。さらに、これらの3つの項目の加算平均によって求められる指標について、信頼性分析を行ったところ、 $\alpha=.72$ であったことから、これを認知に関する項目を統合する指標として扱うこととした。なお、分析の都合上、それぞれ「地域の認知」、「人の認知」、「文化の認知」と呼称し、これを統合する項目については「観光_認知」と呼称する。

加えて、観光時の葛藤に関しては、葛藤の過程(3.3参照)に従い「自己の相対化」、「葛藤の経験」、「変化」について、「あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、自分の生活のあり方や考え方を“見つめる”ことがありますか?」、「あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、自分の生活のあり方や考え方を“葛藤”することができますか?」、「あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、自分の生活のあり方や考え方に“変化”が生じることがありますか?」といった質問項目を設け、各項目について「全くない」「少しある」、「ある」、「よくある」のunipolarの4件法で回答を要請した。また、これらの3つの項目の加算平均によって求められる指標について、信頼性分析を行ったところ、 $\alpha=.82$ であったことから、これを葛藤に関

表 6-2 観光時の意識に関する項目

質問項目	分析上の呼称
観光時の認知に関する項目*	観光_認知
観光(旅)に行ったときには、 できるだけ、その地域の“成り立ち”について、きちんと知りたいと思いますか?	地域の認知
観光(旅)に行ったときには、 できるだけ、その地域の人と話す機会を多くしたいと思いますか?	人の認知
観光(旅)に行ったときには、 できるだけ、その地域の文化(伝統)に触れる機会を多くしたいと思いますか?	文化の認知
葛藤経験に関する項目**	観光_葛藤
あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、 自分の生活のあり方や考え方を“見つめる”ことがありますか?	自己の相対化
あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、 自分の生活のあり方や考え方を“葛藤”することができますか?	葛藤経験
あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、 自分の生活のあり方や考え方に“変化”が生じることがありますか?	変化経験

*score=5: 全く思わない～どちらとも言えない～強くそう思う

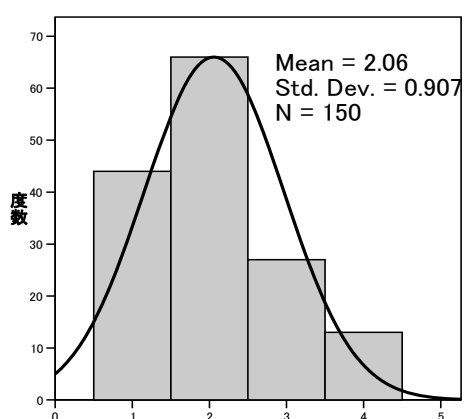
**score=4: 全くない・少しある・ある・よくある

する項目の統合指標として扱うこととした。なお、分析の都合上、それぞれ「自己の相対化」、「葛藤経験」、「変化経験」と呼称し、統合指標については「観光_葛藤」と呼称する。

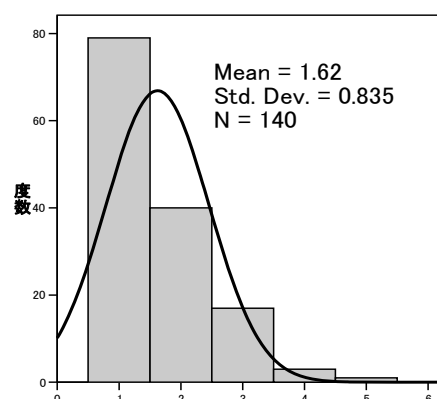
6.3.2. 各心理尺度・指標の基本統計量

観光時の葛藤経験に関係する指標について、各データの分布図を示す。それぞれ概ね単峰性が確認された。また、において、観光時の認知、および葛藤に関する統合指標（以後、それぞれ「観光_認知」、「観光_葛藤」と表記する）を含めた基本統計量を整理する。なお、「観光_認知」は観光時の認知に関する3項目、「観光_葛藤」は観光時の葛藤に関する3項目（それぞれ表 6-2 参照）の加算平均により算出した。

あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、自分の
活の在り方や考え方を“見つめる”ことがありますか？



あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、自分の
活の在り方や考え方について“葛藤”することがありますか？



あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、自分の
活の在り方や考え方に“変化”が生じることがありますか？

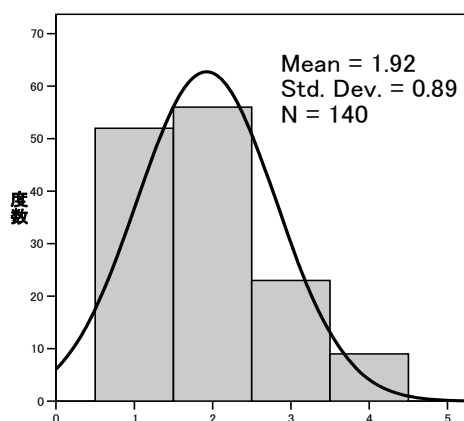


表 6-3 観光時の意識に関する指標の基本統計量

	N	M	Min	Max	SD
観光_認知	150	3.09	1.00	5.00	0.93
観光(旅)に行ったときには、できるだけ、その地域の“成り立ち”について、きちんと知りたいと思いませんか？	151	2.73	1.00	5.00	1.11
観光(旅)に行ったときには、できるだけ、その地域の人と話す機会を多くしたいと思いませんか？	151	3.00	1.00	5.00	1.16
観光(旅)に行ったときには、できるだけ、その地域の文化(伝統)に触れる機会を多くしたいと思いませんか？	150	3.53	1.00	5.00	1.20
観光_葛藤	139	1.85	1.00	3.67	0.73
あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、自分の生活の在り方や考え方を“見つめる”ことがありますか？	150	2.06	1.00	4.00	0.91
あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、自分の生活の在り方や考え方について“葛藤”することがありますか？	140	1.62	1.00	4.00	0.84
あなたは、観光(旅)の中で見聞きしたことをきっかけに、自分の生活の在り方や考え方に“変化”が生じることがありますか？	140	1.92	1.00	4.00	0.89

6. 4. 観光時の意識と大衆性の関係

大衆性、傲慢性、自己閉塞性、観光_認知、観光_葛藤について相関分析を行ったところ、自己閉塞性は、観光_認知、観光_葛藤いずれの指標とも負の相関関係を有していた。

表 6-4 相関分析

		大衆性	傲慢性	自己閉塞性	観光_認知	観光_葛藤
大衆性	Pearson の相関係数	1	0.74	0.66	-0.12	-0.12
	有意確率(両側)		0.00	0.00	0.13	0.15
	N	150	150	150	149	138
傲慢性	Pearson の相関係数	0.74	1	-0.03	0.06	0.12
	有意確率(両側)	0.00		0.75	0.45	0.16
	N	150	150	150	149	138
自己閉塞性	Pearson の相関係数	0.66	-0.03	1	-0.25	-0.32
	有意確率(両側)	0.00	0.75		0.00	0.00
	N	150	150	150	149	138
観光_認知	Pearson の相関係数	-0.12	0.06	-0.25	1	0.54
	有意確率(両側)	0.13	0.45	0.00		0.00
	N	149	149	149	150	138
観光_葛藤	Pearson の相関係数	-0.12	0.12	-0.32	0.54	1
	有意確率(両側)	0.15	0.16	0.00	0.00	
	N	138	138	138	138	139

これは自己閉塞性が高い人ほど、「観光のときに地域や人、文化などを認知しようと思わず、かつ、葛藤も生じにくい」という可能性を示唆するものと言える。

また、観光に関する指標についても、観光_認知、観光_葛藤の間に正の相関があることが把握され、「観光のときに地域や人、文化などを認知しようとする人ほど、葛藤が生じやすい」可能性が示唆された。

これらの結果から、「観光において、地域・人・文化などを認知しようとする人は、葛藤が生じやすいが、自己閉塞性の高い人ほど、そもそも認知をしようとしなため、葛藤が生じにくい傾向にある」ことが示唆されたと言える。

次に、より直接的に仮説検証を行うために、大衆性尺度、および傲慢性尺度、自己閉塞性尺度について、それぞれの平均値を基準に、「大衆性の高い群」と「大衆性の低い群」、「傲慢性の高い群」と「傲慢性の低い群」、「自己閉塞性の高い群」、「自己閉塞性の低い群」のグループ分けを行い、観光に関する指標、および個別質問項目のスコアの相違を把握するために、一元配置分散分析を行った。

その結果、表 6-5 に示すとおり、大衆性の高い人は、低い人に比べて観光時の認知のスコアが低く、中でも文化（伝統）に関するスコアが低い。また、自己閉塞性の高い人は、低い人に比べて、認知、特に人・文化（伝統）の認知に関するスコアが低く、葛藤に関して全ての項目で低いスコアとなっている。

つまり、大衆性の高い人は低い人に比べて「観光の際に認知しようと思わず、特に地域の文化（伝統）に触れる機会を多くしたいと思わず、観光で見聞きしたことをきっかけに自分のあり方や考え方に“変化”が生じにくい」という結果が、統計的に有意な水準で示された。同様に、自己閉塞性については、自己閉塞性が高い人は、低い人に比べて「観光の際に、地域の文化（伝統）に触れる機会を多くしたいと思わず、地域の人と話す機会を多くしたいと思わず、総じて認知をしようと思わず、観光をきっかけに自分の生活や考え方を“見つめる”こともなく、これらについて“葛藤”することもなく、“変化”が生じにくく、総じて葛藤過程を踏みにくい」という結果が、統計的に有意な水準で示された。

表 6-5 大衆性の高低による分散分析

	大衆性							
	低い			高い			F 値	p値
	N	M	SD	N	M	SD		
観光_認知	80	3.25	0.86	69	2.91	0.98	5.13	0.03
認知_地域	80	2.83	1.10	70	2.63	1.12	1.17	0.28
認知_人	80	3.09	1.19	70	2.90	1.13	0.97	0.33
認知_文化	80	3.84	1.10	69	3.17	1.24	12.06	0.00
観光_葛藤	72	1.93	0.77	66	1.78	0.67	1.43	0.23
自己相対化	79	2.14	0.89	70	1.99	0.92	1.07	0.30
葛藤経験	73	1.63	0.83	66	1.58	0.75	0.16	0.69
変化経験	73	2.05	0.98	66	1.79	0.75	3.17	0.08
	傲慢性							
	低い			高い			F 値	p値
	N	M	SD	N	M	SD		
観光_認知	82	3.07	0.91	67	3.11	0.96	0.07	0.79
認知_地域	82	2.65	1.06	68	2.84	1.17	1.11	0.29
認知_人	82	2.94	1.18	68	3.07	1.15	0.49	0.48
認知_文化	82	3.63	1.17	67	3.40	1.24	1.36	0.25
観光_葛藤	75	1.82	0.70	63	1.90	0.76	0.43	0.51
自己相対化	81	2.00	0.84	68	2.15	0.98	0.98	0.33
葛藤経験	76	1.55	0.74	63	1.67	0.84	0.72	0.40
変化経験	76	1.92	0.88	63	1.94	0.91	0.01	0.92
	自己閉塞性							
	低い			高い			F 値	p値
	N	M	SD	N	M	SD		
観光_認知	73	3.31	0.85	76	2.88	0.96	8.28	0.00
認知_地域	73	2.79	1.13	77	2.68	1.09	0.43	0.51
認知_人	73	3.22	1.22	77	2.79	1.08	5.18	0.02
認知_文化	73	3.92	1.11	76	3.16	1.18	16.33	0.00
観光_葛藤	66	2.07	0.82	72	1.66	0.58	11.98	0.00
自己相対化	73	2.36	0.95	76	1.79	0.77	16.07	0.00
葛藤経験	66	1.77	0.91	73	1.45	0.62	5.98	0.02
変化経験	66	2.12	1.00	73	1.75	0.74	6.14	0.01

6.5. 考察

以上の相関分析、一元配置分散分析の結果から、本章の仮説が支持され、大衆性の高い人、特に自己閉塞性の高い人は、観光の際に、訪れた地域のことを認知しようとせず、結果的に葛藤も生じにくい可能性のあることが示唆された。

この結果は、前章までの研究結果に共通していた「大衆性の高い個人は大衆性が抑制されにくい」という傾向を踏まえれば、「大衆性の高い個人は、その大衆性、特に自己閉塞性の高さ故に、他を“認知”せず、それ故に自他の“比較”，そして“葛藤”が生じ得ないために、大衆性が抑制されない」、あるいは、「大衆性の低い個人は、その大衆性の低さ故に、他を“認知”し、それ故に自他の“比較”，そして“葛藤”が生じやすいため、大衆性が抑制されやすい」という、大衆性抑制過程の一つを実証的に示唆している結果だと言えるだろう。なお、これはそもそもの自己閉塞性の定義「自分自身の外部環境からの閉塞性」を踏まえれば、理論的に十分に整合的な内容であり、大衆性及びその抑制の可否を考える上で、有用な経験的妥当性を持った知見だと考えられるところである。

なお、この検証においては、前章までの実践行為と大衆性抑制の直接的関係、すなわち「観光によって個人の個人大衆性が抑制されたかどうか」を把握できていない。この点は、今後の研究課題であるが、ここでは、以上の結果に基づく考察・推論を重ねることで、今後の研究に向けた視座を得ることとしたい。

これにあたり、前章までにおいて大衆性抑制施策として一定程度の効果が確認された「良書の通読」、「利他的行動」と「観光」についての相違を考察することから始めたい。前者2つの行為と観光における顕著な相違の一つに、娯楽性の有無が考えられる。無論、良書通読や利他的行動においても、それらの行為に関する態度や自己における便益（自己実現など）の認識など、個人の行為を規定するポジティブな要因の存在は数多く示されている^{2),3),4),5)}。その中に、娯楽的要素と関連づけられるものが存在する可能性は否定できないが、娯楽性が主となる観光とはその動機において大きく区別することができるであろう（（財）経済広報センターの調査結果⁶⁾では、観光旅行の目的は「娯楽，ストレス解消，リフレッシュ」が90%を占めることが示されている^[1]）。つまり、良書通読においては、（例えば『代表的日本人』のように）高潔なる人物や精神に触れることそのものが行為の意義であり目的になり得る^[2]、利他的行動においては、「人の役に立つ」こと自体が主たる目的となり得る^[3]のであり、これまで繰り返し論じてきたとおり、これらの意義や目的は大衆性に対置する存在と接触する、あるいはその種の存在に近接する行為であると考えられる。

以上の解釈に一定程度の妥当性があるとするならば、「観光という行為」は、「良書の通読」や「利他的行動」に比して大衆性抑制の効果が“一般的には”低いという可能性が窺える。なぜならば、娯楽を主たる目的とする観光においては、大衆性と対置する存在との接触やこれに付随する行為を実践することが強制されないからである。ただし、

先に“一般的には”なる枕詞を付記しているのは、まさしく本章で示されたとおり、大衆性が相対的に低い人々は葛藤が生じやすく、その帰結としてコールバーグ理論⁹⁾の示すような道徳段階の向上、言い換えれば大衆性の抑制が達成される可能性があることも否定できないからである。いずれにしても、先述のとおりこの点を明らかにするためには追加研究が必要であり、本研究はその基礎的な知見を与えるものとして位置付けられるものである。

第6章脚注

- [1] 観光に関しては、主体、すなわち観光旅行者の動機や満足度などについて社会心理学的視点からの仔細な研究が多数存在する（第3章参照）。しかしながら、これらを概覧するに、多くの研究において、観光行動の動機を把握する上で「娯楽」の要素が多分に含まれることは基本的な同意事項であると見受けられる。ここに記載したとおり、簡易な調査ではあるが、回答者の90%がその傾向を示しているのは、この「娯楽的要素が多くを占める」という解釈を有力に支持するものであると言えよう。なお、「娯楽的要素」の定義やその分類等に関する議論は林ら⁷⁾、及び吉川⁸⁾などを参照されたい。
- [2] 読書の動機に多様性があることは論を俟たない。例えば、平山⁵⁾は、読書動機に関するアンケート調査結果から、“娯楽休養”、“練磨形成”、“言語機能”、“影響触発”の4つの因子を抽出している。この平山の研究は、読書全般を対象とした（または読書という行為を一般化した）分析であるため、上記4つの因子が「どのような書籍を読む際の動機を規定する因子となるのか」については明確にされていないが、仮にこの4つの分類に従うならば、本研究で扱う良書の通読は“練磨形成”の要素が大きいであろうことが、その書籍の内容から想像されるところである。
- [3] 利他的行動の動機についての既往研究は、2.2を参照されたい。

第6章参考文献

- 1) 羽鳥剛史，小松佳弘，藤井聡：大衆性尺度の構成－“大衆の反逆”に基づく大衆の心的構造分析－，心理学研究，Vol.79，No.5，pp.423-431，2008.
- 2) 安藤香織，広瀬幸雄：環境ボランティア団体における活動継続意図・積極的活動意図の規定因，社会心理学研究，Vol.15，No.2，pp.90-99，1999.
- 3) 坂野純子，矢嶋裕樹，中嶋和夫：地域住民におけるボランティア活動への参加動機と満足感の関連性，東京保健科学学会誌，Vol.7，No.1，pp.17-24，2004.
- 4) 広瀬幸雄：環境配慮的行動の規定因について，社会心理学研究，Vol.10，No.1，pp.44-55，1994.
- 5) 平山祐一郎：大学生の読書動機分析，東京家政大学研究紀要，Vol.45，No.1，pp.117-122，

2005.

- 6) 財団法人経済広報センター：観光に関する意識・実態調査報告書，2010
- 7) 林幸史，藤原武弘：訪問地域，旅行形態，年齢別にみた日本人海外旅行者の観光動機，
実験社会心理学研究，Vol.48，pp.17-31，2008.
- 8) 吉川茂：大学生の観光動機と観光懸念に関する心理学的考察，阪南論文集 - 人文・自然科学編 - ， Vol.47， No.2， pp.125-133， 2011.
- 9) Kohlberg, L.: Sage and sequence : The cognitive-developmental approach to socialization, In D.A. Goslin(ed), Handbook of Socialization: Theory and Reach, Rand McNally, 1969. (コールバーグ「道徳性の形成」，永野重史監訳，新潮社，1987)

第7章 実践行為における大衆性抑制施策の展望

本章では、これまでの研究結果およびそれぞれの考察を踏まえ、本論文の目的である大衆性施策の展望についてを、実践行為の中に見出すこととしたい。

7.1. 大衆性の形成過程と抑制過程からの示唆

良書通読に関する研究においては、『代表的日本人』をはじめとする良書の通読が、人々においてその傲慢性を抑制する効果を持つ可能性が示され、また、その効果を規定する条件として、幼少期の生活環境が重要な影響を及ぼし得る可能性が示された。

ここで、先行研究¹⁾に引き続き、本研究においても、幼少期の生活環境が人々の自己閉塞性を高める可能性が示された一方で、傲慢性については、幼少期の生活環境との間に有意な関連は確認されなかった。また、先行研究と同様に、人々の傲慢性について、それが自己閉塞性と有意に相関することから、大衆性の形成過程として、まず幼少期の生活環境が自己閉塞性の形成を促進し、その後、自己閉塞性の高い人において、傲慢性の形成が促進される、という因果プロセスが存在する可能性が考えられる。本研究で得られた結果は、成人期の読書経験において、人々の傲慢性を促進もしくは抑制する効果が、幼少期の生活環境によって規定されるという可能性を暗示しており、それ故、以上の因果過程と整合的な結果であると言える。

このように、幼少期の生活環境は、大衆性を構成する自己閉塞性の形成を促進するとともに、それ以後の様々な外部環境との接触において、傲慢性を形成する諸要因の効果を規定するという意味において、傲慢性の形成にも間接的に影響を及ぼしている可能性が考えられる。それ故、以上に得られた結果は、先行研究に引き続いて、大衆性の形成要因として、幼少期の生活環境が極めて重要である可能性を改めて示唆するものであると考えられる。

さて、このように個人の過去に大衆性の形成要因が見いだされ、かつ現在においても大衆性抑制において、その過去が関係していることが把握されたところであるが、この知見では極めて本質的な示唆を与えるものであるものの、目の前の課題、すなわち「現在の社会に存在する大衆人」に対する処方箋を示すものとは言い難い¹⁾。

そこで、利他的行動に焦点を当てた調査では、利他的行動の経験が平均的に大衆性を低減させる効果を有することが示された。しかしながら、大衆性の高い個人は、傲慢性、自己閉塞性のいずれにおいても、抑制されにくく、特に傲慢性においてはそれを増長させる可能性すら示唆されたところである。この傾向は、観光に関する研究でも同様に確認され、大衆性の高い個人は、個人の道徳段階の向上に必要とされる葛藤を経験しにくく、特に自己閉塞性の高い個人はこの傾向が強い可能性のあることが示された。

つまり、総じて大衆性の高い個人は、道徳段階の向上が生じにくく、大衆性の抑制も

されにくいという可能性が示されたのである。無論、本論文で直接的に検証された大衆性抑制を期する実践行為は、良書の通読と利他的行動の経験のみであるが、「自己を成立せしめる“関係性”からの一時の離脱が生じ得る環境」と考えられる観光においてすら、他者の認知をせずに、葛藤も生じることのないことを鑑みれば、このような「大衆人」は、他の実践行為においても、これまでの検証結果と同様に「変わらない（大衆性に影響を受けない）」可能性があり、残念ながらこの可能性を理論的に否定することは現在のところ困難であると言わざるを得ない。この絶望的な示唆は、いみじくも本論文において引用したオルテガの文章に如実に描出されている。すなわち、「愚者にその愚かさの殻を脱がせ、しばしのあいだ、その盲目の世界の外を散歩させ、日ごろの愚鈍な物の見方をより鋭敏な物の見方と比較するよう力づくで強制する方法はない」（傍点は筆者による）のである²⁴。

ただし、この解釈は大衆性の高い人々に着目した結果であり、繰り返し記載しているとおり、良書の通読においては、短期間ではあるものの、平均的に傲慢性が抑制される傾向が、利他的行動においては、平均的に傲慢性と自己閉塞性を抑制さえる傾向が確認されているのである。以上の結果を改めて踏まえ、次節において、現実的な処方箋を提案することとしたい。

7.2. 実践行為を通じた段階的大衆性低減施策

社会的ジレンマを背景とした交通問題に対して、近年国内外において活用される機会の多いのがモビリティ・マネジメント²⁵である。これに関する多くの事例では、過度な自動車利用から適切に公共交通や自動車以外の手段を活用することを促し、渋滞問題や公共交通の衰退といった社会的課題の漸次的改善を促す取り組みが行われている³⁾。これらの取り組みは、その多くが「便利なクルマ」から「(クルマに比べて) 不便な移動手段」への転換を促す（非協力交通から協力行動への変容を促す）ことを目的としており、その実施においては、社会心理学的な知見に基づいたコミュニケーション、マネジメントを“丁寧”に、かつ“継続的に”行うことが重視されている。

このような、公共交通等への転換・便利な自動車利用の抑制という「安易に解決され難い」社会問題に対して、現実展開され、かつ効果が明確に示されている取り組みは、同様に「安易に解決され難い」大衆性低減施策を検討する上で、重要な示唆を与え得るものとする。なぜならば、これらの間には、人間そのものを対象として捉え、「個人の（態度行動）変容」を図ろうとする取り組みであるという本質的な共通項が存在するからである。そして、その示唆とは、“丁寧さ”と“継続性”を重視している点である。成人した個人の態度、価値観、あるいは心的傾向についての変化を促すにおいて、これらは重要な要素と考えられるであろう²⁶。

そこで、本節においては、平均的に大衆性の抑制に効果のある可能性が見いだされた

利他的行動に着目し、この示唆を援用した「段階的大衆性低減施策」の一つとして、「ボランティアツーリズムの可能性」を検討することとしたい。

実践行為としてのボランティアツーリズムの可能性

中村は、ボランティアツーリズムを「自由時間における、さまざまな動機に基づいた、生活圏外においての、社会の諸問題の解決や援助などに貢献する自己実現性ある労働を目的とする観光」と定義している⁵⁾。また、このボランティアツーリズムには、個人や社会の変化を促し、社会活動参加を促す手段として有効である可能性があるとされている⁶⁾。

以上の認識に基づき、中前ら⁷⁾は、地方部の除雪作業を行うボランティアツーリズム参加者に足してアンケート調査を実施し、参加者の動機に応じて「ボランティア精神群」と「非ボランティア精神群」に分けて分析を行い、ボランティア精神群は非ボランティア精神群に対して、社会や公益に対する献身的態度について肯定的な意識を持っている可能性があるとしている。さらに、ボランティア精神群は、除雪（すなわち労働）への従事に対して満足感を抱きやすく、非ボランティア精神群は観光要素の充実が満足感につながりやすい傾向があるものの、除雪（ボランティア活動）での“想像以上の充実感”が満足度の向上につながっていたことを指摘している。そして、このような参加動機の相違に応じたプログラムの多様化と継続性が重要であるとしている（関連するデータを転載する）。

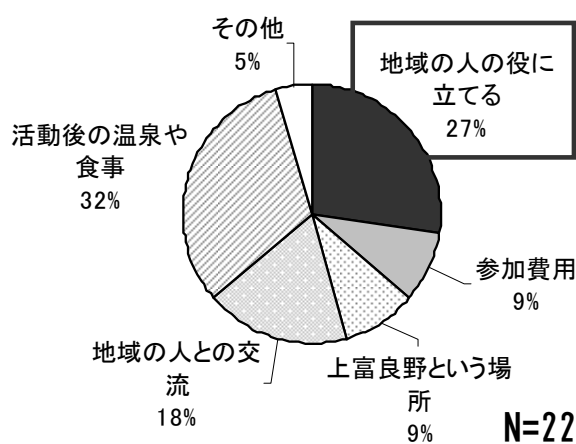


図 7-1 ボランティアツーリズム参加者の動機
(中前ら⁷⁾より転載)

表 7-1 参加者の献身的行動に関する意識
(中前ら⁷⁾より転載)

	項 目	M
1	「人の役に立つこと」をするのは、社会にとって「大切」なことだと思う	6.0
2	「人の役に立つこと」をするのは、自分にとって「大切」なことだと思う	5.7
3	「人の役に立つこと」をするのが「好き」だ	5.4
4	「自分を犠牲にする」という考え方は、当たり前だと思う	3.8

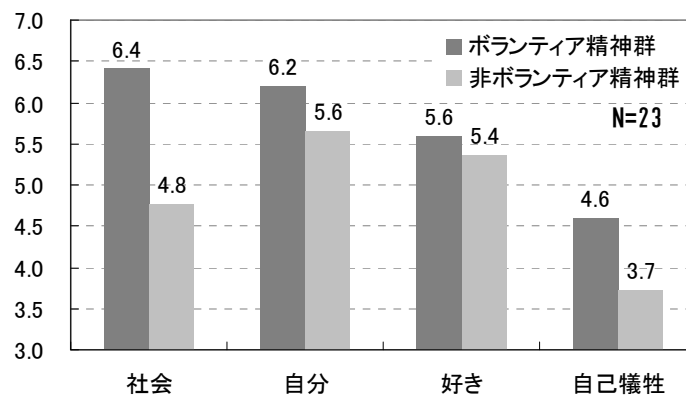


図 7-2 回答者のボランティア意識と献身的行動に関する意識
(中前ら⁷⁾より転載)

さて、ここでの非ボランティア精神群における“除雪における想像以上の充実感”の経験は、利他的行動に関する推論で展開した「利他的行動の経験による態度の変容」の想定に合致するものであり、その背景には、利他的行動への参加による協力行動の3要因の活性化があるものと考えられよう。これは、まさに利他的行動の経験に大衆性抑制の可能性を見出し、その効果が確認された本論文の推論、結果と合致する事例だと考えられるところである。

以上のことから、筆者は段階的大衆性低減施策の一つとして、中前ら⁷⁾が提案する「参加動機に応じた多様なボランティアツーリズム」の可能性を論じることとしたい。その最大の理由は、まさしくその「多様性」にある。なぜなら、2.2においてレビューした先行研究にもあるとおり、ツーリズム（観光）の主体、すなわち旅行者には「探索者タイプ旅行者」、「エリート旅行者」、「マス旅行」などの複数のタイプがあり、さらにボランティアツーリズムにおいては、その形態の特徴からボランティア精神群と非ボランティア精神群という類型も加わることとなることを踏まえれば、そのプログラムは多様な形式で設定されることが不可欠と思われるからである。むしろ、そのプログラムの多様

性によってこそ、適切な「個人の段階的な変容」が達成されうるものとする。その意味においては、多様性よりやや具体的な「多段階性」を採用することが重要であろう。これは、ボランティアツーリズムにおいて、利他性が求める「ボランティア的性質」と、娯楽性が求める「ツーリズム的性質」のバランスを、段階的に設計することの重要性を意味する。

そして、この多段階性を有するボランティアツーリズムが秘める可能性とは、まさしく「大衆性の段階的な抑制」である。ここで、利他的行動に経験が平均的に大衆性を抑制する効果を有するとともに、大衆性の高い個人においては、総じて大衆性が抑制されにくい傾向が示されたが、「万人」に通ずる特効的処方箋が存在し得ないのと同様、大衆性の高い個人「全員」が、「絶対に」大衆性が低減しないと断言することは不可能であろう。むしろ、個人における心的傾向の多様性・複雑性を踏まえれば、あるいはいみじくもオルテガが大衆性を「心理的現象」と捉えていることを踏まえれば、いかなる大衆人においても幾ばくかの非大衆的要素を有していると考えられるのであり、この点を否定しえない限りにおいては、大衆人を含めた多くの人が「非大衆化する」可能性を有していると考えられるところである。そして、ボランティアツーリズムにおける「ボランティア的性質」が有する効力、すなわちその伝播や認知的不協和による態度の変容が、この幾ばくかの非大衆的要素によって生じ得る可能性も皆無ではないだろう。また、仮にわずかでも非大衆化した個人が、より「ボランティア的性質」の高いボランティアツーリズムに参加した暁には、より活発な認知的不協和が生じ、一層の非大衆化が期待できるであろう。しかも、彼の有する元来の大衆性に起因した利他的行動への関与に対する心理的リアクタンスは、同時に獲得される「ツーリズム的性質」への満足感により軽減されることも期待できよう。

以上のとおり、多様性、多段階性のあるボランティアツーリズムの実現は、このように大衆性の段階的な抑制の可能性を有する施策だと考えられる。しかしながら、このようなプログラムの展開は、実施者側における明確なマネジメントの意識と、参加者と真摯に向き合う“丁寧な”姿勢（それに基づく設計、および事前事後のコミュニケーション）、さらには、段階的低減の機会を創出・提供し続ける“継続性”が不可欠である。

筆者の知る限り、このような多様性、多段階性のあるボランティアツーリズム自体、実験的な取り組みが一部で始まったばかりである⁸⁾ことから、上記の“丁寧さ”と“継続性”に注視しつつ、今後の動向を継続的に把握するとともに、これを実証するためのさらなる研究を進めることとしたい。

7.3. 実践行為を通じた強制的な大衆性低減施策

前節において段階的大衆性低減施策としてボランティアツーリズムに可能性を見出した論拠は、本論文で示された利他的行動の大衆性抑制の可能性であり、万人における非大衆的要素の存在であった。これは、実証データを根拠としていると言え、あくまでも

参加者における「自発的变化」に「期待」するものである以上、施策実行における理解・信念の程度によらず、参加者に対する施策実行者の関与は限定的なものであると言えよう。そこで、本節では、参加、あるいは従事することにより「強制的に」大衆性が低減される可能性の高い方途を検討したい。

まず、個人の態度、価値観、心的傾向などに「強制的に」働きかける方途として、社会的ジレンマにおける構造的方略（**structural strategy**）⁴⁾が考えられる。これは、例えば法的規制により非協力行動を禁止する、非協力行動の個人利益を軽減させる、協力行動の個人利益を増大させる等の方略により、社会的ジレンマの創出している社会構造そのものを変革することである。しかしながら、大衆性においてこれを議論する際には、この考え方を「参照」することは有用であるが、これを「採用」することは現実的に不可能だと思われる。なぜならば、本論文の問題意識のごとく、大衆性が近現代社会の諸問題における根源的な部分に位置するものであると捉える以上、特定の非協力行動を規制する構造的方略は、大衆性を根源的な起因とする“一部の社会問題”を是正し得る可能性を有するに過ぎないからである。

しかしながら、このような手法を参照・援用することは有意義であろう。そこで、次に、個人への強制的な働きかけが可能な「構造」（環境）の性質について考察することとしたい。ここにおいて、筆者は「絶対的な存在と対峙せざるを得ない」ような構造（環境）が重要であろうと考える。これは、第一に、個人（自己）と対峙する対象が絶対的なものであれば、その対象への認知的不協和は圧倒的なものであり、自ずとこの不協和の是正への試みが開始され、これと同時に、対峙する自己を強く認識し、屹立させざるを得ないことが想像されるからである。第二に、このような絶対的な存在に対する自己の屹立がもたらすのは、収束点のない葛藤の継続であり¹⁴⁾、この葛藤の継続は、コールバーグ理論が示すところの道德段階の向上を強制的に達成させると考えられるからである。ここで「絶対的な存在を認識する」環境ではなく、「絶対的な存在と対峙せざるを得ない」環境であることをあえて強調しておきたい。「対峙せざるを得ない」環境とは、すなわち自己閉塞性の介在を許さない状況が連続することを示しているのであり、対象が絶対的であるが故に、傲慢性はその架空の根拠を失い続けるのである。

さて、筆者はここに強力な構造（環境）を提示したが、ここで不可欠となる「絶対的な存在」とはどのようなものであろうか。これは、ソクラテスの真・善・美をめぐる考察に直結するものであるが、その点を踏まえつつも、ここでは大衆性抑制施策が展開される現実世界、形而下においてこそ確認可能な「絶対的な存在」を見出すことが重要であろう。それは、例えば現実的に逃れることが絶対的に不可能な「死」である。あるいは「死」を認識することによる「運命の焦点化」（ニーチェの言うところの運命愛⁹⁾の獲得）である。しかしながら、この「死」については、生の維持そのものが自身による営為から離れ、無数の代理者による無数の代替行為によって成り立つ傾向の強い現代社会においては、対峙すること自体が困難、あるいは逃避することが容易な存在だと言えよう。

そこで、筆者は「対峙せざるを得ない絶対的存在」として、「自然」を提起することとしたい。なぜなら、自然はあらゆる生と同時に、かつ同量に、死を内包しているからである。さらに、同じ理由により、どのような場面、場所、切り口においても、地球歴史上における圧倒的に壮大な「物語」を有しているからである。そして、我々が認識する現存する自然とはそのような現在進行形の物語の刹那の姿である。

このように、自然を絶対的な存在として捉えることが妥当だとするならば、次に考察すべきは、これと「対峙せざるを得ない」構造（環境）である。それは、不可避的脅威によって如実にその存在を提示する自然災害であろうか。確かに、自然災害は「対峙せざるを得ない」性質を強く有しているが、特に現代における自然災害が一時的、局所的である場合が多いことを踏まえれば¹⁰、何よりもそのような偶発的状況に大衆性低減施策を当てはめようとする自体の無遠慮性、無意味性を踏まえれば、決して妥当であるとは言い難い。そこで、本論文では、日常的に自然に「対峙せざるを得ない」環境、実践行為として「農」に着目することとする。

実践行為のとして農の有する可能性

農とは、絶対的な存在である自然の中に摂理を見出し、人間の生を維持する（生きる）という明確な目的の下、この摂理をこの摂理の中において活用しようと試みてきた歴史的営為であると言うことができよう。換言すれば、自然に対する生の同期を試みる営為である。近代化、機械化、効率化の進んだ現代農業においてすら自然の摂理すべてを無視することができない以上、現在においてもなお、農という実践行為はその自然への同期という本質的な（対峙の）構造を有している営為だと言えよう。つまり、「農は絶対的な存在である自然に対峙せざるを得ない実践行為だ」と捉えることが可能だと考えられるところである。

さて、ここで上記の自然への「同期」という解釈に対して、「活物同期」という概念を提起したい。活物同期とは、自らの精神の閉塞空間の外部にて躍動する「活動」に、自らの精神を同期させ、自身の精神の解釈学的循環を活性化させることである（例えば、文学や詩、映画等と芸術鑑賞、「活力」ある他者との交流、伝統的共同体や自然界の内部生活への従事等）。そして、ここに言う解釈学的循環とは、人間の「解釈」に関する循環を意味するものである（ハイデッガー¹⁰）。この概念では、何らかの状態を解釈する際には「先入見」（一般的などころの先入観）が不可欠であり、その先入見に基づいて何らかの状態を解釈した瞬間に、その解釈がそもそもの先入見に影響を与えるという認識に立つ。そして、このように「解釈」が介在するところでは、人間はこの解釈学的循環から逃れられないのである。つまり、活物同期とは、本論文で引用したオルテガの描写になぞらえれば「自己の殻を破り、しばしのあいだ、その盲目の世界の外を散歩し、日ごろの愚鈍な物の見方をより鋭敏な物の見方と比較すること」を「続ける」ことであり、大衆性の低減を図る上で重要な概念だと考えられる¹⁶。なぜなら、活物同期は、“自らの精

神の閉塞空間の外部にて躍動する「活動」への同期“という点で、自己閉塞的志向を否定する精神的姿勢であり、“自身の精神の解釈学的循環の活性化”において、傲慢的志向からの脱却を促し得るものだからである。実際に、活物同期の一例として考えらえる伝統的行事のボランティア活動の経験者は、その他のボランティア活動経験者に比べて大衆性の低減効果が高かったという本論文の結果（5.4.2 参照）からも、その重要性が実証的に示されていると言えよう。

ここで、この活物同期の概念を農という実践行為に援用するなら、前述のとおり、地球歴史の物語を有する（つまり無限の解釈可能性を有する）自然に向き合う、自然に自己を同期する農という実践行為は、この活物同期の一つであると言えよう。そして、前述のとおり活物同期がその大衆性抑制に低減において重要であるならば、そして、ここまでの理論体系に一定程度の妥当性があるとするなら、農への従事によって、強制的に大衆性が低減される可能性が高いと言えるのである。ただし、この農が過度に近代化したものではなく、自然に対する傲慢的姿勢を持たない、自然の摂理を逸脱しないものほど効果的であろうことは、論を俟たない。

第7章脚注

- [1] ここで得られた知見は、例えば家庭環境、地域コミュニティ、そして教育環境の重要性を示唆するものであると言えよう。そして、大衆性に着目して社会の漸次的改善の方途を探る本論文においては、これらの重要性は無論軽視すべきものではない。しかしながら、特に「実践行為」にその処方箋のあり方を見出そうという本論文の意図は、ある程度の価値観、人間性が確立された「成人」の大衆性をこそ、低減・抑制させる方途を探らんとすることである。本論文における、良書通読の実験、及び利他的行動、観光に関する調査は、そのための探索的な研究なのである。
- [2] しかしながら、オルテガの強力な言説を以てしても、あるいは本論文における複数のデータを以てしても、土木工学の本分における「社会の漸次的改善」を目指すこと、すなわち、その一つの方途としての大衆性抑制の現実的施策を見出す行為を、断念するわけにはいかないのである。
- [3] この重要性については、藤井³⁾を参照されたい。
- [4] なぜなら、対峙する絶対的なものに自己が到達することは不可能だと思われるからである。
- [5] 無論、我々が直接的、あるいは間接的に直面した東日本大震災におけるその脅威は、その被害の甚大さ故に、2年以上の時間を経てもなお、自然の絶対的存在性を色濃く認識させる得るものである。しかし、誤解を恐れずに追記するなら、この未曾有の被害もまた、これまでに繰り返されてきた地球歴史上の物語の一部、刹那の出来事なのである。そして、我々が、これを以て各地、各時点において末永く語り継ぐことこそが、これに

対する「対峙」のあり方の一つであると言えよう。

- [6] ここに記述したオルテガの描出との合致が、活物同期の概念の重要性を裏付けているとも言えよう。

第7章参考文献

- 1) 羽鳥剛史，小松佳弘，藤井聡：大衆性尺度の構成－“大衆の反逆”に基づく大衆の心的構造分析－，心理学研究，Vol.79，No.5，pp.423-431，2008.
- 2) 土木学会編：モビリティ・マネジメントの手引き，（社）土木学会，2005.
- 3) 藤井聡，谷口綾子：モビリティ・マネジメント入門－「人と社会」を中心に据えた新しい交通戦略－，学芸出版社，2008.
- 4) 藤井聡：社会的ジレンマの処方箋－都市・交通・環境問題のための心理学－，ナカニシヤ出版，2003.
- 5) 中村憲司・松本秀人・敷田麻美：「労働」と観光が融合したボランティアツーリズムに関する研究，日本観光研究学会 2008 年度研究大会，口頭発表要旨，pp.425-428，2008.
- 6) McGehee, N.G., & Santos, C.A. : Social change, discourse and volunteer tourism, *Annals of Tourism Research*, Vol.32, No.3, pp.760-779, 2005.
- 7) 中前千佳，伊地知恭右，原文宏：「除雪」，「ボランティア」，「観光」の融合に関する一考察，ゆきみらい研究発表会資料，2012.
- 8) 北海道新聞：まず除雪で豪雪地支援，3 月 30 日夕刊，2013.
- 9) ニーチェ：権力への意思（上・下），ニーチェ全集 12（原佑 訳），ちくま学芸文庫，1993.
- 10) ハイデッガー：「存在と時間」の構築，岩波現代文庫（木田元編），2000.

第8章 結論

近代化の進展と共に、より増長してきたであろう人々の大衆性が、土木における景観問題や公共事業を巡る合意形成問題に対し、負の影響を及ぼしている可能性が既往研究によって指摘されているが、その根本原因である大衆性なるものが万人に共通する普遍的な心理的事実であることを鑑みると、これらの特定の問題に関わらず、様々な社会問題においてもなお、その否定的影響のあることが危惧される。そして、人々の大衆性が様々な社会問題の本質的課題であるとするならば、より良い社会を目指すためには、人々の大衆性を可能な限り抑制するための方途を検討することが必要であろう。

この問題意識の下、本論文においてはそうした方途を特に実践行為の中に見出すべく、探索的な研究を行った。具体的には、第一に、『代表的日本人』の通読における大衆性抑制の可能性を検証した。これは、書籍における高德なる精神性が、人々のより高潔なる価値への志向性を高め、その帰結として大衆性の抑制を期待するものである。第二に、利他的行動の経験における大衆性抑制の可能性を検証した。これは、利他的精神・行動が存在することの認知と利他性の伝搬を通じて、大衆性の抑制を期待するものである。そして、第三に、観光時の葛藤経験と大衆性の関係を調査し、大衆性抑制過程の探索を試みた。

第1章においては、本論論文の問題意識として、近代化のもたらす弊害に関する議論から、オルテガの大衆論に着目した先行研究について触れ、個人の有する大衆性なるものが、土木という分野において否定的影響を及ぼしうることを紹介した。これを受けて、様々な社会問題の淵源に大衆性なる心理的事実が胚胎している可能性を否定できない以上、社会の進展を望むにあたっては、人々の大衆性の抑制が必要である旨を述べ、実践行為を通じた大衆性低減施策の検討という本論文の目的を明示した。

第2章では、大衆性に関する既往研究を整理し、第1章における問題意識についてより深く言及した。また、第1章において着目した実践行為の「利他的行動」についての既往研究を整理することを通じて、利他的行動を研究するにあたっての基本的な視座を得た。そして、同様に実践行為である「観光」についての既往研究をとおして、社会心理学的知見からの観光の位置づけや、その個人への影響、動機の種類などを整理し、その観光に関する調査・分析の動向を把握した。そして、これらの知見を踏まえた上で、本論文の目的に照らし合わせて本研究の方針を示した。

第3章では、良書通読、利他的行動、観光について、それぞれ大衆性抑制とのかかわりを理論的に推察した。第一に、大衆性に対置する貴族性という要素と、古典という要素を具有する書物「良書」の通読が、大衆性を低減させる可能性があること示し、この良書として内村鑑三『代表的日本人』を選定し、その根拠を仔細に記した。第二に、利他的行動については、大衆性と負の相関を持つ利他性に着目することの意義、そして社

会的ジレンマにおける協力行動を規定する要因を援用しながら、利他性の増加および伝搬を通じた大衆性抑制の可能性を論じた。そして、第三に、大衆性が抑制される環境・状況について改めてオルテガ『大衆の反逆』からの示唆を得、コールバーグ理論を援用しながら大衆性の過程における葛藤の必要性和観光時の葛藤可能性について推論を展開した。

第4章では、第3章の第一の推論を受け、良書である「代表的日本人の通読により、大衆性が低減する」という仮説を措定し、大学生300名を対象とした実証実験による仮説検証を行った。なお、全3回の実験を通じて、最終的な実験協力者は110名であった。この実験データに基づき、仮説の検定を行った結果、書籍通読直後（約2週間後）において、大衆性を構成する2つの尺度のうち、傲慢性において仮説が支持される結果となった。すなわち、『代表的日本人』を読んだ個人において、少なくともその通読から2週間程度の間、その傲慢性が抑制される傾向が示された。大衆性なるものが、傲慢性と自己閉塞性を併せ持つ存在であることは、オルテガの大衆論においても、実験データによる相関によっても経験的に裏付けられていることであり、その点において、傲慢性が抑制されるという本研究の結果は、『代表的日本人』の通読が、大衆性の抑制に寄与する方向に働く可能性を示唆したものと解釈できるのである。また、家庭内でのコミュニケーションが活発であった人や、挨拶や礼儀などの基本的なしつけをきちんと受けていた人において、『代表的日本人』通読の際に、傲慢性及び自己閉塞性の抑制が促される傾向が高いことが示された。つまり、大衆性の抑制における効果の大きさと持続性が、幼少期の環境に規定される部分の大きいことが示唆されたのである。これは、既往研究において提示された幼少期環境と大衆性との関係に、新たな側面を加える結果であり、改めてその重要性が確認されたと言える。さらに、『You Tube 革命』に比べ、「良書」である『代表的日本人』の波及効果が高い傾向にあることが示され、大衆性抑制の可能性を秘めた書籍が人々の手によって自発的に波及していく可能性が示された。「良書」通読という施策において、このような2次的効果が確認できたことは、その大衆性抑制効果に潜在的な可能性のあることを暗示していると言えるだろう。今後大衆性抑制施策を検討するにあたっては、このような自発的行動の喚起を促すことについても考慮を加えることで、より一層の広がりをもった方途が考えられるであろう。

第5章では、第3章における第二の推論を基に、「利他的行動の経験により大衆性が低減する」という仮説を措定し、これを検証するために行ったアンケート調査の結果を整理した。なお、このアンケート調査では大学生151名（2校）の協力者を得ることができた。その結果、ボランティア活動を経験した102名においては、大衆性低減仮説を直接的に検証する項目の平均値が「変化がない」ことを示す中位値よりも統計的に有意に大衆性低減方向に変化していることが把握され、仮説が支持された。また、ボランティア活動経験者の中で、活動内容の種類による大衆性低減効果の相違を検定したところ、伝統的な行事・イベントに従事した経験にある人は、そうでない人に比べて大衆性の低減効

果が高く、身近な清掃活動に従事した経験のある人は、そうでない人に比べて自己閉塞性の低減効果が高い傾向にあることが示唆された。特に、伝統的行事・イベントは、後述の活物同期の概念にも合致するものであることから、大衆性抑制方途を探る上での重要な知見を示すものであると言える。また、大衆性と幼少期の生活環境、利他的行動の規定要因を用いた分析を通じ、大衆性（あるいは傲慢性、自己閉塞性）が低い人は、大衆性がより一層低減しやすいが、大衆性（あるいは傲慢性、自己閉塞性）が高い人は、大衆性が低減しにくいばかりか、より一層増長されてしまう可能性を有しており、利他的行動の規定要因についても、元来“望ましくない”形で有している可能性があることが示唆された。以上のことから、ボランティア活動の経験は平均的に大衆性抑制に寄与するが、高大衆人への対応について、新たな課題を見出す結果となった。なお、高大衆人の増長の可能性があるとするならば、ボランティア活動の推進には、改めて慎重な姿勢をもって臨むべきであろう。

第6章では、第3章における第三の推論を基に、「大衆性の高い人は観光においても、認知を望まなく、葛藤もしにくい」という仮説を措定した。そして、この仮説を検証するために実施したアンケート調査結果について、分析・整理した。なお、このアンケートは第5章における調査と同時に実施したものであり、大学生151名の調査協力者を得ることができた。観光時の認知や葛藤経験を把握する指標と、大衆性の関係を分析したところ、仮説を支持する結果が得られ、大衆性の高い人、特に自己閉塞性の高い人は、観光の際に、訪れた地域のことを認知しようとはせず、結果的に葛藤も生じにくい可能性のあることが示唆された。この結果は、先の高大衆群における大衆性抑制の困難さを踏まえれば「大衆性の高い個人は、その大衆性、特に自己閉塞性の高さ故に、他を“認知”せず、それ故に自他の“比較”，そして“葛藤”が生じ得ないために、大衆性が抑制されない」という、大衆性抑制過程の一端を実証的に示唆している結果だと言えよう。また、ここでは観光による大衆性低減を直接的に検証できていないが、5章までに一定の大衆性抑制効果が示された良書の通読や利他的行動に比して、娯楽的要素が大きい観光においては、大衆性が抑制される可能性が低いことが想像される。今後の研究にあたっては、こういった点を明らかにし、改めて観光時の大衆性の変化、葛藤経験との関係を整理する必要があるであろう。

第7章においては6章までの実証実験および調査の結果を踏まえ、第一に、大衆性の形成過程として幼少期の生活環境の重要性を改めて整理するとともに、葛藤という抑制過程に関する示唆も踏まえ、あらためて特に高大衆人の大衆性抑制における困難さを確認した。しかし、このような一部の高大衆人への悲観的示唆に留まることなく、第二に、実践行為を通じた段階的大衆性低減施策として、「ボランティアツーリズムの有する可能性」を提起した。これにおいては、各研究結果のみならず、社会的ジレンマにおける知見や新たな既往研究を参照しつつ、ボランティア的性質とツーリズム的性質のバランスが段階的に設計されたプログラムを提案し、複数回の参加により段階的に大衆性が低減

し得る可能性を論じ、さらにこれを実施するにあたっては、“丁寧さ”と“継続性”を十分に担保したコミュニケーション、マネジメントが重要であることを説明した。そして、第三に、より“強力な”施策として、実践行為を通じた強制的な大衆性低減施策「農の有する可能性」を提起した。これにあたっては、社会ジレンマにおける構造的方略を参照しつつ、その適切な構造（環境）について、哲学的な論考、活動同期および解釈学的循環という概念を援用しつつ、「絶対的な存在である自然に同期する」農という営為の持つ意義を論じ、これに従事するという「構造」が有する可能性を仔細に論じた。

以上のとおり、本論文、大衆性の低減を導く実践行為の探索的研究においては、望ましい示唆ばかりでなく、決して望ましくない示唆をも有しており、奇しくもこの近代以降における「生の頹廃」に属する大衆性の根深さを実証的に示すこととなった。しかしながら、大衆性低減において良書の通読に一定程度の効果が確認され、かつその効果は波及する可能性があり、利他的行動は平均的に望ましい効果が把握されたことは、大衆性の形成要因としての幼少期の生活環境、すなわち過去の経験の重要性に言及するに留まっていた先行研究から、ある程度の実証的かつ理論的進展を成し得たものと考えられる。そして、これらの探索的な個別研究結果と、葛藤経験における知見をも踏まえた「実践行為における大衆性抑制施策」を具体的に提起できた意義は小さくないものとする。

一方で、本研究を進めるにあたりいくつかの課題も見出された。例えば、良書通読による大衆性抑制効果、およびその持続性を規定する要因として抽出された幼少期の生活環境においては、一部解釈が難解な箇所があり、利他的行動に関する検証においては、分析対象がボランティア活動への参加経験を有する（利他的心理傾向を有する可能性が高い）という特性を有していることを踏まえれば、低減効果の一般化に向けた新たなサンプル・調査法での追加研究も必要であろう。また、観光行動については、大衆性抑制効果を直接的に検証するための追加研究により、より多くの示唆を得ることができると考えられる。このように、新たに確認された課題や、研究過程で残された課題、観光を含めたその他の実践行為における大衆性抑制効果の検証など、今後より一層の追加研究が必要であることは論を俟たない。

以上の点を踏まえつつも、本研究と、今後の大衆性およびこれに関係する研究の発展が、土木計画学、土木工学を通じたより良き社会の実現の一端になることを期して、本論文を結ぶこととする。

謝 辞

本研究を終えるにあたり、これまでの研究活動において、多くの方々からのご指導、ご助言、ご協力をいただきました。この場をお借りして心より感謝の意を表したいと思えます。

京都大学大学院工学研究科藤井聡教授には、本研究の遂行にあたり、横断的かつ深淵な学術的見地から、大変に多くの貴重なご指導、ご助言を賜りました。勝手な都合による北海道という遠方の地での研究活動であったにも関わらず、そしてご自身が大変にお忙しい最中にも関わらず、非常に丁寧なご指導を賜りましたこと、心より深く感謝申し上げます。また、京都大学大学院工学研究科宇野伸宏准教授、山田忠史准教授、神田佑亮准教授、中村俊之助教、宮川愛由助教、筑波大学大学院谷口綾子講師、愛媛大学大学院羽鳥剛史准教授、山口大学大学院鈴木春奈准教授、そして藤井研究室の皆様には、学会活動や合同ゼミの折等を通じて、多岐にわたる貴重なご意見を頂戴いたしました。ここに、深く御礼申し上げます。そして、遠方の地において、研究活動と業務を両立する上で、本当に様々な場面でお世話になりました藤井研究室秘書市橋裕子氏にも心より御礼申し上げます。

さらに、研究活動と業務の両立という点で、一般社団法人北海道開発技術センターの皆様から本当に暖かいご支援を賜りました。一般社団法人北海道開発技術センターにおいて、チャレンジングかつ温かい精神性の中で業務に携われてきたことが、研究活動の遂行と結果に繋がったものと心より感謝申し上げます。特に、理事兼地域政策研究所所長原文宏氏、および調査研究部兼地域政策研究所主任研究員大井元揮氏には、調査の実施、業務との両立などを含め、公私共に、常々ご助言、ご配慮をいただきましたこと、深く御礼申し上げます。

度重なる調査にご協力いただいた皆様をはじめ、研究を進めるにあたり、ご支援、ご協力をいただきながら、ここにお名前を記すことができなかった多くの皆様に、心より御礼申し上げます。

最後に、研究を遂行にするにあたり、常に精神的な支えとして在り続けてくれた友人、鹿兒島、そして沖縄の両親、そして妻に、深い感謝の意を表して、謝辞を終えたいと思えます。

付 録

1. 書籍通読に関する検証に用いた調査票
2. 利他的行動に関する検証に用いた調査票
3. 観光行動に関する検証に用いた調査票

(1-1-1)

暮らしについてのアンケート調査

- ◆ このアンケートは、
生活習慣や生活に関わるものごとへの意識についてのものです。
- ◆ それぞれの質問をよくお読みになった上で、
直感的に、あてはまるところの口に✓をつけてください。
- ◆ データは統計的に処理し、研究のみに使用いたします。
他の目的には一切使用いたしません。

(1-1-2)

質問 1 あなたの**子ども時代**の生活についておたずねします。

あなたの子ども時代の**家庭環境**についておたずねします。

1) 子どものころ、 あなたの家族は、 何人でしたか ? 一緒に住んでいた家族の人数を 教えてください。	自分を入れて _____人			
2) 兄弟・姉妹 は何人いますか?	兄 _____人 姉 _____人	弟 _____人 妹 _____人		
3) 子どものころ、 祖父・祖母 と同居していましたか?	祖父と <input type="checkbox"/> 同居していた <input type="checkbox"/> 同居していない	祖母と <input type="checkbox"/> 同居していた <input type="checkbox"/> 同居していない		
4) 父親 の職業は? 主な仕事を右から一つ選んでください。	会社員(製造業)	<input type="checkbox"/> 農水産・鉱業 <input type="checkbox"/> 繊維紙 <input type="checkbox"/> 窯業 <input type="checkbox"/> 造船・車輛	<input type="checkbox"/> 建設・土木 <input type="checkbox"/> 化学・薬品 <input type="checkbox"/> 金属 <input type="checkbox"/> 精密	<input type="checkbox"/> 食品 <input type="checkbox"/> 石油 <input type="checkbox"/> 機械・電気 <input type="checkbox"/> 他製造
	会社員(非製造業)	<input type="checkbox"/> 商社 <input type="checkbox"/> 証保険 <input type="checkbox"/> 電力	<input type="checkbox"/> 小売 <input type="checkbox"/> 不動産 <input type="checkbox"/> マスコミ	<input type="checkbox"/> 金融 <input type="checkbox"/> 運輸 <input type="checkbox"/> サービス
	団体職員	<input type="checkbox"/> 政府 <input type="checkbox"/> 公共	<input type="checkbox"/> 都道府県 <input type="checkbox"/> 民間	<input type="checkbox"/> 市区町村 <input type="checkbox"/> 国際
	教員	<input type="checkbox"/> 小・中学校 <input type="checkbox"/> 短大・大学・大学院	<input type="checkbox"/> 高校・高専 <input type="checkbox"/> 専門学校	
	その他	<input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 主夫	<input type="checkbox"/> 農林水産業 <input type="checkbox"/> 無職	<input type="checkbox"/> 自由業 <input type="checkbox"/> その他
5) 母親 の職業は? 主な仕事を右から一つ選んでください。	会社員(製造業)	<input type="checkbox"/> 農水産・鉱業 <input type="checkbox"/> 繊維紙 <input type="checkbox"/> 窯業 <input type="checkbox"/> 造船・車輛	<input type="checkbox"/> 建設・土木 <input type="checkbox"/> 化学・薬品 <input type="checkbox"/> 金属 <input type="checkbox"/> 精密	<input type="checkbox"/> 食品 <input type="checkbox"/> 石油 <input type="checkbox"/> 機械・電気 <input type="checkbox"/> 他製造
	会社員(非製造業)	<input type="checkbox"/> 商社 <input type="checkbox"/> 証保険 <input type="checkbox"/> 電力	<input type="checkbox"/> 小売 <input type="checkbox"/> 不動産 <input type="checkbox"/> マスコミ	<input type="checkbox"/> 金融 <input type="checkbox"/> 運輸 <input type="checkbox"/> サービス
	団体職員	<input type="checkbox"/> 政府 <input type="checkbox"/> 公共	<input type="checkbox"/> 都道府県 <input type="checkbox"/> 民間	<input type="checkbox"/> 市区町村 <input type="checkbox"/> 国際
	教員	<input type="checkbox"/> 小・中学校 <input type="checkbox"/> 短大・大学・大学院	<input type="checkbox"/> 高校・高専 <input type="checkbox"/> 専門学校	
	その他	<input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 主婦	<input type="checkbox"/> 農林水産業 <input type="checkbox"/> 無職	<input type="checkbox"/> 自由業 <input type="checkbox"/> その他

(1-1-3)

6) 子どものころ、 神棚 が家にありましたか？	<input type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった
7) 子どものころ、 仏壇 が家にありましたか？	<input type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった
8) 子どものころ、 夕食 はどのように食べることが多かったですか？	<input type="checkbox"/> 家族全員で食べる <input type="checkbox"/> 全員ではないが家族でそろって食べる <input type="checkbox"/> 子どもたちだけで食べる <input type="checkbox"/> ばらばらに食べる
9) 子どものころ、 学校から帰ったとき、 家族の誰か が家にいましたか？	いつもいなかった どちらとも言えない いつも誰かいた ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
10) 子どものころ、 家の手伝い をふだんしていましたか？	全くしなかった どちらとも言えない いつもしていた ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
11) 子どものころ、 「おはよう」「いただきます」といった 家庭内のあいさつ をしっかりとっていましたか？	全くしなかった どちらとも言えない いつもしていた ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
12) 子どものころ、 親にしかられること はよくありましたか？	全くなかった どちらとも言えない たびたびあった ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
13) 子どものころ、 家庭内で 礼儀作法 についてしつけられましたか？	全くしつけられなかった どちらとも言えない 厳しくしつけられた ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
14) 子どものころ、 欲しいと思うもの は何でも買ってもらえましたか？	全く買ってもらえなかった どちらとも言えない いつも買ってもらえた ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
15) 子どものころ、 食事のときよく テレビ をつけていましたか？	全くつけていなかった どちらとも言えない よくつけていた ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
16) 子どものころ、 テレビゲーム でよく遊びましたか？	全く遊ばなかった どちらとも言えない よく遊んでいた ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
17) 子どものころ、 「節分」「ひな祭り」「端午の節句」などの 季節の行事 を家庭内でよく行っていましたか？	全く行わなかった どちらとも言えない よく行っていた ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
18) 子どものころ、 お墓参り によく行きましたか？	全く行かなかった どちらとも言えない 毎年行っていた ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
19) 子どものころ、 親戚づきあい は多かったですか？	全くなかった どちらとも言えない よく行き来していた ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →

(1-1-4)

20) 子どものころ、 家によく 来客 がありましたか？	<div>全くなかった どちらとも言えない 非常に多かった</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>
21) 子どものころ、 家族での移動はいつも 自動車 でしたか？	<div>全く利用しなかった どちらとも言えない いつも車だった</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>
22) 子どものころ、 家に自分の 一人部屋 がありましたか？	<div>□ あった □ なかった</div> <div>↓</div> <div>どのくらい自室にいましたか？ 家にいる時はほとんど部屋にいた</div> <div>寝る時だけ どちらとも言えない</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>
23) 子どものころ、 親子間の会話 は多かったと思いますか？	<div>全くなかった どちらとも言えない 非常に多かった</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>
24) 子どものころ、 社会の問題 が家族の間で話題となることはありましたか？	<div>全くなかった どちらとも言えない 非常に多かった</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>

あなたの子ども時代の**地域との関わりあい**についておたずねします。

25) 子どものころ、自分の住んでいたところに 今も 愛着 がありますか？	<div>全くない どちらとも言えない 非常にある</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>
26) 子どものころ、 近所の人にいつも あいさつ をしていましたか？	<div>全くしなかった どちらとも言えない いつもしていた</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>
27) 子どものころ、 近所の人から、 よく 注意 を受けたり しかられたり しましたか？	<div>全くなかった どちらとも言えない たびたびあった</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>
28) 子どものころ、 近所の子ども と、よく遊びましたか？	<div>全く遊ばなかった どちらとも言えない いつも遊んでいた</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>
29) 子どものころ、 近所の 祭りや盆踊り にいつも参加していましたか？	<div>全く参加しなかった どちらとも言えない いつも参加していた</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>
30) 子どものころ、 あなたの家庭は、 両隣の家と親交 がありましたか？	<div>全くなかった どちらとも言えない 非常に親密だった</div> <div>← □ □ □ □ □ □ □ →</div>

質問2 あなたご自身のことについて、お答え下さい。

1) 年齢・性別は？	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	年齢 _____ 才
2) あなたの実家の場所は？	_____ 都 道 府 県 _____ 市 町 村	
3) あなたの学年は？	学部・修士・博士 _____ 年	
4) あなたの所属学科・専攻(所属類)は？		
5) 父親の最終学歴は？	<input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高専 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 知らない	<input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 短大 <input type="checkbox"/> 大学・大学院 <input type="checkbox"/> 答えたくない
6) 母親の最終学歴は？	<input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高専 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 知らない	<input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 短大 <input type="checkbox"/> 大学・大学院 <input type="checkbox"/> 答えたくない
7) テレビを一日でどのくらい見ますか？	一日 _____ 時間程度	
8) 自分の趣味にインターネットをよく利用しますか？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
9) 「2ちゃんねる」を見ますか？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
10) 芸能スキャンダルに興味がありますか？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
11) 「ブランドもの」が好きですか？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
12) あなたのよくする娯楽をすべて選んでください。	<input type="checkbox"/> 競馬 <input type="checkbox"/> 競輪 <input type="checkbox"/> パチンコ <input type="checkbox"/> 宝くじ <input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> 競艇 <input type="checkbox"/> toto <input type="checkbox"/> 麻雀 <input type="checkbox"/> その他
13) あなたの家庭で購読している新聞(一般紙)をすべて選んでください。	<input type="checkbox"/> 朝日新聞 <input type="checkbox"/> 産経新聞 <input type="checkbox"/> 日本経済新聞 <input type="checkbox"/> 購読していない	<input type="checkbox"/> 読売新聞 <input type="checkbox"/> 毎日新聞 <input type="checkbox"/> 地方紙 <input type="checkbox"/> その他
14) あなたのよく読む週刊誌をすべて選んでください。	<input type="checkbox"/> 週刊文春 <input type="checkbox"/> 週刊朝日 <input type="checkbox"/> AERA <input type="checkbox"/> 読売ウイークリー <input type="checkbox"/> 週刊アサヒ芸能 <input type="checkbox"/> 週刊実話 <input type="checkbox"/> 週刊現代 <input type="checkbox"/> 週刊ポスト <input type="checkbox"/> FLASH <input type="checkbox"/> 読まない	<input type="checkbox"/> 週刊新潮 <input type="checkbox"/> 週刊東洋経済 <input type="checkbox"/> サンデー毎日 <input type="checkbox"/> SPA! <input type="checkbox"/> 週刊女性 <input type="checkbox"/> 週刊大衆 <input type="checkbox"/> 週刊プレイボーイ <input type="checkbox"/> フライデー <input type="checkbox"/> その他

5

(1-1-6)

<p>15) あなたのよく読むスポーツ新聞・タ刊紙を すべて選んでください。</p>	<table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 日刊スポーツ</td> <td><input type="checkbox"/> サンケイスポーツ</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> スポーツニッポン</td> <td><input type="checkbox"/> スポーツ報知</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> デイリースポーツ</td> <td><input type="checkbox"/> 東京スポーツ</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> タ刊フジ</td> <td><input type="checkbox"/> タ刊ゲンダイ</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> その他</td> <td><input type="checkbox"/> 読まない</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/> 日刊スポーツ	<input type="checkbox"/> サンケイスポーツ	<input type="checkbox"/> スポーツニッポン	<input type="checkbox"/> スポーツ報知	<input type="checkbox"/> デイリースポーツ	<input type="checkbox"/> 東京スポーツ	<input type="checkbox"/> タ刊フジ	<input type="checkbox"/> タ刊ゲンダイ	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 読まない								
<input type="checkbox"/> 日刊スポーツ	<input type="checkbox"/> サンケイスポーツ																		
<input type="checkbox"/> スポーツニッポン	<input type="checkbox"/> スポーツ報知																		
<input type="checkbox"/> デイリースポーツ	<input type="checkbox"/> 東京スポーツ																		
<input type="checkbox"/> タ刊フジ	<input type="checkbox"/> タ刊ゲンダイ																		
<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 読まない																		
<p>16) 漫画雑誌を何種類購読していますか？</p>	<p>_____ 種類 <input type="checkbox"/> 購読していない</p>																		
<p>17) 右の各テレビ局のニュースを、 一日でどれくらい見ますか？</p>	<table border="0"> <tr> <td>NHK</td> <td>を</td> <td>約 _____ 時間 _____ 分</td> </tr> <tr> <td>日本テレビ系</td> <td>を</td> <td>約 _____ 時間 _____ 分</td> </tr> <tr> <td>TBS 系</td> <td>を</td> <td>約 _____ 時間 _____ 分</td> </tr> <tr> <td>フジテレビ系</td> <td>を</td> <td>約 _____ 時間 _____ 分</td> </tr> <tr> <td>朝日系</td> <td>を</td> <td>約 _____ 時間 _____ 分</td> </tr> <tr> <td>テレビ東京系</td> <td>を</td> <td>約 _____ 時間 _____ 分</td> </tr> </table>	NHK	を	約 _____ 時間 _____ 分	日本テレビ系	を	約 _____ 時間 _____ 分	TBS 系	を	約 _____ 時間 _____ 分	フジテレビ系	を	約 _____ 時間 _____ 分	朝日系	を	約 _____ 時間 _____ 分	テレビ東京系	を	約 _____ 時間 _____ 分
NHK	を	約 _____ 時間 _____ 分																	
日本テレビ系	を	約 _____ 時間 _____ 分																	
TBS 系	を	約 _____ 時間 _____ 分																	
フジテレビ系	を	約 _____ 時間 _____ 分																	
朝日系	を	約 _____ 時間 _____ 分																	
テレビ東京系	を	約 _____ 時間 _____ 分																	

以上です。ご協力、ありがとうございました。

ものごとの好みや考え方 についての アンケート調査

- ◆ このアンケートは、
物事に対する好みや考えについてのものです。
- ◆ それぞれの質問をよくお読みになった上で、
直感的に、あてはまるところの口に✓をつけてください。
- ◆ データは統計的に処理し、研究のみに使用いたします。
他の目的には一切使用いたしません。

(1-2-2)

質問 1 あなたの**価値観**についておたずねします。

ここでは、以下に示した a.~w.までの「価値」が、**あなたの人生においてどれだけ重要か**、を答えていただきます。以下の手順に従って、それぞれの「価値」について、-1~7 のなかから当てはまるものをお選びください。

まず最初に

a.~w.の「価値」の中で、**最も重要**だと思うものを一つ選び、それについて、「**7**」の欄に✓を書き入れてください。

その次に

a.~w.の「価値」の中で、**自分の価値観に反している**と思うものをいくつでも結構ですの
で選んで、その全てについて「**-1**」の欄に✓を書き入れてください。

(注：もし、自分の価値観に反するものが無ければ、自分にとって全く重要でない価値をいくつでも結構ですので選び、その程度に応じて該当する「価値」について「**0**」か「**1**」の欄を選択してください)

最後に

まだ残っている「価値」のそれぞれについて、その重要さに応じて「**0**」~「**6**」の欄に✓を書き入れてください。その際以下の基準を参考にしてください。

- 「0」・・・自分にとって全く重要な価値ではない
- 「3」・・・自分にとって重要な価値である
- 「6」・・・自分にとって非常に重要な価値である

(1-2-3)

自分にとって全く重要な価値ではない

自分にとって非常に重要な価値である

自分の価値観に反している

自分にとって重要な価値である

最も重要

	-1	0	1	2	3	4	5	6	7
a. 社会的な正義 (不正を正す、弱者の保護)									
b. 寛容さ (他者を許そうとする気持ち)									
c. 汚染の防止 (天然資源の保護)									
d. 真の友情 (親しい理解ある友人)									
e. 社会的な勢力 (他者に対する優位・支配性)									
f. 公平さ (全ての機会の平等)									
g. 忠誠心 (自分の友人に対する信用)									
h. 好奇心 (あらゆるものにたいする興味、探究心)									
i. 自然との調和 (自然との適応)									
j. 所属意識 (自分の助けとなる友人の存在を感じる)									
k. 影響力 (人々や物事に対する影響力)									
l. 世界平和 (戦争と紛争の除去)									
m. 従順さ (礼儀正しさ、義務を果たすこと)									
n. 変化に富んだ性質 (挑戦、珍しさの変化)									
o. 地球の尊重 (他の生き物との調和)									
p. 自己鍛錬 (自己抑制、誘惑への忍耐)									
q. 富 (物質的財産、金銭)									
r. 環境保護 (自然保護)									
s. 家族の安全 (愛する人の安全)									
t. 権力 (支配や命令の権利)									
u. 両親や年長者の尊重 (敬意の表明)									
v. 刺激的な生活 (刺激的な経験)									
w. 正直さ (純粋、誠実さ)									

3

(1-2-4)

質問2 二人の分け前を決める次のような9つの仮想的な場合(選択)を想定してください。
どれが良いかを直感的に一つ選んでA、B、Cいずれかに○をつけてください。

選択1	A. あなたの取り分が 480 で、相手の取り分が 80 。 B. あなたの取り分が 540 で、相手の取り分が 280 。 C. あなたの取り分が 480 で、相手の取り分が 480 。
選択2	A. あなたの取り分が 600 で、相手の取り分が 340 。 B. あなたの取り分が 540 で、相手の取り分が 540 。 C. あなたの取り分が 540 で、相手の取り分が 140 。
選択3	A. あなたの取り分が 520 で、相手の取り分が 520 。 B. あなたの取り分が 520 で、相手の取り分が 120 。 C. あなたの取り分が 580 で、相手の取り分が 320 。
選択4	A. あなたの取り分が 490 で、相手の取り分が 90 。 B. あなたの取り分が 550 で、相手の取り分が 290 。 C. あなたの取り分が 490 で、相手の取り分が 490 。
選択5	A. あなたの取り分が 530 で、相手の取り分が 270 。 B. あなたの取り分が 470 で、相手の取り分が 470 。 C. あなたの取り分が 470 で、相手の取り分が 70 。
選択6	A. あなたの取り分が 500 で、相手の取り分が 500 。 B. あなたの取り分が 500 で、相手の取り分が 100 。 C. あなたの取り分が 560 で、相手の取り分が 300 。
選択7	A. あなたの取り分が 510 で、相手の取り分が 510 。 B. あなたの取り分が 570 で、相手の取り分が 310 。 C. あなたの取り分が 510 で、相手の取り分が 110 。
選択8	A. あなたの取り分が 520 で、相手の取り分が 260 。 B. あなたの取り分が 460 で、相手の取り分が 60 。 C. あなたの取り分が 460 で、相手の取り分が 460 。
選択9	A. あなたの取り分が 530 で、相手の取り分が 130 。 B. あなたの取り分が 530 で、相手の取り分が 530 。 C. あなたの取り分が 590 で、相手の取り分が 330 。

質問 3 それぞれの文章について、あなたに最も当てはまるものを 1 つずつお選び下さい。	
1) 私は、将来のことをよく考えて、 それをもとに日々の行動を決めている。	<div>全く思わない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>とてもそう思う</div>
2) 私はよく、「すぐに結果の出ないような事」でも、 実行する。	<div>全く思わない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>とてもそう思う</div>
3) 私は、将来のことを考えて、 目先の幸せを犠牲にすることができる。	<div>全く思わない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>とてもそう思う</div>
4) 「将来の問題」は将来、解決されるであろうから、 気にする必要はない。	<div>全く思わない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>とてもそう思う</div>
5) 「将来の問題」のために、 今を犠牲にする必要はない。	<div>全く思わない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>とてもそう思う</div>
6) 将来のことは、その時になって考えればよい。 今は目先のことが重要である。	<div>全く思わない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>とてもそう思う</div>

(1-2-6)

質問4 以下のことがらについて、

自分自身にどれくらいあてはまるかを、右の口の中から1つ選んで下さい。

1) 世の中は 驚き に満ちていると感じる。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
2) 自分自身 への 要求 が多い方だ。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
3) 自分は進んで 義務 や 困難 を負う方だ。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
4) 自分個人の「 好み 」が社会に反映されるべきだと思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
5) 自分を拘束するのは 自分だけ だと思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
6) 伝統的な事柄 に対して敬意・配慮を持っている。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
7) 我々には、 伝統 を受け継ぎ、改良を加え、伝承していく 義務 があると思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
8) 日々の日常生活は、 感謝すべき対象 で満たされている。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
9) 自分のことを、 自分以外のものに委ねる ことは一切許されないことだと思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
10) もしも 奉仕すべき対象 がなくなれば、 生きている意味 がなくなるのではないと思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
11) 物事の背景 にあることには、あまり興味がない。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
12) 「 ものの道理 」には、あまり興味がない。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
13) 私は、どんな時でも 勝ち続ける のではないかと何となく思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
14) どんなときも自分を信じて、 他人の言葉 などに耳を貸すべきではない、と思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>

(1-2-7)

15) 自分の意見が 誤っている 事などない、と思う。	全くあてはまらない ← どちらとも言えない → 非常にあてはまる <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
16) 人は人、自分は自分 、だと思う。	全くあてはまらない ← どちらとも言えない → 非常にあてはまる <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
17) 日本が 将来なくなる可能性 は、皆無ではないと思う。	全くあてはまらない ← どちらとも言えない → 非常にあてはまる <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
18) 道徳や倫理などというものから、 自由に生きていきたい と思う。	全くあてはまらない ← どちらとも言えない → 非常にあてはまる <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
19) 世の中の問題は、 技術 ですべて解決できると思う。	全くあてはまらない ← どちらとも言えない → 非常にあてはまる <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

以上です。ご協力、ありがとうございました。

社会意識についてのアンケート調査

- ◆ このアンケートは、
社会や社会における自己の意識についてのものです。
- ◆ それぞれの質問をよくお読みになった上で、
直感的に、あてはまるところの口に✓をつけてください。
- ◆ データは統計的に処理し、研究のみに使用いたします。
他の目的には一切使用いたしません。

(1-3-2)

質問1 人との関わり方についておたずねします。

あなた自身にどれくらいあてはまるか、右の口の中から1つ選んでください。

1) 自分の個性を活かそうと努めている。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
2) 小さなことも自分ひとりでは決められない。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
3) 社会のルールに従って生きていると思う。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
4) なにか良くないことがあると、 すぐ自分のせいだと考えてしまう。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
5) 自分が満足していれば、人が何を言おうと気にならない。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
6) 人の目ばかり気にして、自分を失いそうになることがある。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
7) 困ったことがあると、すぐ人に頼ってしまう。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
8) 周りと反対でも、自分が正しいと思うことは主張できる。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
9) 自分中心に考えることが多い。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
10) 何かを決める場合、周りの人に合わせるが多い。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
11) 個性が強すぎて、人とよくぶつかる。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
12) 人に対しては誠実であるように心掛けている。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
13) 何ごとでも独断で決めることが多い。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>
14) 他の人の気持ちになることができる。	<div> <div>あてはまらない</div> <div>←</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>□</div> <div>→</div> <div>あてはまる</div> </div>

(1-3-3)

15) 人に合わせるよりは、 たとえ孤独であっても 自由 なほうがよい。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
16) 相手の顔色 をうかがうことが多い。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
17) 自分の 生きべき道 がみつからない。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
18) 社会（周りの人）の中で自分が果たすべき 役割 がある。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
19) 自分の信念 に基づいて生きている。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
20) 人とのつながり を大切にしている。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
21) 人の先頭に立つよりも、 多少がまんしてでも 相手に従う ほうだ。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
22) 自分の性格は わがまま だと思う。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
23) 自分の 心 に正直に生きている。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
24) 周りのことを考えず、 自分の思ったまま に行動することがある。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
25) 他の人から 尊敬 される人間になりたい。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
26) 他人に 恥ずかしくない ように生きている。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
27) 周りとの 調和 を重んじている。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
28) 自分が本当に 何をやりたいのか わからない。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
29) 人前では 見せかけの自分 をつくってしまう。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>
30) 社会（周りの人）のために 役に立つ人間 になりたい。	<div>あてはまらない</div> <div>← □ □ □ □ □ →</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>あてはまる</div>

(1-3-4)

質問2 仕事やお金、日々の態度についておたずねします。

次のそれぞれのことがらをどれぐらい強く思うか、口の中から1つ選んで下さい。

1) 社会のためになる大切な仕事だと思うなら、 たとえ 全く人に評価されなくても 、取り組もうと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
2) もし自分が「公」の仕事に携わるのなら、 自分の利益のことを考えてはいけない 、 と強く感ずるであろうと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
3) 常に志を高くもって、 自分を律しながら 生きていこうと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
4) 自分の 損得に関わらず 、 それが「正しいこと」である以上はそれをすべきだと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
5) 余計な争いを避けるために、 とにかく愛想よくしているのが一番だ と思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
6) どんなことでも、まずは 自分の損得 を考えてから 行動すべきだ、と思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
7) 常に「 謙虚 」であることが、極めて重要だと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
8) 損得はさておき 、それがすべきことであるのなら、 それをしなければならない、と思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
9) 昔の人の言動 には学ぶべきところが多い、と思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
10) せっかく働くのなら、 是非とも、 地位や名誉 を手に入れたいと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
11) 正直に言って、お金儲けができるなら、 法律に触れない限りは何をやってもいい 、と思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
12) 人に「 媚び 」を売ってばかりいるような人生なら、 たとえお金持ちで楽ができて、 生きている意味は全くない と思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
13) 環境や社会に変わって欲しいと願うのなら、 まずは、 自分が変わる ことが先決だと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>

(1-3-5)

14) 相手の立場に立って考え、 他人をいたわる心を持つことが、極めて重要だと思う。	<div> <div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
15) 次の世代への構渡しとなるような仕事をしたい、と思う。	<div> <div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
16) 正直に言って、何をやるにしても、 それで自分が得できるかどうか、最も重要だと思う。	<div> <div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
17) できるだけ「悪いこと」をしないで、 「善いこと」をしようと思う。	<div> <div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
18) 些細な仕事でも、 精魂込めて誠実に取り組んでいこうと思う。	<div> <div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
19) 他人を評価する時に最も重要なのは、 その人が「どれくらい誠実なのか」という点だと思う。	<div> <div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
20) なにかしら崇高な思想をもって、 社会と関わっていきたいと思う。	<div> <div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
21) せっかく働くのなら、 できるだけ、お金を儲けたいと思う。	<div> <div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>

(1-3-6)

質問3 あなたの**生き方**についておたずねします。

次のそれぞれのことがらをどれぐらい強く思うか、□の中から1つ選んで下さい。

1) 努力を惜まずに、自分のできることに向かって 完全燃焼 しようと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
2) 他人には 誠実な心 をもって接していこうと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
3) 何事も人間ひとりの力で出来るものでないから、 お互いの 協力 を大事にしようと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
4) 何事にも 興味と好奇心 を持って接しようと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
5) 自分の中に 好まない面 を見つけたら、 隠すよりも 良くしていこう と思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
6) 自分のやるべきことは 責任 を持ってやり遂げようと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
7) 義務や責任 を進んで果たそうと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
8) 今 という時を大切にしようと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
9) 他者との関わり を大事にしようと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
10) 時間や物を 無駄にしない ようにしようと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
11) 自分のやることに 最善の努力 を尽くそうと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
12) 将来に 希望と期待 を抱いていこうと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
13) 他人を ないがしろにすべきではない と思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>
14) 出来るだけ 多くの物事 を見聞きしようと思う。	<div>全く思わない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>とてもそう思う</div> <div>← □ □ □ □ →</div>

(1-3-7)

15) 自分の欲求のためには 他人に迷惑をかけてもかまわないと思う。	全く思わない	どちらとも言えない	とてもそう思う		
	←				→
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

以上です。ご協力、ありがとうございました。

(1-4-1)

書籍『代表的日本人』に登場する人物についておたずねします。

あてはまるものを1つ選んでください。

- 1) 老齢のために一人前の仕事はほとんどできないものの、見栄えもせず骨の折れる作業を、寸暇を惜しんで行う人物がいた。これに対して、多額の報酬をもってその誠実な態度を評価した“農民道徳家”はだれか。

☐西郷隆盛 ☐上杉鷹山 ☐二宮尊徳 ☐中江藤樹 ☐日蓮上人

- 2) 愛する母親との生活を望んで故郷に帰った後、徳を積むことを大前提とした教育を説いた。近江の聖人と記されたこの人物はだれか。

☐西郷隆盛 ☐上杉鷹山 ☐二宮尊徳 ☐中江藤樹 ☐日蓮上人

- 3) ひとの家を訪れるときは中の方へ声をかけず、その入り口に立ったままで、だれかが偶然出て来て自分を見つけてくれるまで待っていた人物とはだれか。

☐西郷隆盛 ☐上杉鷹山 ☐二宮尊徳 ☐中江藤樹 ☐日蓮上人

- 4) 当時の権力者や既成の宗教に反発したために、死刑の宣告を受けたものの、まさにその執行直前に刑を免れたと言われている人物はだれか。

☐西郷隆盛 ☐上杉鷹山 ☐二宮尊徳 ☐中江藤樹 ☐日蓮上人

- 5) 儒学者細井(平洲)を師と仰ぎその儒教の教えるところに従い、困窮する藩内の産業改革にあたっては、家臣を有徳な人間に育てることを目的の中心においた藩主はだれか。

☐西郷隆盛 ☐上杉鷹山 ☐二宮尊徳 ☐中江藤樹 ☐日蓮上人

(1-4-2)

書籍『You Tube 革命』に書かれていたことについておたずねします。

あてはまるものを1つ選んでください。

- 1) ブログやミクシィなどのSNS、そしてユーチューブのように、消費者の手によってコンテンツが生成されるメディアのことをCGM（コンシューマ・ジェネレーテッド・メディア）と呼ぶことがある。
著者はこれにならい、消費者が勝手につくれる広告のことをCGCM（コンシューマ・ジェネレーテッド・コマーシャル）と呼んだ。その代表例（実際に消費者の購買意欲を刺激した例）として挙げられていたのは以下のどれか。

☐ バン食い競争 ☐ メントス&コーク ☐ 指リフティング
☐ ギター選手権 ☐ ラジコンバトル

- 2) 最近テレビCMの最後に「〇〇で検索」のような画面を見ることが多い。これはキーワードの入力によって特設サイトへの誘導を促す販促キャンペーンのひとつであるが、その一例として紹介されていた企業あるいは商品は以下のどれか。

☐ ポッキー ☐ 明治生命 ☐ バイク王 ☐ アロエヨーグルト ☐ テンプスタッフ

- 3) ツールを問わずあらゆる動画が鑑賞・保存ができるようになり、受け手としてだけでなく自らの手によって発信することも可能になる。このような価値転換を、主に著者はなんと表現したか。

☐ 動画 2.0 ☐ テレビ 2.0 ☐ You Tube 革命 ☐ 映像流通革命 ☐ テレビ革命

- 4) CDのプロモーションで渋谷HMVに訪れた際に、ユーチューブなどの無料動画サービスにおける広告的有用性を狙って、「携帯やデジカメによる撮影の制限はありません」という異例の前説を行った人物は誰か。

☐ ジェシカ・シンプソン ☐ ジャネット・ジャクソン ☐ バリス・ヒルトン
☐ アヴリル・ラヴィーン ☐ クリスティーナ・アギレラ

- 5) 2006年に国内向けのインターネットCMに参入したスポーツメーカーとして紹介されていたのはどこか。

☐ ミスノ ☐ アディダス ☐ ナイキ ☐ チャンピオン ☐ プーマ

(1-5-1)

お読みいただいた書籍および書籍全般についておたずねいたします。

1) 第2回のアンケート調査にあたってお読みいただいた書籍を、周囲の人に薦めることができましたか。

☐ はい

☐ いいえ

2) お読みいただいた書籍をきっかけに、関連するようなもの（情報・書籍等）に興味を抱きましたか。

☐ はい

☐ いいえ

3) 普段、本をどれくらいお読みになりますか。

☐ よく読む

☐ たまに読む

☐ ほとんど読まない

4) どのような種類の本を好んでお読みになりますか。（複数回答可）

☐ 小説

☐ 歴史・伝記

☐ 社会問題

☐ 技術・情報

☐ 哲学・思想

☐ その他

(2-1-1)

暮らしやものごとの考え方についてのアンケート

調査票 ①

質問1. あなた自身のことについてお聞きます。

1) 年 齢	_____ 歳
2) 性 別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
3) 学 年	<input type="checkbox"/> 学部 <input type="checkbox"/> 修士 <input type="checkbox"/> 博士 _____ 年生
4) 現住所	_____ ※市区町村まで
5) 出身地	_____ ※市区町村まで
6) 出身地の居住年数	_____ 年

質問2. あなた子ども時代の生活についてお聞きます。

1) 子どものころ 家庭内で 礼儀作法 についてしつけられましたか？	全くしつけられなかった どちらとも言えない 厳しくしつけられた ← □ □ □ □ □ □ □ →
2) 子どものころ 「おはよう」「いただきます」といった 家庭内のあいさつ をしっかりとしましたか？	全くしなかった どちらとも言えない いつもしていた ← □ □ □ □ □ □ □ →
3) 子どものころ 親にしかられること はよくありましたか？	全くなかった どちらとも言えない たびたびあった ← □ □ □ □ □ □ □ →
4) 子どものころ 家の手伝い をふだんしていましたか？	全くしなかった どちらとも言えない よくしていた ← □ □ □ □ □ □ □ →
5) 子どものころ 「節分」「ひな祭り」「端午の節句」などの 季節の行事 を家庭内でよく行っていましたか？	全く行っていなかった どちらとも言えない よく行っていた ← □ □ □ □ □ □ □ →
6) 子どものころ 親子間の会話 は多かったと思いますか？	全くなかった どちらとも言えない 非常に多かった ← □ □ □ □ □ □ □ →

(2-1-2)

質問3. 以下のことからについて、

自分自身にどれくらいあてはまるかを、右の口の中か 1 つ選んでください。

1)	自分を拘束するのは 自分だけ だと思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
2)	自分の意見が 誤っている ことなどないと思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
3)	私は、どんな時でも 勝ち続ける のではないかと、と何となく思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
4)	自分個人の「 好み 」が、社会に反映されるべきだと思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
5)	どんなときも自分を信じて、 他人の言葉 などに耳を貸すべきではないと思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
6)	伝統的な事柄 に対して敬意・配慮をもっている。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
7)	日々の日常生活は 感謝すべき対象 で満たされている。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
8)	世の中は 驚きに満ちている と感じる。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
9)	我々は、 伝統 を受け継ぎ、改良を加え、 伝承 していく 義務 があると思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
10)	自分自身 への 欲求 が多いほうだ。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
11)	他人と関わるときは、まず 相手の“あり方” を知ろうとすべきだと思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>
12)	他の地域のことを考えるときは、まず 地域の“あり方” を知ろうとすべきだと思う。	<div> <div>全くあてはまらない</div> <div>どちらとも言えない</div> <div>非常にあてはまる</div> </div> <div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div>

ご協力ありがとうございます。引き続き、調査票②にお進みください。

(2-2-1)

ボランティア活動についてのアンケート

調査票 ②

このアンケートでは「ボランティア活動」についてお聞きします。

「ボランティア活動」とは、

●**寄付金等による支援ではなく、具体的な“働き”を（原則として）無償で行う全ての「活動」**を指します。具体的には、

○「身近な地域」のものとして…

：清掃活動や地域づくり（まちづくり的活動）、高齢者・障がい者・子どもの支援（福祉的活動）など

○「離れた地域」のものとして…

：援農、除雪支援など

が挙げられます。これを踏まえて、以下の質問にご回答ください。

質問1. ボランティア活動についてお聞きします。

1)	これまで、「ボランティア活動」に参加したことがありますか？	<input type="checkbox"/> ある（ ____ 回くらい） <input type="checkbox"/> ない
2)	<p>※1)で「ある」と回答した方にお聞きします。</p> <p>どのような種類のボランティア活動に参加しましたか？</p> <p>●あてはまるもの全てに✓をしてください</p> <div><input type="checkbox"/>身近な清掃活動（公園・道路などの身近な場所）</div> <div><input type="checkbox"/>遠方での清掃活動（自宅から離れた、公園・山林など）</div> <div><input type="checkbox"/>公的な場所（駅・市民会館等）での高齢者・障がい者の介助</div> <div><input type="checkbox"/>特定の施設や自宅訪問による高齢者・障がい者の介助</div> <div><input type="checkbox"/>観光案内などの支援 <input type="checkbox"/>農作業支援 <input type="checkbox"/>酪農支援 <input type="checkbox"/>林業支援</div> <div><input type="checkbox"/>漁業支援 <input type="checkbox"/>お祭りなどの伝統的な地域イベントの支援</div> <div><input type="checkbox"/>音楽・芸術祭などの文化的イベントの支援 <input type="checkbox"/>環境保護に資するイベント・活動の支援</div> <div><input type="checkbox"/>その他（ _____ ）</div>	
3)	今後、 趣旨に賛同 できる「ボランティア活動」があれば、 参加しよう と思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
4)	「ボランティア活動」への参加に 費用（自己負担） がかかるとき、それが活動に必要な経費として適切に定められたものであれば、 支払ってもよい と思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
5)	「ボランティア活動」に参加する際に、お金以外での何かしらの インセンティブ（メリット） があれば、より 参加しやすい と思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う

6)	あなたにとって、 「ボランティア活動」に携わることは、 可能 だと思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
7)	あなたは、自分自身が 「ボランティア活動」に携わることによって、 実際に問題解決などに 大きく貢献 することができます と思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
8)	あなたには、 「ボランティア活動」に取り組む 責任 がある と思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
9)	あなたは、 「ボランティア活動」に 興味 がありますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
10)	あなたは、 どんなに 嫌な気分 のときでも、 「ボランティア活動」に携わることによって、 そのことを 忘れる ことができますと思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
11)	あなたは、 「ボランティア活動」に携わることによって、 孤独感を感じないで済む と思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
12)	あなたは、 「ボランティア活動」に携わることによって、 自分が他の人よりも幸福であることの 罪悪感 が 和らぐ と思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
13)	あなたは、 「ボランティア活動」に携わることによって、 あなた自身の個人的な 煩わしいこと から 逃れられ ると思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
14)	あなたにとって、 「ボランティア活動」に携わることは、 あなた自身の 個人的な問題 を 解決 するのに役立つ ものだと思いますか？	<input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> 少しそう思う <input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> とても強くそう思う
15)	あなたは、 時間的 に見て、どの程度 ゆとり があると思いますか？	全くない どちらとも書えない 非常にある ← □ □ □ □ □ →
16)	あなたは、 経済的 に見て、どの程度 ゆとり があると思いますか？	全くない どちらとも書えない 非常にある ← □ □ □ □ □ →

(2-2-3)

<p>17) あなたは、「ボランティア活動」に関わることで、以下の項目をどの程度感じますか？ (感じると思いますか？)</p> <p>また、「ボランティア活動」に関わることで、以下項目が生じることを、望ましいことだと思えますか？</p>	<p>(記入例)</p> <p>全く感じない どちらとも言えない 非常に感じる</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p> <p>全く望ましくない どちらとも言えない 非常に望ましい</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p>
<p>○自分の自由な時間が少なくなる (両方の間にお答えください)</p>	<p>全く感じない どちらとも言えない 非常に感じる</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p> <p>全く望ましくない どちらとも言えない 非常に望ましい</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p>
<p>○仕事をこなすのが大変だ (両方の間にお答えください)</p>	<p>全く感じない どちらとも言えない 非常に感じる</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p> <p>全く望ましくない どちらとも言えない 非常に望ましい</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p>
<p>○人間関係のストレスがある (両方の間にお答えください)</p>	<p>全く感じない どちらとも言えない 非常に感じる</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p> <p>全く望ましくない どちらとも言えない 非常に望ましい</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p>
<p>○友人、ネットワークを得ることができる (両方の間にお答えください)</p>	<p>全く感じない どちらとも言えない 非常に感じる</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p> <p>全く望ましくない どちらとも言えない 非常に望ましい</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p>
<p>○自分の生き方に関する考え方が変わる (両方の間にお答えください)</p>	<p>全く感じない どちらとも言えない 非常に感じる</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p> <p>全く望ましくない どちらとも言えない 非常に望ましい</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p>
<p>○「ボランティア活動」に携わるための技術・方法を学ぶことができる (両方の間にお答えください)</p>	<p>全く感じない どちらとも言えない 非常に感じる</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p> <p>全く望ましくない どちらとも言えない 非常に望ましい</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p>
<p>○自分が「ボランティア活動」に携わることで、事態が変わるかもしれないと思えるようになる (両方の間にお答えください)</p>	<p>全く感じない どちらとも言えない 非常に感じる</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p> <p>全く望ましくない どちらとも言えない 非常に望ましい</p> <p>← □ □ □ □ □ →</p>

(2-2-4)

質問2.「ボランティア活動」に対する周りの人々の意識についてお聞きます。

1)	あなたの周りの人々は、あなたが「ボランティア活動」に携わることを 喜ぶ と思いますか？	<div>全く思わない どちらとも言えない とてもそう思う</div> <div>← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →</div>
2)	あなたが「ボランティア活動」に携わることで、 関係する人々に喜んでもらえる と思いますか？	<div>全く思わない どちらとも言えない とてもそう思う</div> <div>← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →</div>
3)	あなたは、自分自身が「ボランティア活動」に携わることで、人々の 役に立つことに喜び を感じますか？	<div>全く感じない どちらとも言えない 非常に感じる</div> <div>← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →</div>
4)	あなたの周りの人々は、「ボランティア活動」に対して、 関心を寄せている と思いますか？	<div>全く思わない どちらとも言えない とてもそう思う</div> <div>← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →</div>
5)	あなたの周りの人々は、「ボランティア活動」に携わる人を、 高く評価している と思いますか？	<div>全く思わない どちらとも言えない とてもそう思う</div> <div>← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →</div>
6)	あなたの周りの人々は、「ボランティア活動」に携わることを、 重要なことだ と考えていると思いますか？	<div>全く思わない どちらとも言えない とてもそう思う</div> <div>← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →</div>
7)	あなたの周りの人々は、あなたが「ボランティア活動」に携わることに 賛成している と思いますか？	<div>全く思わない どちらとも言えない とてもそう思う</div> <div>← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →</div>
8)	あなたは、「ボランティア活動」の中で、周りの人々との 人間関係は良好である と思いますか？ ●「ボランティア活動をしていない」場合は、該当欄に✓つけてください。	<div>全く思わない どちらとも言えない とてもそう思う</div> <div>← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →</div> <hr/> <input type="checkbox"/> ボランティア活動をしていない
9)	あなたが「ボランティア活動」に携わるときに、 手助けをしてくれる人 は、どれくらいいると思いますか？	<div>全くいない どちらとも言えない たくさんいる</div> <div>← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →</div>
10)	「ボランティア活動」をしている場面、地域では、「ボランティア活動」に携わる人に対して 感謝する 傾向は、どれくらいあると思いますか？	<div>全く無い どちらとも言えない 非常にある</div> <div>← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →</div>

(2-2-5)

質問3. **ボランティア活動の経験がある人**にお聞きます。

「ボランティア活動」による意識や考え方の“変化”についてお聞きます。

1) ボランティアを経験して、 「自分を拘束するのは 自分だけだ 」 と思うようになりましたか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →
2) ボランティアを経験して、 「自分の意見が 誤っている ことなどない」 と思うようになりましたか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →
3) ボランティアを経験して、 「私は、どんな時でも 勝ち続ける のではない か」、と何となく思うようになりましたか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →
4) ボランティアを経験して、 人とつきあう時には「 謙虚さ 」が重要だ と感じましたか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →
5) ボランティアを経験して、 自分は人よりも 高い能力 があると、 確信しましたか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →
6) ボランティアを経験して、 「 伝統的な事柄 に対する敬意・配慮を感じる ようになった」と思いますか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →
7) ボランティアを経験して、 「日々の日常生活は 感謝すべき対象 で満たされ ている」と感じるようになりましたか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →
8) ボランティアを経験して、 「世の中は 驚きに満ちている 」 と感じるようになりましたか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →
9) ボランティアを経験して、 人の話 に耳を傾けることが大切だ、 と感じましたか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →
10) ボランティアを経験して、 自分は 我が道を行く べきなのだ、 と改めて感じましたか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →
11) ボランティアを経験して、 自分の役割 を考え、それを 引き受ける事 が大切 だ、と感じましたか？	全く思わない どちらとも書えない とてもそう思う ← □ □ □ □ □ →

(3-1)

観光（旅）についてアンケート

調査票 ③

質問1. 観光（旅）の好みなどについてお聞きます。

1) あなたは、観光（旅）が好きですか？	<input type="checkbox"/> 好きではない <input type="checkbox"/> 少しは好き <input type="checkbox"/> 好き <input type="checkbox"/> とても好き
2) あなたは、どの程度観光（旅）に行く機会があると思いますか？	全くない どちらとも言えない 非常にある ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
3) あなたは、都会と田舎では、どちらに行くのが好きですか？	<input type="checkbox"/> 都会 <input type="checkbox"/> 田舎
4) あなたは、基本的に、自分がどんな場所でも楽しめると思いますか？	全く思わない どちらとも言えない 強くそう思う ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
5) あなたは、実際に、ほとんどの場所で楽しめていると思いますか？	全く思わない どちらとも言えない 強くそう思う ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
6) あなたは、できるだけ早く目的地に着くことが重要だと思いますか？	全く思わない どちらとも言えない 強くそう思う ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
7) あなたは、できるだけ快適に目的地に向かうことが重要だと思いますか？	全く思わない どちらとも言えない 強くそう思う ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →

質問2. 観光（旅）での考え方などについてお聞きます。

1) 観光（旅）に行ったときには、できるだけ、その地域の“成り立ち”について、きちんと知りたいと思いますか？	全く思わない どちらとも言えない 強くそう思う ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
2) 観光（旅）に行ったときには、できるだけ、その地域の人と話す機会を多くしたいと思いますか？	全く思わない どちらとも言えない 強くそう思う ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
3) 観光（旅）に行ったときには、できるだけ、その地域の文化（伝統）に触れる機会を多くしたいと思いますか？	全く思わない どちらとも言えない 強くそう思う ← <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> →
4) あなたは、観光（旅）の中で見聞きしたことをきっかけに、自分の生活の在り方や考え方を“見つめる”ことがありますか？	<input type="checkbox"/> 全くない <input type="checkbox"/> 少しある <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> よくある

（裏面に続きます）

(3-2)

5)	あなたは、 観光（旅）の中で見聞きしたことをきっかけに、 自分の生活の在り方や考え方について“葛藤”する ことがありますか？	<input type="checkbox"/> 全くない <input type="checkbox"/> 少しある <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> よくある
6)	あなたは、 観光（旅）の中で見聞きしたことをきっかけに、 自分の生活の在り方や考え方に“変化”が生じる ことがありますか？	<input type="checkbox"/> 全くない <input type="checkbox"/> 少しある <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> よくある

◆ 学籍番号・お名前の記入をお願いします。

学籍番号

氏 名

ご協力ありがとうございました。